



DVDホームシアターサウンドシステム

DVX-S120

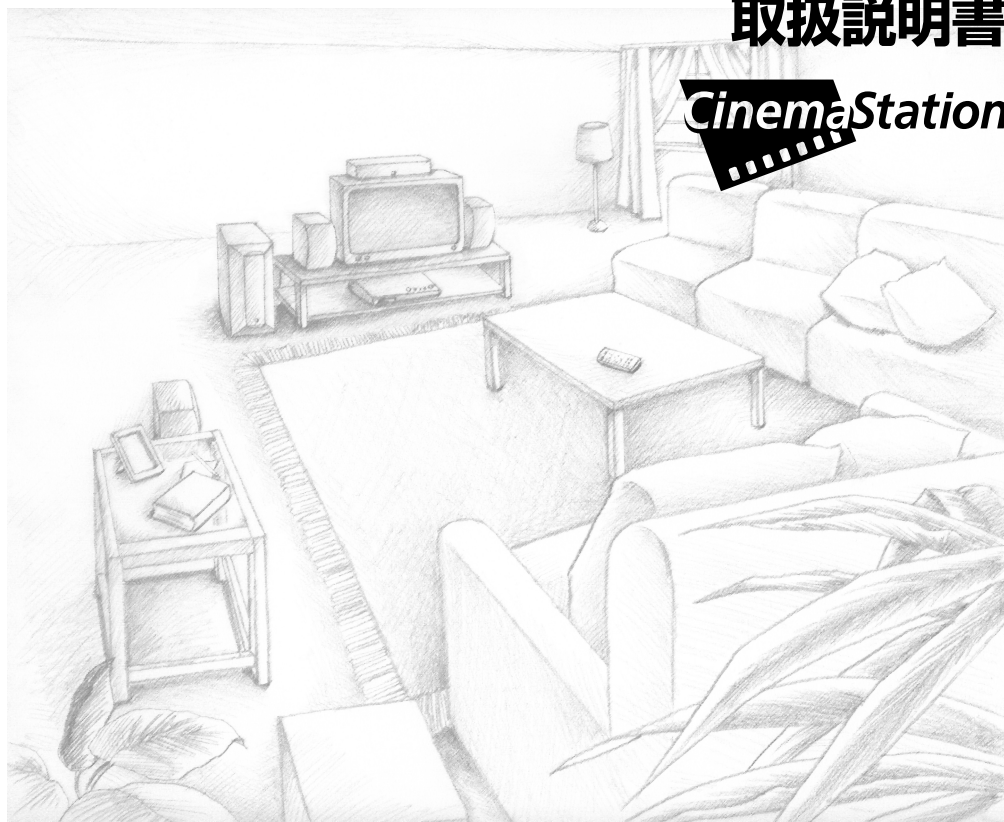
(DVR-S120 + NX-S120 + NX-C120 + NX-SW120)

DVDレシーバー

DVR-S120

取扱説明書

CinemaStation



ヤマハ DVD ホームシアターサウンドシステムDVX-S120 (DVDレシーバーDVR-S120) をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

シンプル接続が終わったら、もうそこはDVDワールド……

お気に入りのソファに座って、 さあ、ロードショーの開演です

まず準備しましょう！

➔P.6「準備しましょう」

スピーカーの場所を決めて、シンプル接続したら、もう準備はOKです。

- ・スピーカーとテレビをシネマステーションにつなぐだけのシンプル接続です。
- ・どれをどこに？面倒だったスピーカーの配線も色別コネクタでワンタッチ接続できます。

DVDをすぐ見ましょう！

➔P.10「さっそく使ってみましょう！」

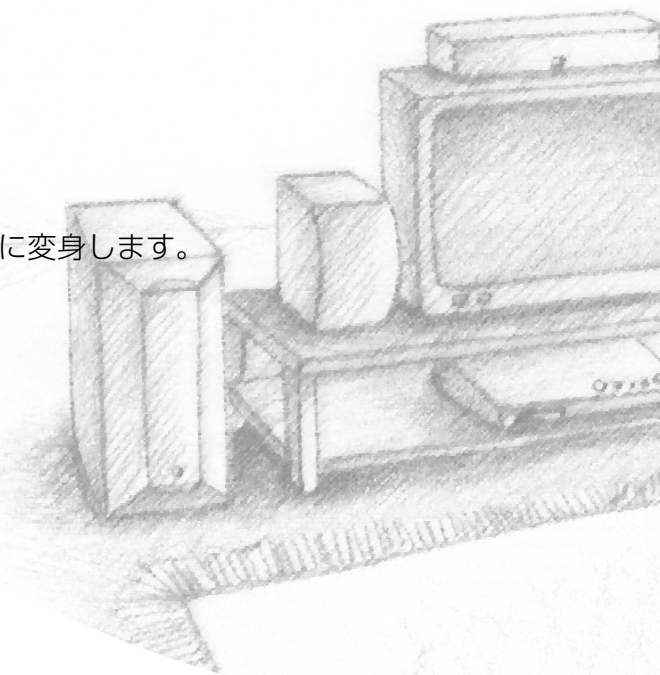
たった3ステップでお部屋はホームシアターに変身します。

● スピーカーとテレビをシネマステーションにつなごう

▼
● 再生しよう

▼
● 音場を選ぼう

- ・スペクタクル、SFX、コメディー…
映画に合った音場プログラムで圧倒的な
臨場感を体験できます。
- ・プログレッシブ出力で大画面でも
高画質映像を楽しめます。



ほかの機器をつないでもっと楽しみましょう！

➔P.44「シネマステーションにほかの機器をつないでみましょう」

- ・TVゲームを楽しむ／ビデオカメラのマイムービーを見る
TVゲームの軽快なノリをさらに加速し、迫力を与える音場プログラムが
用意されています。
- ・MDやCDRを聴く・録音する
- ・ビデオを見る・ダビングする

いろいろなディスクを楽しみましょう!

→P.28「DVDだけじゃない! いろいろなディスクで映像や音楽を楽しみましょう」

たった3ステップでCDからマイディスクまで楽しめます。

●スピーカーをシネマステーションにつなごう

▼
●再生しよう

▼
●音場を選ぼう

- ・ CDやビデオCD、MP3形式で録音したCD-Rなど、さまざまな種類のディスクを再生できます。再生機能満載で、楽しみ方も好み次第です。
- ・ ライブハウスの熱狂やコンサートホールの音響…
音楽に合った音場プログラムでリアルな音と雰囲気に含まれます。

FM/AM放送を聴きましょう!

→P.38「ラジオでFM放送やAM放送を聴きましょう」

たった2ステップでラジオ放送が楽しめます。

●スピーカーとアンテナをシネマステーションにつなごう

▼
●選局しよう

- ・ オート選局はもちろん、FM放送局のオートプリセットなど便利な機能がたくさんあります。

ワンランクアップして楽しみましょう!

→P.51「お部屋にあわせて最適なリスニング環境を作りましょう」

- ・ お部屋にあわせて最適なリスニング環境が作れます
- ・ バーチャルなリアセンタースピーカーによる、
これまでにない臨場感をお試しください…マトリクス6.1デコーダー
- ・ ヘッドホンでも臨場感を体験できます…「サイレントシアター」モード

目次

Basic

まずはDVDを再生してみましょう



Advance

さらにこんなこともできます



はじめに

本書の記載について P.6

準備しましょう

付属品を確認しましょう P.6

リモコンを準備しましょう P.7

スピーカーを準備しましょう P.7

スピーカーの設置場所を決めましょう P.7

スピーカーとテレビをシネマステーションにつなぎましょう P.8

さっそく使ってみましょう!

DVDを見ましょう! P.10

テレビの電源を入れましょう P.10

テレビの入力を切り替えましょう P.10

シネマステーションの電源を入れましょう P.10

DVDをセットしましょう P.10

入力をDVDにしましょう P.11

DVDを再生しましょう P.12

DVDを停止しましょう P.12

電源を切りましょう P.12

便利な機能 P.13

何語で見るか選びましょう P.13

字幕の言語を選びましょう P.13

画面を送ったり戻したりしましょう P.13

音の大きさを合わせましょう P.13

一時停止しましょう P.13

アングルを切り替えてみましょう P.14

“続き再生メモリー機能”を使いましょう P.14

こんなときは P.15

もっと臨場感豊かに鑑賞したい P.15

一時的に音を消したい P.15

子供が見るDVDを制限したい P.15

もっと高画質で楽しみたい P.15

どうしましたか? P.15

臨場感を体験しましょう!

最適な音場を選びましょう-見るもの、聴くものによって音場を変えてみましょう- P.16

使えばカンタン!操作方法を知りましょう

シネマステーションのキー名称や機能を知りましょう P.18

本体 P.18

ディスプレイ P.20

リモコンの役割を知りましょう P.21

アンブモードのキー名称と機能を知りましょう P.22

DVD/CDモードのキー名称と機能を知りましょう P.23

オンスクリーンメニューではこんなことができます P.24

見たい、聴きたい機器を選びましょう

なにを見ますか、なにを聴きますか? P.26

DVDだけじゃない!いろいろなディスクで映像や音楽を楽しみましょう

- いろいろな方法で再生してみましょう P.28
- 見たい場面や聴きたい曲を選びましょう P.28
- 好きな順序で再生しましょう(プログラム再生) P.31
- 繰り返し再生しましょう(リピート再生) P.34
- ディスクのメニューを使って再生してみましょう P.36
- MP3を再生してみましょう P.37

ラジオでFM放送やAM放送を聴きましょう

- アンテナをつなぎましょう P.38
- FM簡易アンテナをつなぎましょう P.38
- AMループアンテナをつなぎましょう P.38
- ラジオを聴いてみましょう P.39
- ラジオを選びましょう P.39
- 放送局を選びましょう P.39
- 放送局を登録しましょう(プリセット) P.41
- 登録した放送局を選びましょう(プリセット選局) P.43
- 登録した放送局を入れ替えましょう P.43

シネマステーションにほかの機器をつないでみましょう

- 映像機器をつないでみましょう P.44
 - シネマステーションにビデオデッキやTVゲーム機をつないでみましょう P.44
 - ビデオデッキを再生してみましょう P.46
 - TVゲームやビデオカメラを再生してみましょう P.47
 - ビデオカメラからビデオデッキにダビングしてみましょう P.47
- 音声機器をつないでみましょう P.48
 - シネマステーションにMDレコーダーやCDレコーダーをつないでみましょう P.48
 - シネマステーションの音を録音してみましょう P.50

お部屋にあわせて最適なリスニング環境を作りましょう

- スピーカー(NX-P120)を設置しましょう P.51
 - センタースピーカーをテレビの上に設置しましょう P.51
 - サブウーファーを設置しましょう P.51
 - フロントとサラウンドスピーカーを設置しましょう P.52
 - 市販のスピーカーやスピーカーケーブルも使えます P.54
- スピーカーの音量レベルを調節しましょう P.56
 - スピーカーバランスをテストトーンで調節しましょう P.56
 - 再生中にスピーカーの音量レベルを調節しましょう P.58
- 使用するスピーカーとサイズを決めましょう P.60
 - スピーカーモードを設定しましょう P.60

いろいろな音場(サラウンド)効果を試みましょう

- 目的によって音場を使い分けましょう P.62
 - マトリクス6.1を楽しみましょう P.62
 - CDやビデオを再生するときもすべてのスピーカーから音を出して楽しみましょう P.64
 - フロントスピーカーだけで音場プログラムを楽しんでみましょう(バーチャルシネマDSP) P.66

- ヘッドホンで音場プログラムを楽しみましょう(サイレントシアター) P.67
- 小さな音量でも音場プログラムを楽しみましょう(ナイトリスニングモード) P.68
- 音場プログラムのディレイタイムを変更しましょう P.69
- ドルビーやDTSなどのオリジナルサウンドを忠実に再生してみましょう P.71
- CDなどの2チャンネルソースをそのまま楽しんでみましょう(ステレオ再生) P.72

入力信号を知りましょう

- 入力信号を知りましょう P.73
 - 再生している音の情報をチェックしましょう(入力信号情報表示) P.73
 - 入力モードを切り替えましょう P.75

シネマステーションはこんなこともできます

- おやすみ前に楽しみましょう(スリープタイマー) P.76
- 高画質な映像を楽しみましょう
 - プロGRESS機能を使おう- P.77
- お子さまが再生できないようにするには
 - 視聴制限を使おう- P.78
 - パスワードを設定し、視聴制限レベルを設定しましょう P.78
 - ディスクをロックしましょう P.80

シネマステーションのリモコンでテレビやビデオデッキ、またはMD/CDレコーダーを操作しましょう

- リモコンにテレビやビデオデッキ、またはMD/CDレコーダーの操作を記憶させましょう P.81
 - メーカーコードを設定しましょう P.81
 - 操作できる機能を知りましょう P.82
 - メーカーコード一覧表 P.83

セットメニューを使いましょう

- セットメニューを使いましょう P.85
 - セットメニュー一覧表 P.85
 - セットメニューを操作しましょう P.86

オンスクリーンメニューを使いましょう

- オンスクリーンメニューを使いましょう P.89
 - オンスクリーンメニューを操作しましょう P.89
 - オンスクリーンメニューの内容を知りましょう P.91

困ったときやもっと詳しく知りたいときには…

- 故障かな?と思ったら P.93
 - 全般 P.93
 - ディスク再生 P.96
 - FM/AM放送の受信 P.97
 - リモコン P.98
 - 用語解説 P.102
 - 索引 P.105
 - 主な仕様 P.107
- ヤマハホットラインサービスネットワーク 裏表紙

はじめに

お買い上げいただいたDVDホームシアターサウンドシステムDVX-S120は次の製品で構成されています

DVDレシーバー(DVR-S120) 1台	
スピーカーのセット(NX-P120)	サテライトスピーカー(フロント/サラウンドスピーカー)(NX-S120)4本 センタースピーカー(NX-C120) 1本 サブウーファー(NX-SW120) 1本

本取扱説明書はDVX-S120(DVR-S120とNX-P120のセット)を基本に説明しています。NX-P120以外のスピーカーをお使いになる場合は、あらかじめスピーカーのサイズと音量を設定してください。

→P.60「使用するスピーカーとサイズを決めましょう」

→P.56「スピーカーの音量レベルを調節しましょう」

本書の記載について

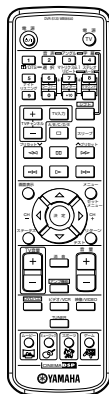
- **アドバイス** は操作上の補足的な説明や知っておくと便利な事項を示します。
- **お願い...** は、操作上必ず行っていただきたいポイントを示します。
- 本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。
- 本取扱説明書は製品開発に先がけ印刷されており、その後、操作性の向上、その他の理由により、製品仕様の一部が変更となることがあります。その場合は製品自体の仕様が優先されます。
- 説明の便宜上、文中のイラストや名称等が実際の製品や梱包箱等と異なる場合があります。

付属品を確認しましょう

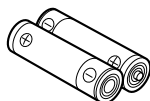
すべての付属品がそろっているか確認してください。

DVR-S120

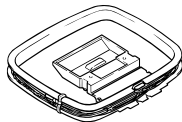
リモコン



単3乾電池 (2本)



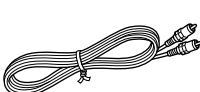
AMループアンテナ



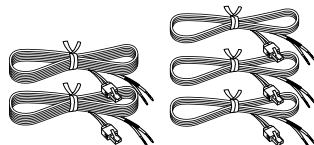
FM簡易アンテナ



ビデオ用ピンケーブル

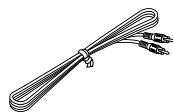


スピーカーケーブル
(サラウンド用: 15m (2本)、
フロント/センター用: 5m (3本))

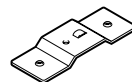


NX-P120: NX-S120、NX-C120、NX-SW120

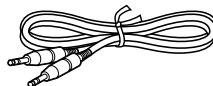
サブウーファー用
ピンケーブル
(1ピン、5m、1本)



取付金具
(フロント/サラウンド
スピーカー用、4個)



システム接続ケーブル
(5m、1本)



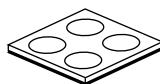
ネジ (M4 × 10)
(フロント/サラウンド
スピーカー用、4個)



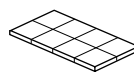
固定テープ
(センタースピーカー用、2個)



滑止パッド
(サブウーファー用、
1セット: 4個)

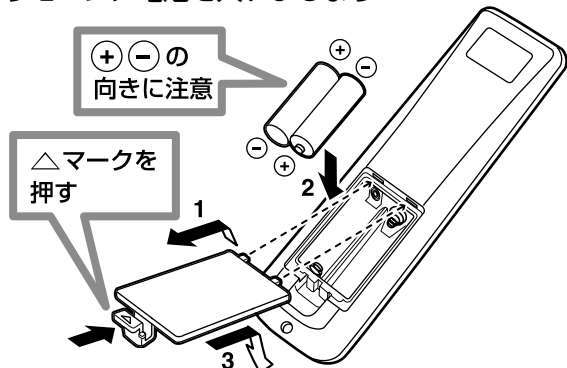


滑止パッド
(フロント/サラウンドスピーカー用、
2セット: 16個)



リモコンを準備しましょう

リモコンに電池を入れましょう



- 裏ぶたの △ マークを押しながら裏ぶたを取り外します。
- 付属の単3乾電池(2本)を、電池ケースに入れます。
- 裏ぶたを閉じます。

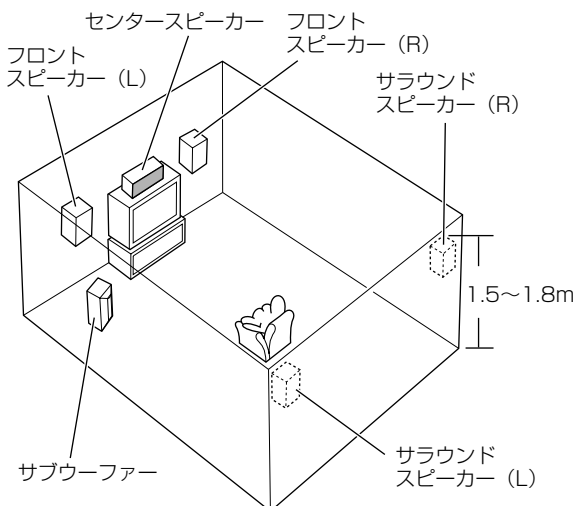
スピーカーを準備しましょう

フロントスピーカー、サラウンドスピーカー、センタースピーカー、サブウーファーは、どんな音を出すかによってそれぞれに役割があります。

- フロントスピーカーはフロントチャンネルの音声(ステレオ音声)と効果音を出します。
- サラウンドスピーカーはサラウンド音と効果音を出します。
- センタースピーカーは会話やボーカルなど画面中央に定位する音を出します。
- サブウーファーは低音を強調するだけでなく、ドルビーデジタルやDTS、AACに含まれるLFE信号を正確に再現することができます。

スピーカーの設置場所を決めましょう

スピーカーは下図のように配置してください。



フロントスピーカー(L、R)

ステレオ再生と同様に、左右のスピーカーを視聴位置から等距離に設置します。テレビ(モニター)は、左右のスピーカーの中央に設置してください。

センタースピーカー

フロントスピーカーの中間で、テレビ(モニター)の上や下などできるだけテレビ画面に近い場所に設置します。テレビ画面の中央線上の位置に、画面とスピーカーの前面をそろえて設置するとより理想的です。

サラウンドスピーカー(L、R)

後方斜め、スピーカーを視聴位置に向けて設置します。床に直接座って聴く場合は、床から約1.5m、椅子に座って聴く場合は、床から約1.8mの高さが適当です。

サブウーファー

前方左右どちらかの壁面寄り、壁の反射を防ぐために少し内向きに設置します。低音の聴こえ方は、スピーカーを置く位置と聴く位置の両方に影響されるので、設置する位置を変えてお試しください。

アドバイス

- 固定テープや滑止パッドを使って、センタースピーカーやフロント/サラウンドスピーカー、サブウーファーを設置できます。また、フロント/サラウンドスピーカーは壁に掛けたり、別売のスピーカースタンドに取り付けることもできます。→P.51「スピーカー(NX-P120)を設置しましょう」

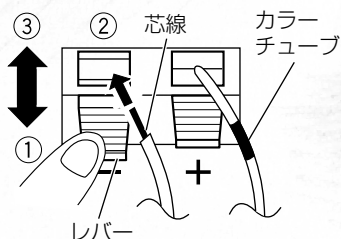
注意

- テレビ(モニター)の映像が乱れるときには、スピーカーをテレビ(モニター)から離して設置してください。

スピーカーとテレビをシネマステーションにつなぎましょう

お願い... 電源コードは最後につないでください。

先端にカラーチューブのついているほうを+側につなぎます。逆にすると音が不自然になってしまうので注意して！

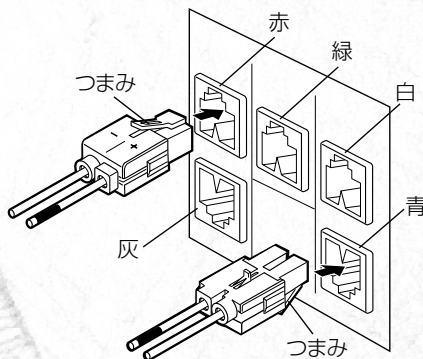


- ① レバーを下に押しながら
- ② 穴にスピーカーケーブルの芯線を差し込み
- ③ レバーを戻す。(指を離すとレバーが戻ります。)

フロント右スピーカー

スピーカーケーブル (赤)

同じ色どうしをつなぐだけ。カチッとハマればOKです。
赤、緑、白：つまみを上にして差し込む
灰、青：つまみを下にして差し込む

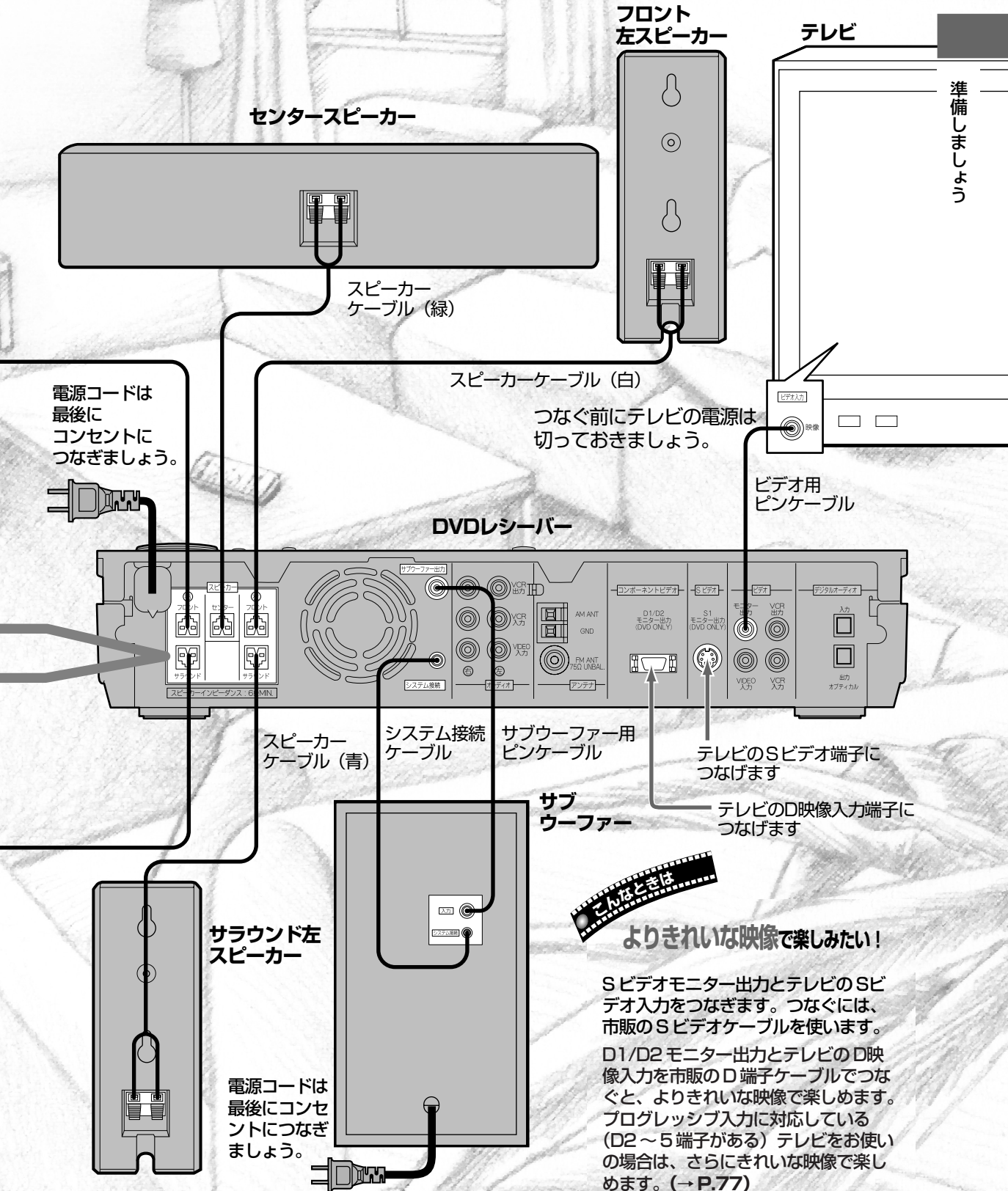


スピーカーケーブル (灰)

サラウンド右スピーカー

お願い...

- スピーカーケーブルは芯線どうしが接触しないように接続してください。
- プラグやコネクタを無理に差し込まないでください。プラグやコネクタ、端子が破損することがあります。



DVDを見ましょう！

さあ、準備はOK！これでDVDが再生できます。たったこれだけの操作でDVDワールドに包まれます。お気に入りのディスクを選んだら、ステップ1から始めましょう！

1

テレビの電源を入れましょう

テレビのリモコン、またはテレビ本体の電源スイッチで電源を入れます。

2

テレビの入力を切り替えましょう

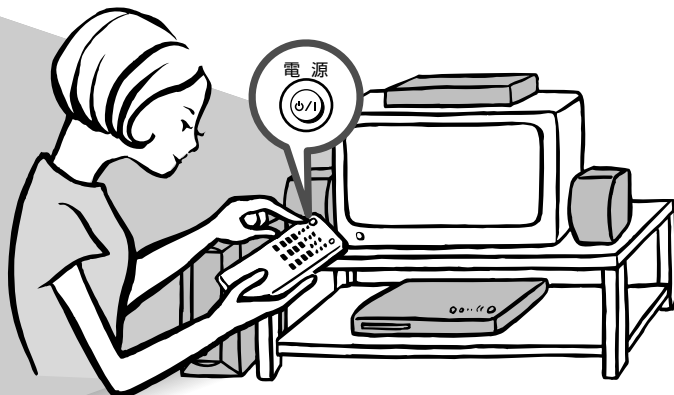
テレビのリモコン、またはテレビ本体の入力切り替えボタンで切り替えます。例えば、本機をテレビのビデオ入力1に接続したときはビデオ入力1にします。

3

電源キーを押しましょう

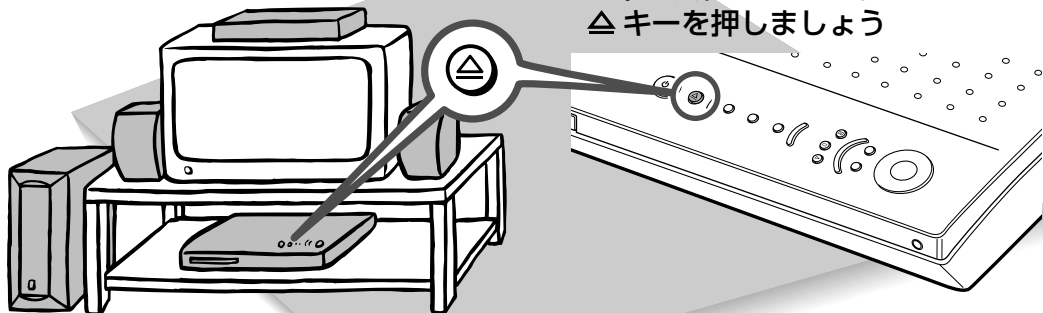


シネマステーションの電源が入ります。
シネマステーションのディスプレイが点灯しましたね？



4

シネマステーションの△キーを押しましょう



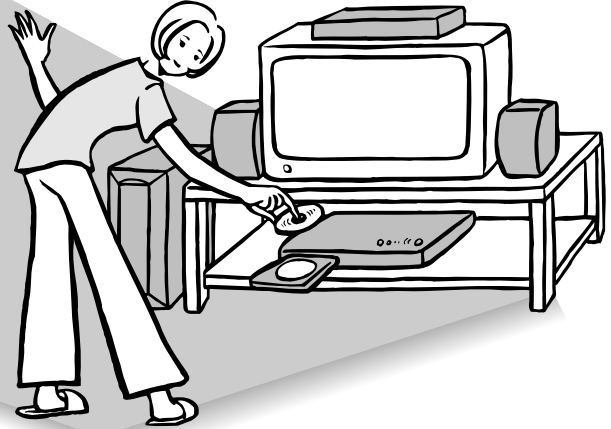
ディスクトレイが出てきます。

5

ディスクトレイにディスクを
置きましょう

お願い...

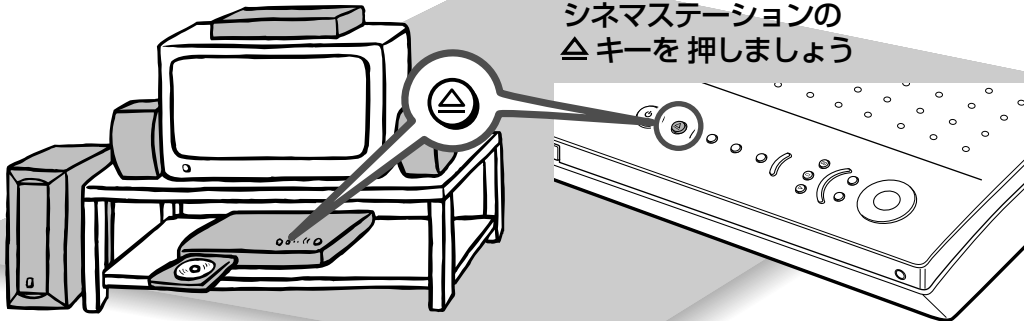
- ディスクの印刷面（レーベル面）を上にして置いてください。
- ディスクの表面にさわらないように、縁や真中の穴を持ちましょう！



さっそく使ってみましょう!

6

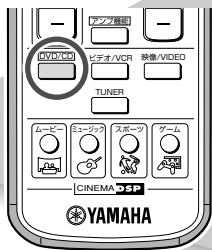
シネマステーションの
△キーを押しましょう



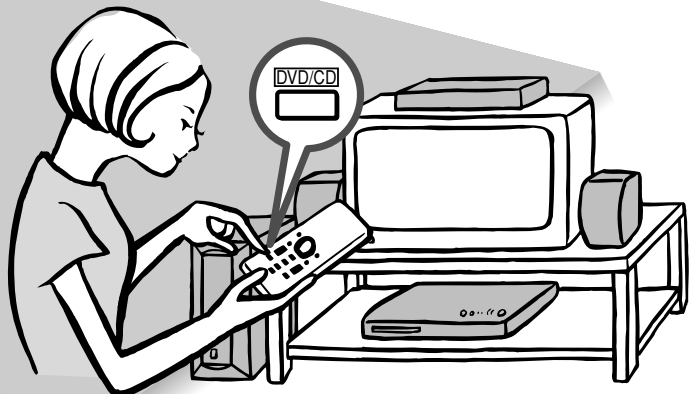
ディスクトレイが閉まります。

7

DVD/CDキーを
押しましょう

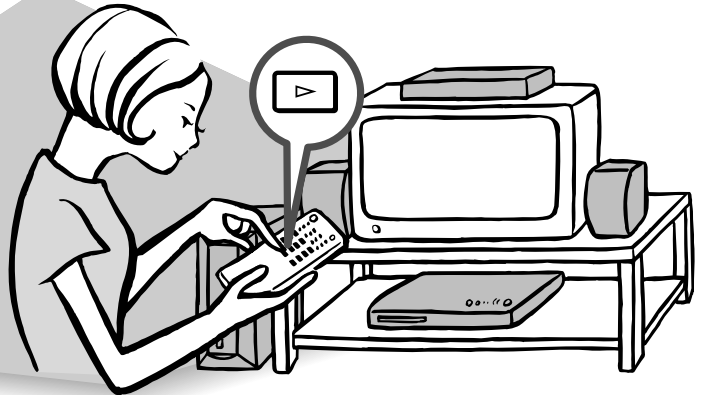


シネマステーションの入力が
DVDになります。



8

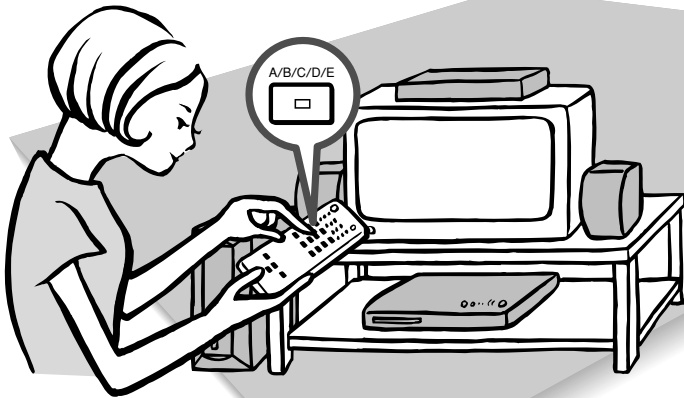
さあ、▶ キーを
押しましょう



DVDの再生が始まりましたね!

9

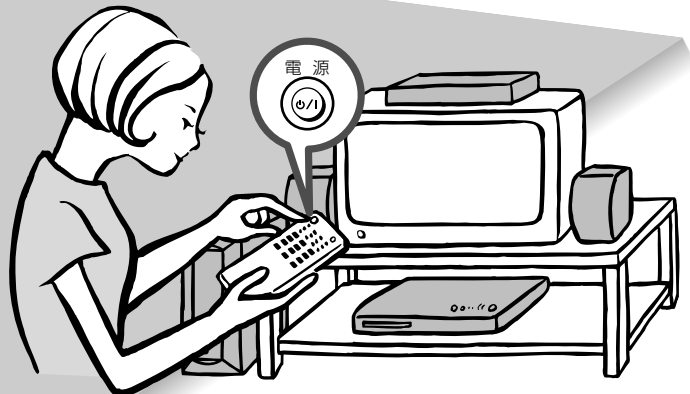
□ キーを押して
DVDを停止しましょう



ディスクを交換するには：
シネマステーションの△キーを
押してディスクを取り出します。
次のディスクをディスクトレイに
セットし、△キーを押します。

10

電源キーを押して
電源を切りましょう



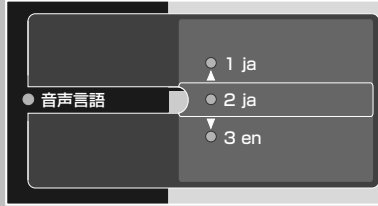
電源を切る前にディスクを
取り出しましょう!

再生が終わったら、
シネマステーションの△を押してディスクを取り出し、
もう一度△キーを押してディスクトレイを閉めます。

便利な機能

何語で見るか選びましょう

- 1 シフトキーを押しながら、音声キーを押します。
- 2 テレビ画面を見ながら、△または▽キーを押して好みの言語を選びます。
シフトキーを押しながら、音声キーを繰り返し押ししても音声を切り替えられます。



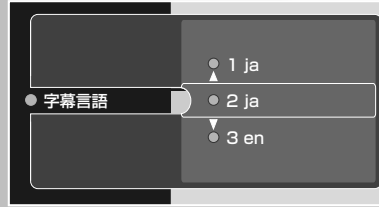
複数の言語の音声が入っているDVDで選べます。



さっそく使ってみましょう!

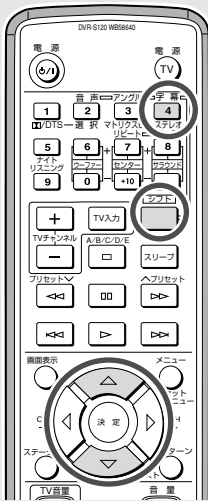
字幕の言語を選びましょう

- 1 シフトキーを押しながら、字幕キーを押します。
- 2 テレビ画面を見ながら、△または▽キーを押して好みの言語を選びます。字幕を消すには、「None」を選びます。



シフトキーを押しながら、字幕キーを繰り返し押ししても字幕を切り替えられます。

複数の言語の字幕が入っているDVDで選べます。



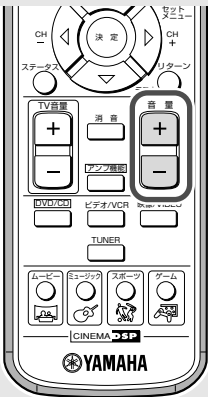
画面を送ったり戻したりしましょう

早戻りするとき：◀◀キーを押します。
早送りするとき：▶▶キーを押します。
再生中のチャプターや前のチャプターの頭出しをするとき：◀◀◀キーを押します。
次のチャプターの頭出しをするとき：▶▶▶キーを押します。



音の大きさを合わせましょう

+キーを押すと大きくなり、
-キーを押すと小さくなります。



一時停止 しましょう

⏸キーを押します。
再生を始めるには▶キーを押します。



便利な機能

アングルを切り替えてみましょう

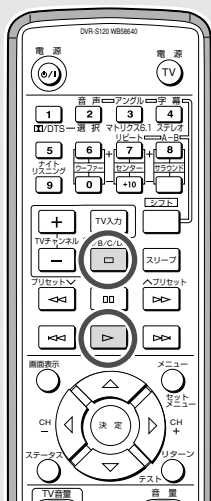
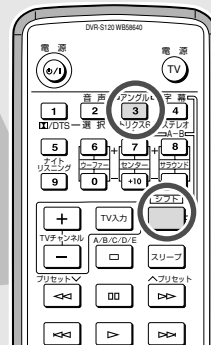
シフトキーを押しながら、アングルキーを押します。
シフトキーを押しながらアングルキーを押すたびに、画像のアングルが切り替わります。

アドバイス

- シフトキーを押しながらアングルキーを押したあと、△キーまたは▽キーを押しても切り替わります。数字キーで切り替えることもできます。



複数のアングルが入っているDVDで選べます。



“続き再生メモリー機能”を使いましょ

続き再生メモリー機能について

再生中に□キーを押すと、続き再生メモリー機能がはたらいて止めた位置が記憶されます。

▷キーを押すと、止めたところから再生が始まります。

こんなときは

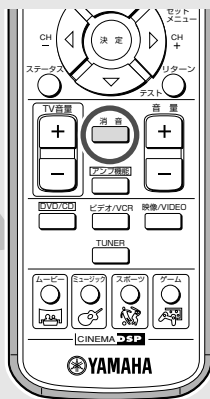
もっと臨場感豊かに鑑賞したい

お好みの映画やコンサートなどのジャンルにぴったりの音場プログラムを選んでください。本機には多彩なプログラムが用意されていますので、スペクタクル映画ではより広大な空間を、ロックコンサートでは熱狂のリアリティを体験できます。

→P.16「最適な音場を選びましょう」

一時的に音を消したい

リモコンの消音キーを押します。もう一度押すと音が出ます。



子供が見るDVDを制限したい

視聴制限のレベルを設定したり、ディスクをロックできます。

→P.78「お子さまが再生できないようにするには」

もっと高画質で楽しみたい

シネマステーションは、DVDの緻密な映像を美しく再現できるプログレッシブ映像に対応しています。D2～D5の映像入力端子があるテレビをお使いの場合は、シネマステーションのD1/D2モニター出力をつないでプログレッシブ機能による高画質な映像をお楽しみいただけます。

→P.77「高画質な映像を楽しみましょう」

どうしましたか？

言語や字幕が切り替わらない

一言語の音声や字幕しか入っていません。

字幕が出ない

字幕が収録されているか、ディスクジャケットなどで確認してください。

手順どおりに操作しても再生できない

ディスクによっては「ディスクメニュー」や「DVDメニュー」と呼ばれる特別なメニューが入っていることがあります。このようなディスクを再生するときは、メニューの指示に従って操作してください。

さっそく使ってみましょう!!

最適な音場を選びましょう

-見るもの、聴くものによって音場を変えてみましょう-

どんなジャンルの映画や音楽を楽しみますか？お気に入りの映画や音楽にぴったりの音場プログラムを選ぶだけで、あなたは映画館やコンサートホールにワープします。さあ、ジャンルに合った音場プログラムをフローチャートで選んでみましょう！

📺 アドバイス

- 再生してみてちょっと違うな、と思ったらほかの音場プログラムも試してください。プログラム名にこだわらず、ソースに合うものやご自分の耳に心地よいものを選んでください。
- ここで紹介している音場以外にも、さまざまな音場をお楽しみいただけます。
→P.62「目的によって音場を使い分けましょう」

見たい／聴きたいものは？

もう少し詳しく教えて！

映画を見る

痛快なアクションもの

コメディやラブロマンスなどのドラマ

高度なテクニックが話題のSF

壮大なスペクタクル

映画の種類というよりは…
デジタルサラウンド映画館の臨場感を体験したい

ライブを見る

熱気あふれる
ビッグエンターティナーのステージ

音楽を聴く

クラシックのコンサート

ジャズのライブ

ロックコンサート

音楽の種類というよりは…
ホームパーティなどで音にノリたい

スポーツ
中継を見る

野球やサッカー

ゲームをする

迫力とノリでゲームを楽しみたい

この音場プログラムで決まり!

音場プログラムを選ぼう!

臨場感を体験しましょう!

アクション
Action
音の立体感が強く、アクションならではの痛快な臨場感を体験できます。

ドラマ
Drama
セリフは明瞭に、会話の後方に流れる自然界の音や音楽などは柔らかく表現します。情感豊かな作品に適しています。

サイエンスフィクション
SF
音楽効果音がSFの映像空間をリアルに表現します。シリアスでストーリー性の高いSFX映画に適しています。

スペクタクル
Spectacle
超ワイドな空間をイメージできる音場です。手に汗握るパニックシーンなどビジュアルインパクトの強い作品に適しています。

シアター
Theater
ドルビーサラウンドやDTSサラウンド、AACサラウンドのサウンドデザインの魅力を損なうことなく、さらに豊かな音場で映画館さながらの臨場感を体験できます。

ミュージック ビデオ
Music Video
ロックやジャズなどのライブコンサート会場のイメージを強く感じられます。スクリーン周囲への映像空間と音場空間がいったばいに広がり、熱狂的な雰囲気はひたれます。

クラシック ホール ザ ミューニッック フィルハーモニック ホール
Classic Hall (The Munich Philharmonic Hall)
ミュンヘンフィルハーモニックホールの1階座席の音場です。豊かな響きと落ち着いた雰囲気に包まれます。

ジャズ クラブ ザ ボトム ライン
Jazz Club (The Bottom Line)
ニューヨークで話題のライブハウス“ザ・ボトムライン”のステージ正面の音場です。フロアは左右の幅が広く、リアルでライブな躍動感を感じられます。

ロック コンサート ザ ロキシー シアター
Rock Concert (The Roxy Theater)
客席数460ほどのロック系ライブハウスの音場です。左後方の強い反射音が特徴的で、左後方が大きめに聞こえます。

5チャンネル ステレオ
5ch Stereo
広いエリアの後方でも十分に音を楽しめる音場です。ホームパーティーの演出に最適な音場プログラムです。

ライブ スポーツ
Live Sports
スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に、歓声や場内の雰囲気は周囲へと広がり、感動の渦に取り囲まれます。

ゲーム
Game
ゲームサウンドに奥行きとサラウンド感を与え、ゲームの迫力を増します。モノラル、ステレオどちらのソフトでも楽しめます。



リモコン

ムービー
ムービーキーを繰り返し押し続けて音場プログラムを表示させる

```

    graph TD
      A[Action] --> B[Drama]
      B --> C[SF]
      C --> D[Spectacle]
      D --> E[Theater]
      E --> A
    
```

リモコン

ミュージック
ミュージックキーを繰り返し押し続けて音場プログラムを表示させる

```

    graph TD
      A[Music Video] --> B[Classic Hall]
      B --> C[Jazz Club]
      C --> D[Rock Concert]
      D --> E[5ch Stereo]
      E --> A
    
```

リモコン

スポーツ
スポーツキーを押す

リモコン

ゲーム
ゲームキーを押す

シネマステーションのキー名称や機能を知りましょう

本体

アンプ部分とディスク操作のキー

□ キー
ディスクの再生を停止します。

◀◀/◀、▶/▶▶ キー
ディスクのトラックやチャプターの頭出しをします。
押し続けると早送りまたは早戻しになります。

⏏ キー
ディスクの再生を一時停止します。

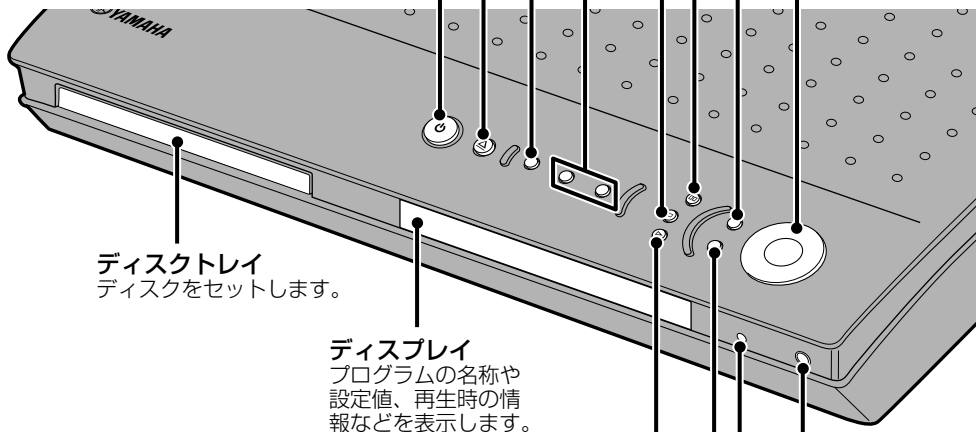
プログレッシブ
PROGRESSIVE キー
DVD再生のプログレッシブ映像出力とインタレース映像出力を切り替えます。(→P.77)

インプット
INPUT キー
ソースを選ぶ：押すたびにソースの表示が切り替わります。再生したいソースが表示されるまで、繰り返し押ししてください。
音声入力信号を選ぶ：同じ機器をオプティカル入力端子とオーディオ入力端子に接続している場合に、入力信号の優先順位を設定できます。(→P.75)

△ キー
トレイを開閉します。

スタンバイ オン
STANDBY/ON スイッチ
本機の電源の入/待機(スタンバイ)を切り替えます。
電源を入れてから数秒間は音が出ません。
スタンバイモード中は、リモコンからの赤外線信号を受信するために少量の電力を消費します。

ボリューム
VOLUME つまみ
全体の音量を調節します。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。



ディスクトレイ
ディスクをセットします。

ディスプレイ
プログラムの名称や設定値、再生時の情報などを表示します。

▶ キー
ディスクを再生します。

ディーエスピー
DSP キー
音場プログラムを選択します。お好みの音場プログラムが表示されるまで、繰り返し押ししてください。押し続けると音場プログラムのグループが切り替わります。(→P.16)

リモコン受光窓
付属のリモコンから信号を受信します。

ヘッドホン端子
ヘッドホンを接続します。音場プログラムを選ぶとサイレントシアターで音声を楽しめます。(→P.67)

チューナー操作のキー

INPUT キーを押して TUNER モードを選ぶと操作できます。リモコンの TUNER キーを押しても TUNER モードになり、これらのキーで操作できます。

A/B/C/D/E キー

FM/AM 放送のプリセットグループ
(A、B、C、D、E) を選びます。(→ P.41)

プリセット チューニング

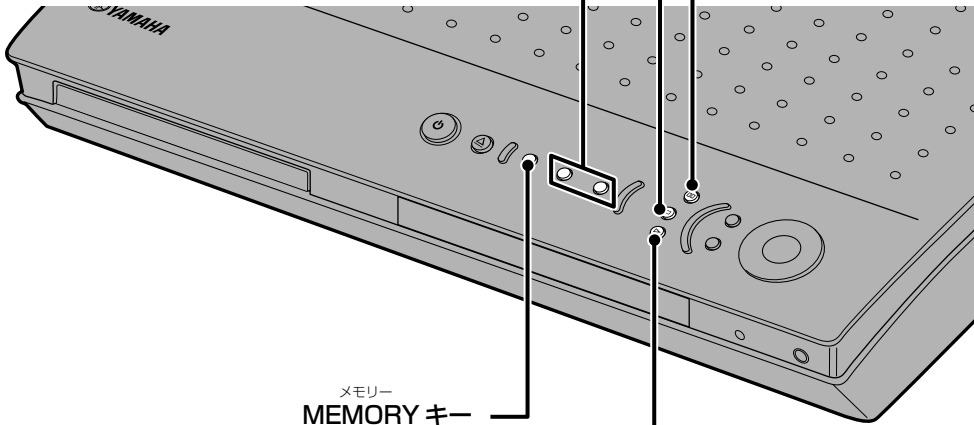
PRESET/TUNING キー

放送局を登録するときに、プリセット番号を選びます。
放送局を探す (チューニングする) ときにも使います。
(→ P.39)

プリセット バンド

PRESET/BAND キー

FM/AM 放送を切り替えたり、
チューニングモードとプリセット
モードを切り替えます。(→ P.39)



MEMORY キー

受信した放送局を登録 (プリ
セット) します。3 秒以上押
すと、オートプリセット機能
がはたらきます。(→ P.41)

オート マニュアル

AUTO/MAN'L キー

手動 (マニュアル) 選局または自動 (オート) 選局を
選びます。(→ P.39、40)

自動選局する場合は、このキーを押して AUTO 表示を点灯さ
せます。手動選局する場合は、AUTO 表示を消します。

メモリーバックアップについて

シネマステーションの電源を切っても (電源コードを抜いた状態)、次の設定は約 1 週間ほど記憶されています。

1 週間たって設定が消えてしまった場合には、もう一度設定してください。

- 音量 (ボリューム)
- サブウーファー、センター、サラウンド L、R スピーカーの出力レベル (→ P.56)
- セットメニューの各種設定 (→ P.85)
- スリープタイマーの設定 (→ P.76)
- 登録した放送局 (→ P.41)
- 音場プログラムの設定
 - ディレイタイム (→ P.69)
 - ドルビープロロジック II Music の設定値 (→ P.65)

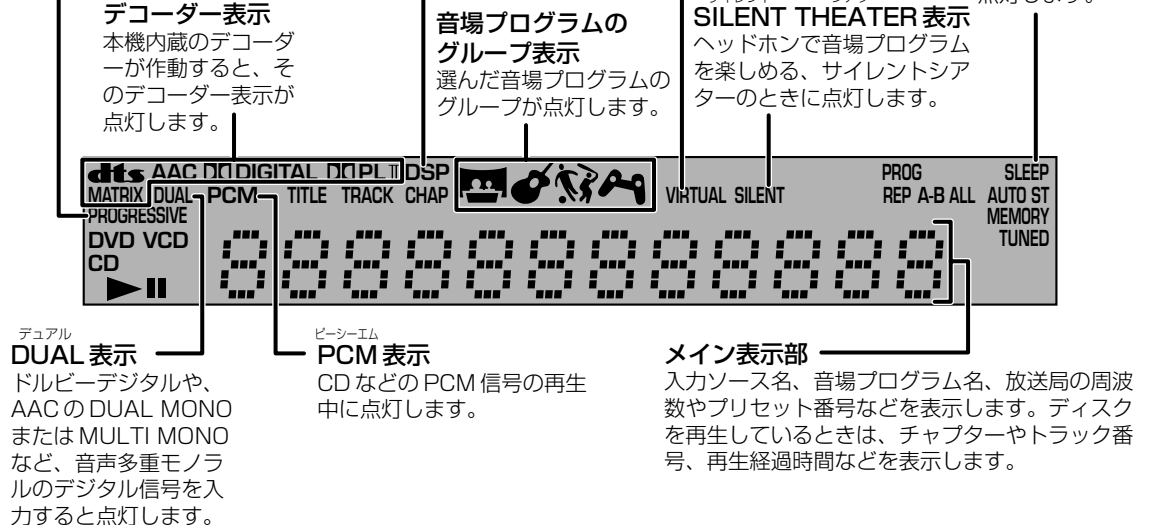
ディスプレイ

プログレッシブ PROGRESSIVE 表示
 プログレッシブ機能が働いているときに点灯します。

ディエスピー DSP 表示
 DSP 音場プログラムを選んだときに点灯します。

バーチャル VIRTUAL 表示
 バーチャルシネマ DSP にすると点灯します。

スリープ SLEEP 表示
 スリープタイマーをセットすると点灯します。

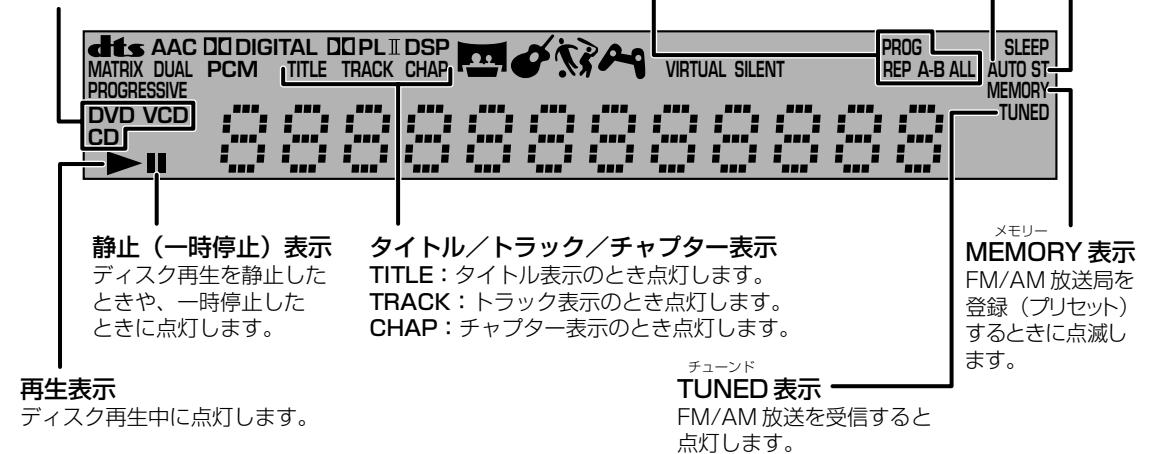


プログラム/リピート表示
PROG : プログラム再生のとき点灯します。
REP : タイトルやチャプター、トラックのリピート再生のとき点灯します。
REP ALL : ディスク全体のリピート再生のとき点灯します。
REP A-B : A-B リピート再生のとき点灯します。

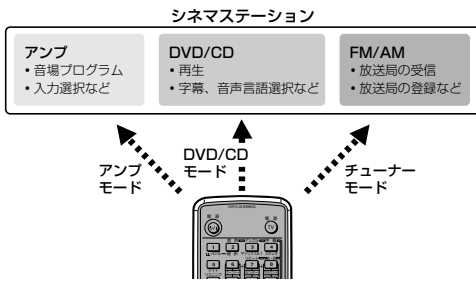
ディスク表示
DVD : DVD ビデオをセットすると点灯します。
VCD : ビデオ CD をセットすると点灯します。
CD : 音楽 CD をセットすると点灯します。

ステレオ ST 表示
 チューナーモードのオート選局やオートプリセットのとき、電波の強いFMステレオ放送を受信すると点灯します。

オート AUTO 表示
 チューナーモードのオート選局やオートプリセットのとき点灯します。

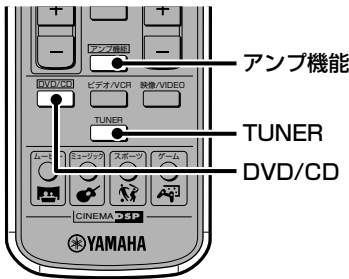


リモコンの役割を知りましょう



シネマステーションの機能を大きく分けると左のようになります。リモコンのキーはモードによって役割を変えるので、アンプの機能やDVD/CDの機能、チューナーの機能を一台のリモコンで操作することができます。

例として3キーで説明しましょう。アンプモードではマトリクス6.1を選ぶキーですが、DVD/CDモードでは時間やトラック番号などを指定する数字キーになります。



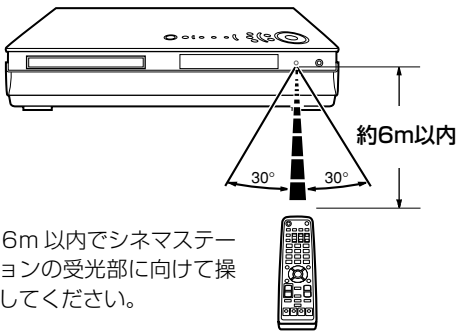
モードを切り替えるには次のように操作します

- ・アンプモードにする：アンプ機能キーを押します。
- ・DVD/CDモードにする：DVD/CDキーを押します。
→P.23「DVD/CDモードのキー名称と機能を知りましょう」
- ・チューナーモードにする：TUNERキーを押します。
チューナーの操作については→P.39「ラジオを聴いてみましょう」

また、シネマステーションにつないだテレビやビデオデッキ、またはMD/CDレコーダーをこのリモコンで操作することもできますが、これらの機器のメーカーコードを前もってリモコンに登録しておく必要があります。→P.81「リモコンにテレビやビデオデッキ、またはMD/CDレコーダーの操作を記憶させましょう」

使えばカンタン!操作方法を知りましょう

リモコンの使い方を知りましょう



約6m以内でシネマステーションの受光部に向けて操作してください。

リモコンの取り扱いについてのご注意

- ・水やお茶をこぼしたり、落としたりしないでください。
- ・次のような場所には置かないように注意してください。
 - －ストーブのそばや風呂場など、温度・湿度の高いところ。
 - －ほこりの多いところ。
 - －極端に寒いところ。

乾電池が消耗したときは、交換してください

乾電池が消耗すると、リモコンを操作できる距離が極端に短くなったりします。このような場合は、2本とも新しい乾電池に交換してください。メモリーを消してしまわないようにするため、電池を取り出したら2分以内に交換してください。

注意

- ・消耗した乾電池は早めに交換してください。
- ・新しい乾電池と、1度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- ・種類の異なる乾電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。
- ・乾電池が液漏れをした場合は、ただちに乾電池を破棄してください。漏れた液にふれたり、衣類などに付着しないようにしてください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。

アンプモードのキー名称と機能を知りましょう

最初にアンプ機能キーを押してから操作してください。

アドバイス

- リモコンのキー名称が紫色で表示されているキーは、アンプモードの操作キーです。
- 下記の説明文中、**電源(⏻/⏷)キー**のように四角で囲まれたキーは、リモコンがどのモードになっていても操作できます。アンプ機能キーを押す必要はありません。

赤外線送信部

リモコン操作用の赤外線信号を送信します。

電源(⏻/⏷)キー

シネマステーションの電源の入/待機(スタンバイ)を切り替えます。

DD/DTSキー、選択キー

ソースに応じてドルビーデジタル、DTSまたはAACのデコーダーに自動的に切り替わります。

ドルビープロロジックを選ぶには、**DD/DTS**キーを押してから、**選択**キーを繰り返し押ししてお好みのデコーダーを選びます。(→P.71)

ナイトリスニングキー

夜間など、音を小さくして楽しむときに効果的です。(→P.68)

△、▽、◀、▶キー

テストトーンを調節したり、セットメニューの設定に使います。

消音キー

音を消します。もう1度押すと、元の音量に戻ります。
リモコンがどのモードになっていてもはたらきます。

アンプ機能キー

リモコンをアンプモードにします。

入力選択キー

再生するソースを選びます。ソースにあわせてリモコンの機能も切り替わります。(→P.26)

ビデオデッキやMD/CDレコーダーを操作するには、前もってビデオデッキやMD/CDレコーダーのメーカーコードをビデオ/VCRキーに登録する必要があります。

マトリクス6.1キー

マトリクス6.1デコーダーを設定します。(→P.62)

ドルビーデジタルサラウンドEXまたはDTS ESディスクを再生すると、ほとんどの場合自動的にマトリクス6.1デコーダーがはたらきますが、ディスクによってはこのキーを使ってデコーダーを設定する必要があります。

ステレオキー

通常のステレオ音声と音場効果を加えた音声を切り替えます。(→P.72)

STEREOを選択すると、音場効果を加えない音声がフロントL、Rスピーカーから聞こえます。

音量レベルキー

スピーカーの音量レベルを調節します。(→P.58)

ウーファー+/-：サブウーファーの音量を調節します。

センター+/-：センタースピーカーの音量を調節します。

サラウンド+/-：サラウンドスピーカーの音量を調節します。

スリープキー

スリープタイマーを設定します。(→P.76)

セットメニューキー

セットメニューに入ります。(→P.85)

テストキー

テストトーンを出力します。(→P.56)

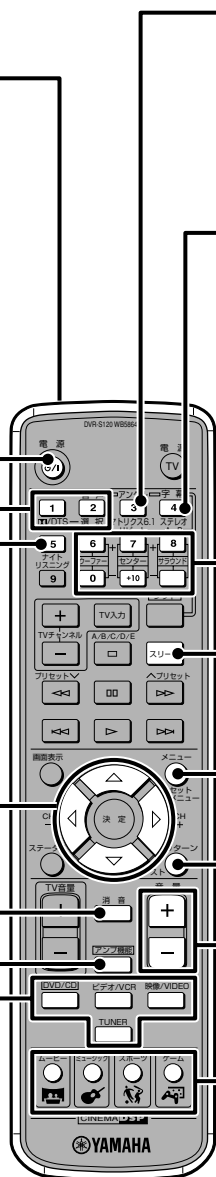
音量+/-キー

全体の音量を調節します。+キーを押すと大きくなり、-キーを押すと小さくなります。

音場プログラムキー

ムービー、ミュージック、スポーツ、ゲームの4種類のグループから音場プログラムを選びます。(→P.16)

ムービーやミュージックには複数の音場プログラムが入っているので、キーを繰り返し押ししてお好みの音場プログラムを選んでください。



DVD/CDモードのキー名称と機能を知りましょう

最初にDVD/CDキーを押してから操作してください。

アドバイス

- リモコンのキー名称が緑色で表示されているキーは、DVD/CDモードの操作キーです。

数字キー (1 ~ 9、0)
トラック番号などの数字を入力します。

<<、>> キー
早送りまたは早戻しをします。

<<<、>>> (スキップ) キー
ディスクトラックの頭出しをします。

画面表示キー
オンスクリーンメニューをテレビ画面に表示します。
(→P.24、89)

△、▽、◀、▶ / 決定キー
オンスクリーンメニューなどの設定に使います。

ステータスキー
ディスクの種類、再生・停止などの状態、再生時間などを表示します。

DVD/CD キー
リモコンをDVD/CDモードにします。

シフトキーを押しながらこれらのキーを押すと、次の操作ができます。
7キー：リピート再生になります。
8キー：A-B リピートを設定できます。
音声キー：DVD ビデオの音声言語を切り替えられます。
アングルキー：角度を切り替えられます。マルチアングルが記録されているディスクで使えます。
字幕キー：DVD ビデオの字幕言語を切り替えられます。

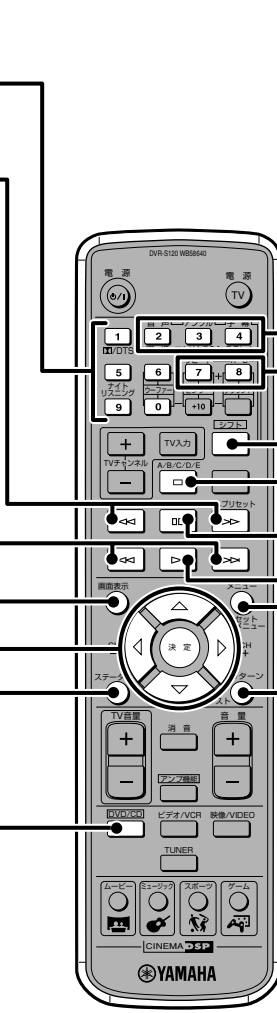
□ (ストップ) キー
再生を停止します。

⏸ (一時停止) キー
再生を一時停止します。

▶ (再生) キー
ディスクを再生します。

メニューキー
ディスクメニューをテレビ画面に表示します。

リターンキー
ディスクメニューを一つ手前に戻します。



使えばカンタン!操作方法を知りましょう

オンスクリーンメニューではこんなことができます

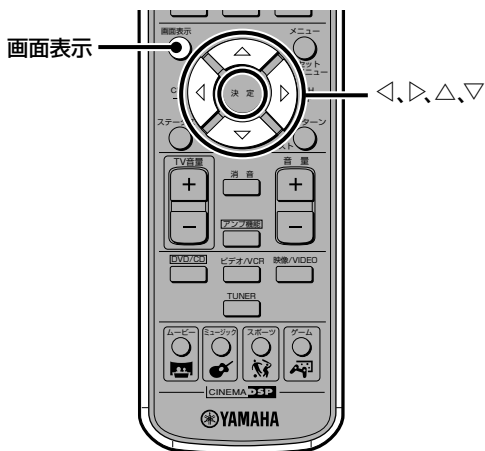
オンスクリーンメニューは「ユーザー設定」、「ツールバー」、「セットアップ」から構成されています。テレビ画面を見ながら操作しましょう。

【ユーザー設定】ではDVDやビデオCDの映像のコントラストやシャープネスなどをお好みに合わせて設定できます。

【ツールバー】ではプログラム再生やディスクナビなど、便利な再生機能が使えます。

【セットアップ】では字幕言語やテレビのサイズなど、DVD再生に関する機能を設定できます。

- 1 画面表示キーを押します。
オンスクリーンメニューが表示されます。



なにを設定しますか、 なにを使いますか？

コントラストやシャープネスなど、
映像を調整したい

ステータス表示を設定したい

プログラム再生したい

ズームやアングルを使って
再生を楽しみたい

音声や字幕の言語を選んだり、
ディスクの構成を知りたい

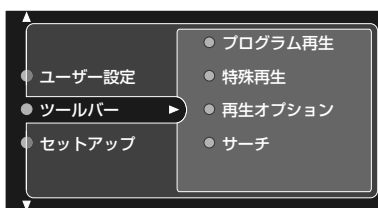
見たい・聴きたい位置を探したい

視聴制限を使いたい

テレビの画面サイズを合わせたい

いつも見る字幕や音声の
言語を設定したい

プレイバックコントロールを
設定したい



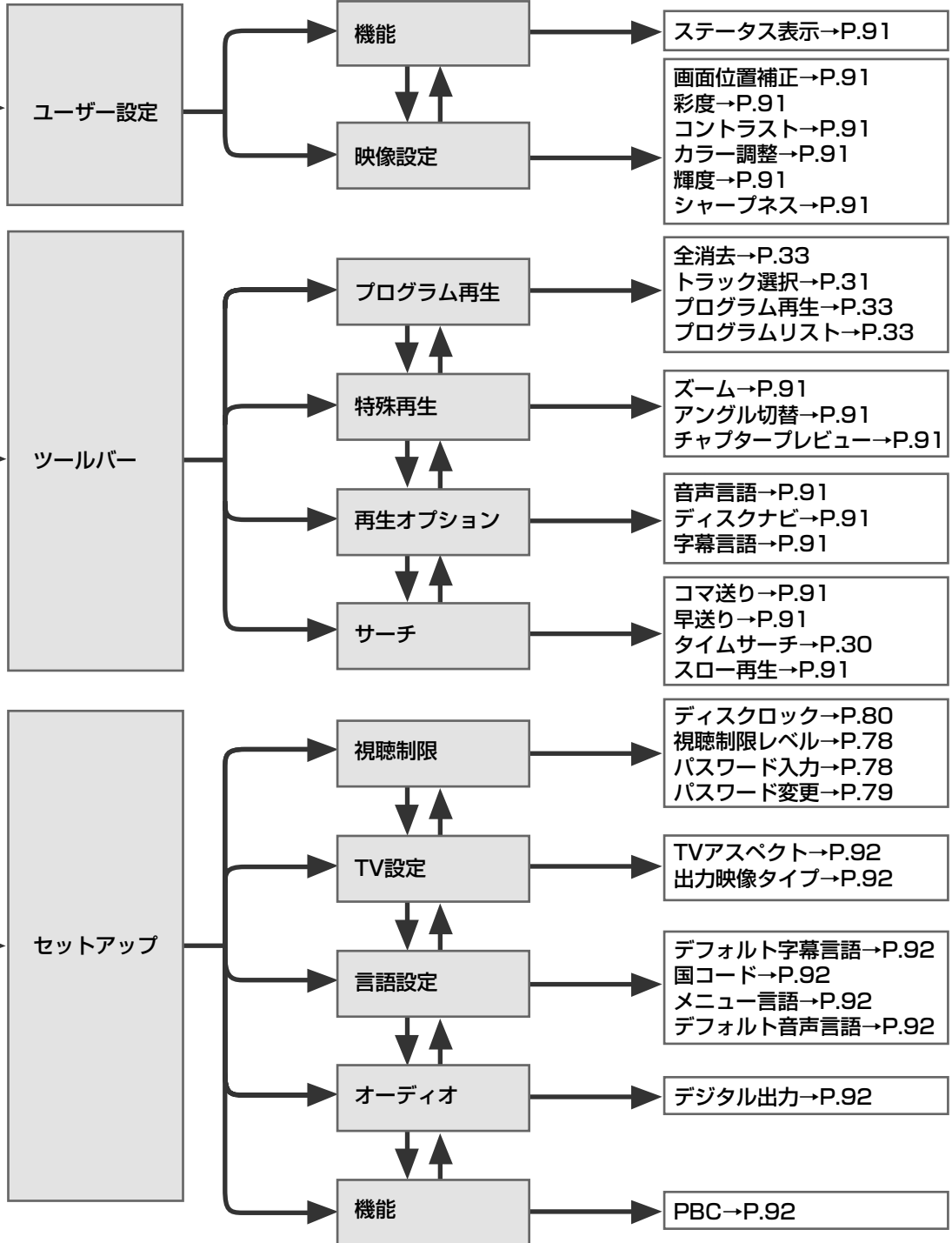
オンスクリーンメニュー

オンスクリーンメニュー

2 △、▽キーで
メインメニューを選び、
▷キーを押します。

3 △、▽キーで
サブメニューを選び、
▷キーを押します。

4 ◀、▶、△、▽キーで
項目を選び、設定しま
す。



使えばカンタン!操作方法を知りましょう

なにを見ますか、なにを聴きますか？

CDを聴きたい、ビデオも見たい…シネマステーションではDVDだけでなく、ビデオCDなどの映像ディスク、CDやMP3などの音楽ディスクも再生できます。また、ビデオデッキやTVゲーム機をつなげば、さらにお楽しみは広がります。さあ、再生したい機器を選びましょう！

なにを再生しますか？

お使いになる機器はこれです



ビデオCDなどの映像ディスクを再生する

シネマステーション



CDやMP3などの音楽ディスクを再生する

シネマステーション



FM/AM放送を聴く

シネマステーション



ビデオを再生する

シネマステーション
+
ビデオデッキ



テレビゲームを楽しむ、ビデオカメラを再生する

シネマステーション
+
TVゲーム機またはビデオカメラ

接続しましょう

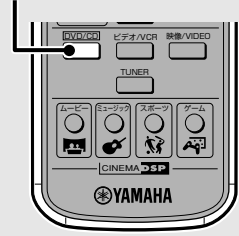
「スピーカーとテレビをシネマステーションにつなぎましょう」(→P.8)はお済みですか？
接続はこれだけです。

機器を選びましょう

リモコンのDVD/CDキーを押します。

映像ディスクを再生するには
→P.10「DVDを見ましょう！」
の手順1～10を行います。
音楽ディスクを再生するには
→P.10「DVDを見ましょう！」
の手順3～10を行います。

DVD/CD

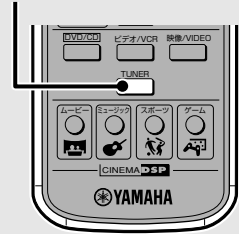


「スピーカーとテレビをシネマステーションにつなぎましょう」(→P.8)はお済みですか？
あとは、FMアンテナとAMアンテナをシネマステーションにつなぐだけです。→P.38「アンテナをつなぎましょう」

リモコンのTUNERキーを押します。

聴きたい放送局を選ぶには
→P.39「ラジオを聴いてみましょう」

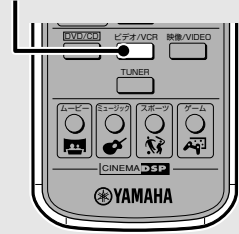
TUNER



「スピーカーとテレビをシネマステーションにつなぎましょう」(→P.8)はお済みですか？
あとは、ビデオデッキをシネマステーションにつなぐだけです。
→P.44「映像機器をつないでみましょう」

リモコンのビデオ/VCRキーを押します。

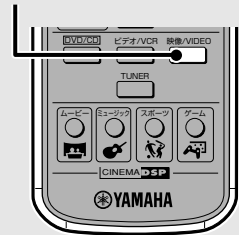
ビデオ/VCR



「スピーカーとテレビをシネマステーションにつなぎましょう」(→P.8)はお済みですか？
あとは、TVゲーム機またはビデオカメラをシネマステーションにつなぐだけです。
→P.44「映像機器をつないでみましょう」

リモコンの映像/VIDEOキーを押します。

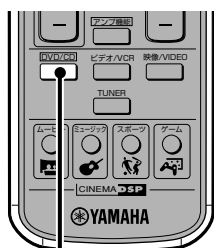
映像/VIDEO



見たい、聴きたい機器を選びましょう

いろいろな方法で再生してみましょ

「見たい場面や聴きたい曲だけを選んで再生したい」、「好きな場面や曲をすばやく見つけたい」など、シネマステーションにはさまざまなご要望にお応えできる再生方法がそろっています。



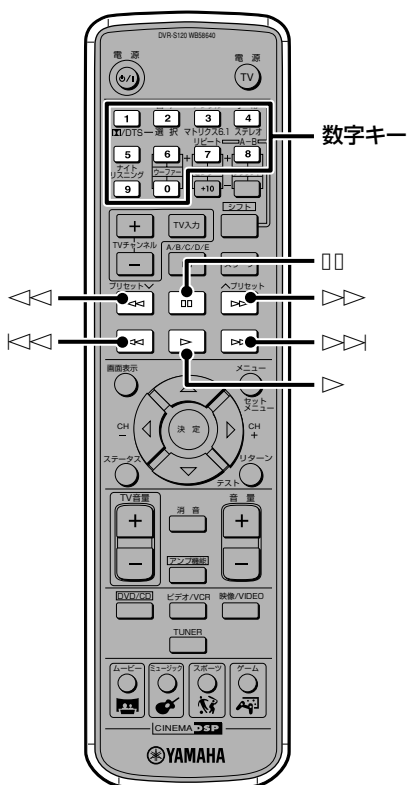
DVD/CD

最初に DVD/CD キーを押してから操作してください。DVD/CD モードになり、ディスク再生を操作できます。

ここでは、ディスクの種類別に下記のマークを使用しています。

DVD ビデオ	ビデオ CD	音楽 CD
DVD-V	VCD	CD

見たい場面や聴きたい曲を選びましょ



チャプターやトラックを飛び越すには (スキップ) DVD-V VCD CD

前のチャプターやトラックに戻るには：**◀◀** キーを続けて押します。

1 回押すと再生中のチャプターやトラックの頭に戻ります。

次のチャプターやトラックに進むには：**▶▶** キーを押します。

トラックを指定するには VCD CD

数字キーでトラック番号を入力します。

一桁の番号を入力するには 1～9 キーを使います。二桁の番号を入力するには、1～9 と 0 キーを使います。

例：トラック 8 を選ぶには

8 キーを押します。

トラック 10 を選ぶには

1 キー→0 キーの順に押します。

トラック 18 を選ぶには

1 キー→8 キーの順に押します。

早送り・早戻しするには DVD-V VCD CD

再生中に操作します。

早戻しするには：**◀◀** キーを押します。

キーを押すたびに、早戻しの速度が -4、-8、-32 に切り替わります。

早送りするには：**▶▶** キーを押します。

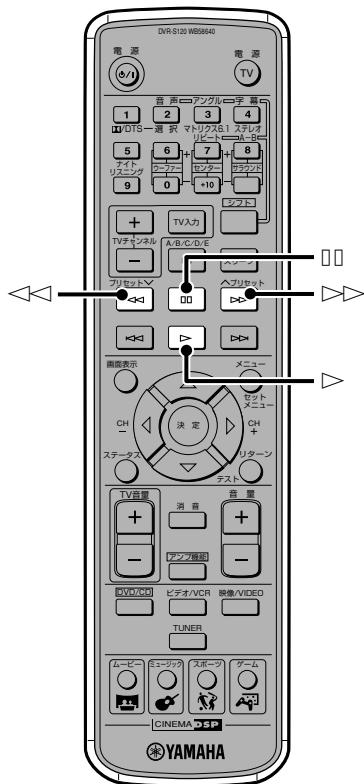
キーを押すたびに、早送りの速度が 4、8、32 に切り替わります。

▶ 注意

- CD の再生中は、早戻し/早送りの速度を -32 や 32 に切り替えることはできません。

静止（一時停止）するには DVD-V VCD CD再生中に **⏸** キーを押します。

▷ キーを押すと、通常の再生に戻ります。

**コマ送り** DVD-V VCD1 **⏸** キーを押して静止（一時停止）にします。2 **⏪** キーを押すたびにコマ送りされます。

通常の再生に戻すには：▷ キーを押します。

前方向／後方向へスロー再生する

DVD-V VCD

1 **⏸** キーを押して静止（一時停止）にします。2 前方向へ戻るには **⏮** キーを、後方向へ進むには **⏭** キーを押します。

⏮ キーを押すたびに、再生速度が $-1/8$ 、 $-1/4$ 、 $-1/2$ に切り替わります。⏭ キーを押すたびに、再生速度が $1/8$ 、 $1/4$ 、 $1/2$ に切り替わります。

通常の再生に戻すには：▷ キーを押します。

DVDだけじゃない!いろいろなディスクで映像や音楽を楽しみましょう

アドバイス

- コマ送り、早送り／早戻し、スロー再生はオンスクリーンメニューでも操作できます。→P.89「オンスクリーンメニューを使いましょう」

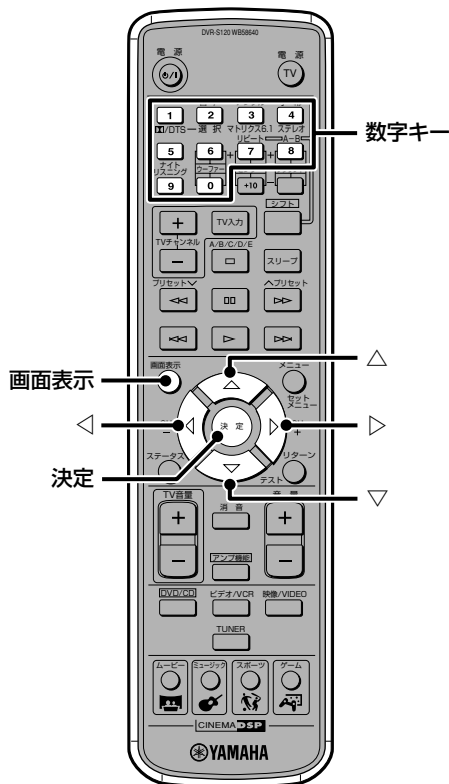
注意

- プレイバックコントロール機能を使ってビデオCDを再生すると、スキップ機能が正しくはたらかないことがあります。
- ドルビーデジタルやDTSのディスクの再生中に早送りや早戻しをすると、その間はスピーカーから音が出なくなります。
- ビデオCDではスロー再生で戻すことはできません。

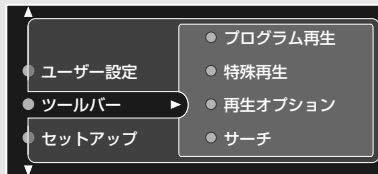
チャプターやトラックの途中から再生するには (タイムサーチ) DVD-V VCD CD

再生中のトラックやタイトルの頭からの経過時間を指定すると、そこから再生できます。

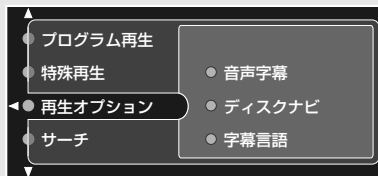
テレビ画面を見ながらオンスクリーンメニューで操作します。



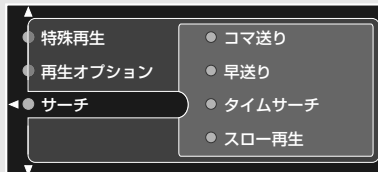
1 画面表示キーを押します。
「ツールバー」が選ばれていることを確認してください。



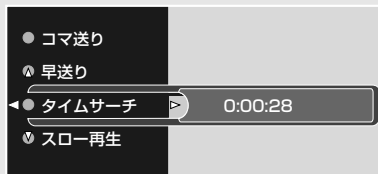
2 ▷キーを押して「再生オプション」を選びます。



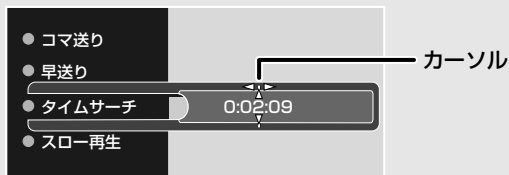
3 ▽キーを押して「サーチ」を選びます。



4 ▷キーを押して「タイムサーチ」を選びます。



5 ▷または◁キーを押して0:00:00 (時:分:秒)にカーソルを合わせ、数字キーで経過時間を入力します。
再生しているトラックやタイトルの頭からの経過時間を入力してください。

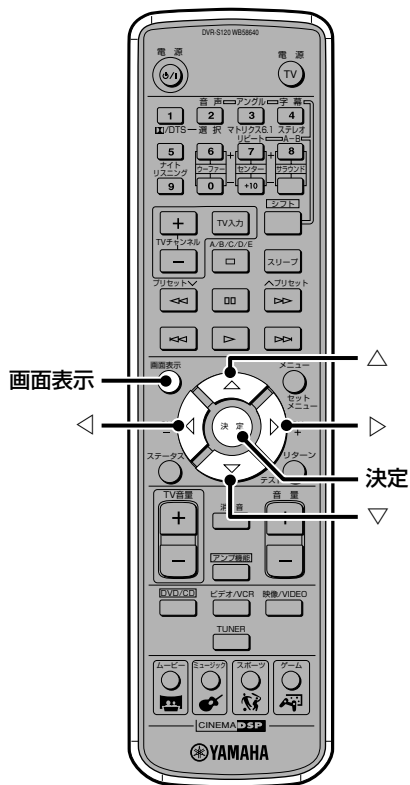


6 入力が終わったら決定キーを押し、画面表示キーを押してオンスクリーンメニューを閉じます。
決定キーを押すと、入力した経過時間の位置から再生が始まります。

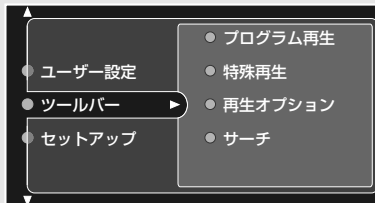
好きな順序で再生しましょう(プログラム再生) DVD-V VCD CD

お気に入りのチャプターやトラックをお好みの順序で再生できます。

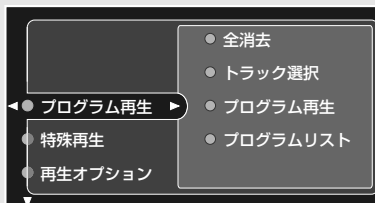
テレビ画面を見ながらオンスクリーンメニューで操作します。



- 1** 画面表示キーを押します。
「ツールバー」が選ばれていることを確認してください。

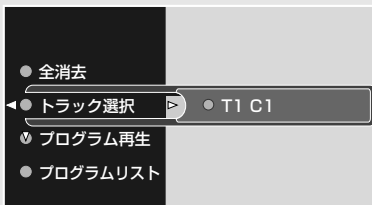


- 2** ▷キーを押し、△キーを繰り返し押しして「プログラム再生」を選びます。

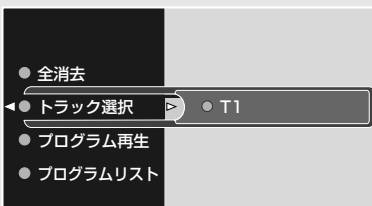


- 3** ▷キーを押し、△キーを押しして「トラック選択」を選び、▷キーを押します。

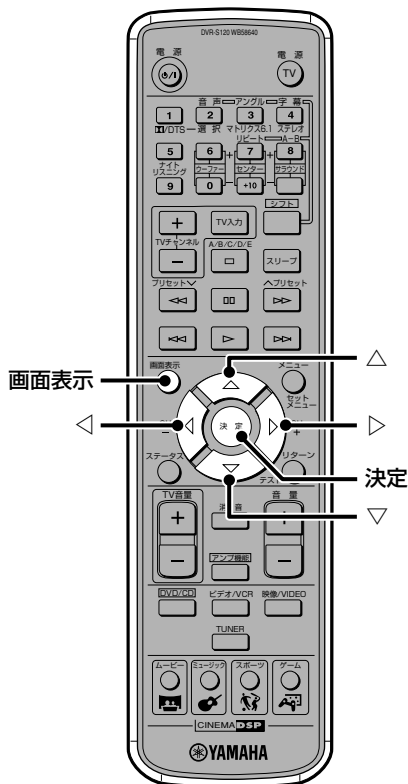
例：DVDビデオのとき



例：CDのとき



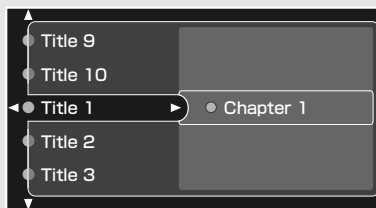
DVDだけじゃない!いろいろなディスクで映像や音楽を楽しみましょう



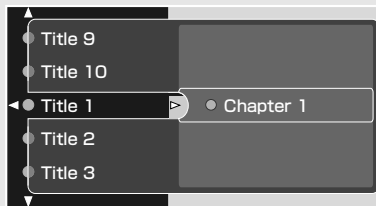
4 プログラムしたいチャプターやトラックを選びます。

例：DVDビデオのとき

△または▽キーを押してプログラムしたいチャプターのタイトル番号を選び、決定キーを押して▷キーを押します。



△または▽キーを押してチャプター番号を選び、決定キーを押します。



例：CDのとき

△または▽キーを押してトラック番号を選び、決定キーを押します。



5 手順 4 を繰り返して、お好みのチャプターやトラックをプログラムします。

6 設定が終わったら◀キーを押し(手順 3 の画面に戻ります)、画面表示キーを押してオンスクリーンメニューを閉じます。

プログラム再生が始まります。
プログラム再生が始まらない場合は、▷キーを押してください。

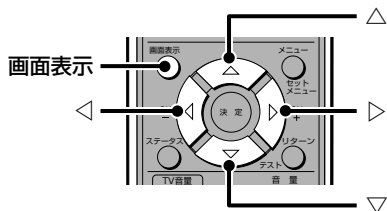
アドバイス

- プログラムを設定すると、シネマステーションのディスプレイにPROG表示が点灯します。

注意

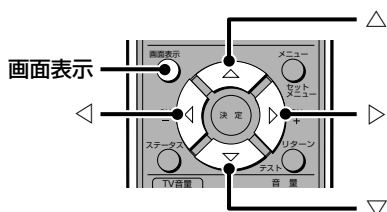
- ビデオCDのプログラム再生中は、プレイバックコントロール機能を使うことはできません。

プログラム内容を確認するには



- 1 「好きな順序で再生しましょう (プログラム再生)」 (→P.31) の手順 ① ~ ② を行います。
- 2 ▶キーを押してから、▽キーを押して「プログラムリスト」を選び、▶キーを押します。
プログラムした順序でリストが表示されます。
- 3 △または▽キーを押すとリストをスクロールできます。

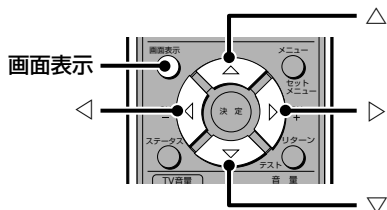
「プログラム再生」を「オン/オフ」するには



チャプターやトラックをプログラムすると、「プログラム再生」は自動的に「オン」に設定されます。プログラム再生が終わった後でも、「プログラム再生」は「オン」に設定されたままなので、▶キーを押すと再びプログラム再生を始めることができます。通常の再生に戻すには、「オフ」に設定します。「オフ」に設定しても、プログラムは消えません。お好きなときに「オン」に設定し、同じプログラムを再生できます。

- 1 「好きな順序で再生しましょう (プログラム再生)」 (→P.31) の手順 ① ~ ② を行います。
- 2 ▶キーを押して「プログラム再生」を選び、▶キーを押します。
- 3 △キーまたは▽キーを押して「オフ」または「オン」を選びます。

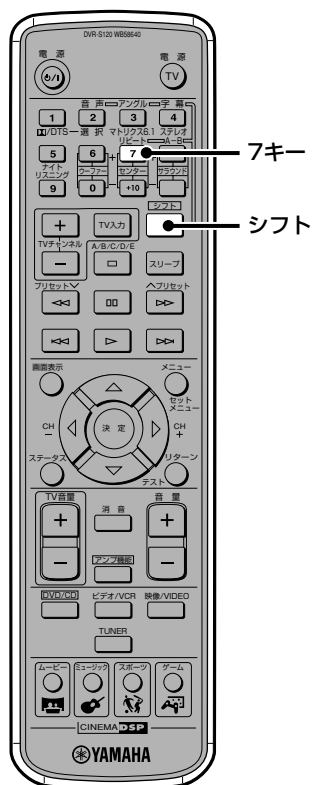
プログラムを消去するには



- 1 「好きな順序で再生しましょう (プログラム再生)」 (→P.31) の手順 ① ~ ② を行います。
- 2 ▶キーを押してから、△キーを押して「全消去」を選び、▶キーを押します。
「消去します」が「消去しました」に一瞬替わり、プログラム内容はすべて消去されます。

DVDだけじゃない!いろいろなディスクで映像や音楽を楽しみましょう

繰り返し再生しましょう(リピート再生) DVD-V VCD CD

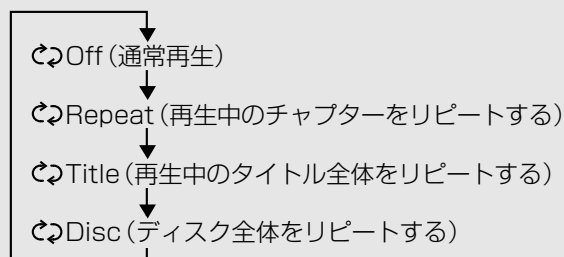


お気に入りのトラックやチャプターを繰り返し再生したり、ディスク全体を繰り返し再生できます。また、好みの部分を繰り返し再生することもできます。

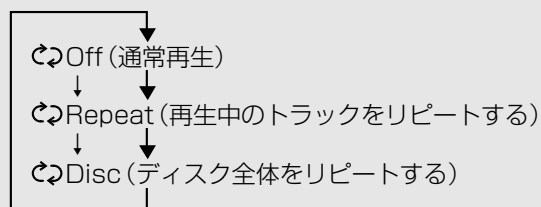
1 ディスクを再生します。
チャプターやトラックをリピートしたい場合は、好みのチャプターやトラックを再生します。→P.28「見たい場面や聴きたい曲を選びましょう」

2 シフトキーを押しながら、7キーを押してリピートモードを選択します。
キーを押すたびにテレビ画面の表示が次のように切り替わります。

DVDビデオでは：



ビデオ CD/CD では：



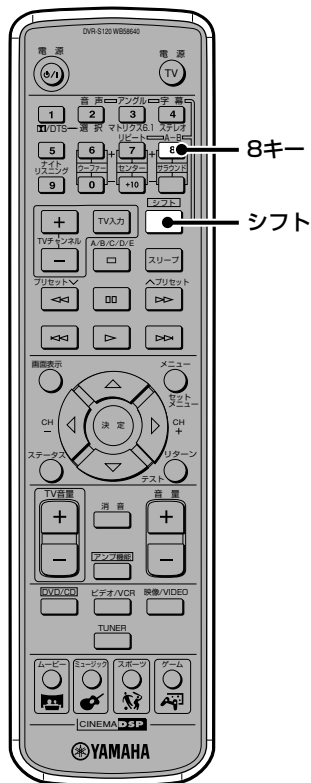
アドバイス

- リピート再生を選ぶと、シネマステーションのディスプレイにリピートモード表示が点灯します。
REP表示: タイトルやチャプター、トラックのリピート
REP ALL表示: ディスク全体のリピート

注意

- DVDビデオによっては、リピート再生が正しくできないことがあります。
- プレイバックコントロール機能を使ったビデオCDのメニュー再生中は、リピート再生ができないことがあります。

お気に入りの部分を繰り返し再生するには (A-Bリピート再生) DVD-V VCD CD



お気に入りの部分の始めと終わり (A点とB点) を指定し、その2点間を繰り返し再生することができます。1つのタイトルやトラック内で指定できます。

1 ディスクを再生します。

2 開始点 (A点) の位置でシフトキーを押しながら、8キーを押します。

テレビ画面に Repeat A が表示されます。

アドバイス

- シネマステーションのディスプレイにREP A-表示が点灯します。

3 終了点 (B点) の位置でシフトキーを押しながら、8キーを押します。

テレビ画面に A/Bが表示され、A-Bリピート再生が始まります。

アドバイス

- シネマステーションのディスプレイにREP A-B表示が点灯します。

通常の再生に戻すには

シフトキーを押しながら、8キーを押します。テレビ画面に A/B Offが表示され、A-Bリピート再生が取り消されます。

DVDだけじゃない!いろいろなディスクで映像や音楽を楽しみましょう

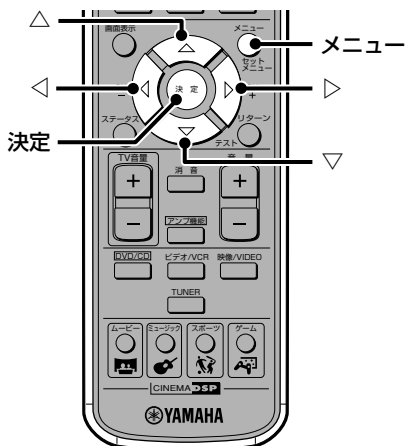
注意

- DVDビデオによっては、A-Bリピート再生できないものもあります。
- DVDビデオのタイトルや、ビデオCD/CDのトラックをまたぐA-Bリピート再生はできません。

ディスクのメニューを使って再生してみましょう

多くのDVDやプレイバックコントロール機能がついているビデオCDには、そのディスク独自のメニューが収録されています。メニュー画面を呼び出して、お好みのタイトルやチャプターにスキップしたり、音声や字幕などを切り替えられます。

DVDのディスクメニューを使いましょう



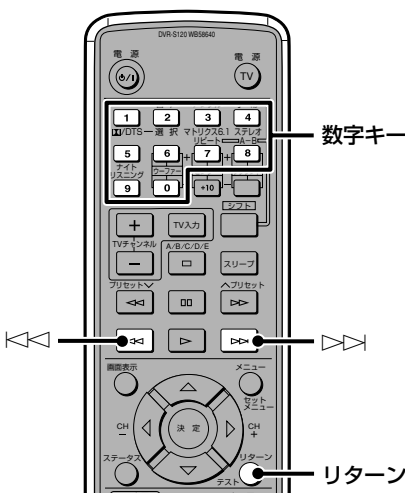
- 1 メニューキーを押します。**
メニューがテレビ画面に表示されます。

アドバイス

- ディスクによっては、再生をはじめると自動的にメニュー画面が表示されることがあります。

- 2 △、▽、◀、▶ キーで項目を選んでから、決定キーを押します。**
メニューに操作の指示が表示された場合は、指示にしたがって手順②を繰り返してください。

ビデオCDのプレイバックコントロール (PBC) 機能を使いましょう (メニュー再生)



プレイバックコントロール機能のついたビデオCDを再生すると、メニューがテレビ画面に表示されます。メニューを見ながら、見たい場面や情報を選ぶことができます。本書では、メニュー画面を使って再生することを、“ビデオCDのメニュー再生”と呼びます。

- 数字キー： お好みの項目を選びます。
 リターン： 前の画面に戻ります。
 ▶▶： 次の画面に移ります。
 ◀◀： 前の画面に戻ります。

注意

- プログラム再生中にプレイバックコントロール機能を使うことはできません。

MP3を再生してみましょう

コンピューターなどでCD-RやCD-RWに録音したMP3形式の音声を再生できます。

アドバイス

- 録音状態によっては再生できないことがあります。

シネマステーションに対応するディスクを作るには

ディスクの構成

複数のアルバムCDを一枚のディスクに録音できます。各フォルダーは“アルバム”として、また、各フォルダーに含まれるファイルは“トラック”として記録されます。

サンプリング周波数について

32/44.1/48kHzのサンプリング周波数に対応できます。

ビットレートについて

- 32/64/96/128/192/256kbpsのビットレートに対応できます。
- 可変ビットレートにも対応できます。

シネマステーションではこんなことができます

プログラム再生ができます

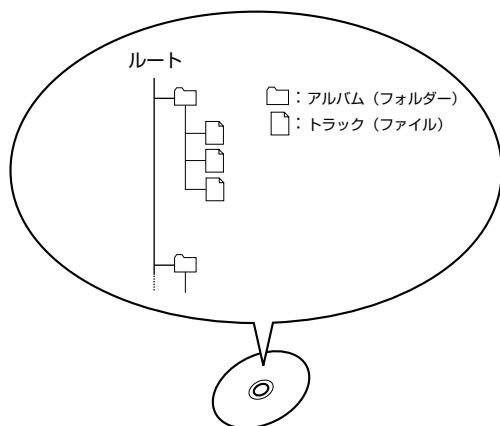
お好みの順序でトラックを再生できます。→P.31「好きな順序で再生しましょう（プログラム再生）」

リピート再生ができます

トラックリピートおよびアルバムリピート再生ができます。→P.34「繰り返し再生しましょう（リピート再生）」

再生状態などをテレビ画面に表示できます

ディスクの種類、再生中や停止などの再生状態、現在のトラックの総再生時間や経過時間を表示できます。



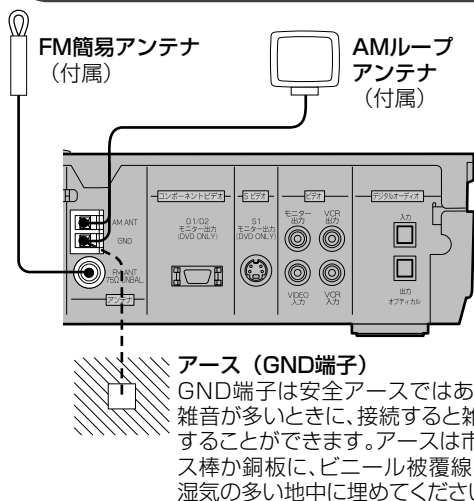
注意

- 録音した順番通りにトラックを再生できない場合があります。

アンテナをつなぎましょう

シネマステーションにはAMループアンテナとFM簡易アンテナが付属しています。電波を良好に受信できる地域では、付属のアンテナをご使用ください。アンテナは端子に正しく接続してください。

FM簡易アンテナをつなぎましょう



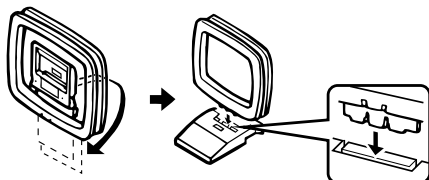
付属のFM簡易アンテナをFM ANT端子につないでください。

FM屋外アンテナをつなぐときは

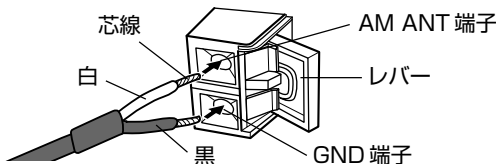
アンテナの同軸ケーブルを市販のF型コネクターを使って、FM ANT端子につなぎます。詳しくは、屋外アンテナをお買い求めの販売店にご相談ください。

AMループアンテナをつなぎましょう

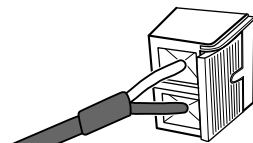
1 アンテナをアンテナスタンドに取り付けます。



2 AM ANT 端子と GND 端子のレバーを右に開け、白いコードの芯線を AM ANT 端子に、黒いコードの芯線を GND 端子に差し込みます。



3 レバーを戻して、コードを固定します。コードを軽く引いて、正しく固定されたかどうか確認してください。



4 アンテナを左右に回し、受信状態が最も良くなる方向に向けます。



アドバイス

- AMループアンテナをスタンドから取り外して、壁などに取り付けることもできます。
- 受信を良くするためには、AM屋外アンテナを設置することをお勧めします。詳しくは、最寄りのヤマハ電気音響製品のサービス拠点にお問い合わせください。

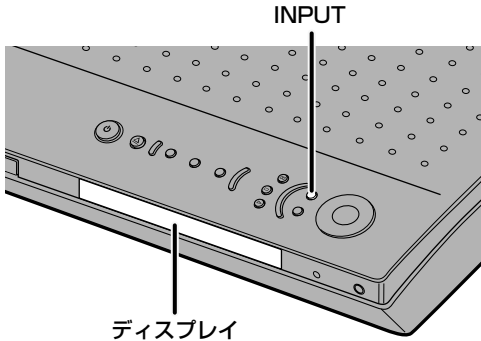
注意

- FM簡易アンテナやAMループアンテナは、本機とスピーカーケーブルから離して設置してください。
- AM屋外アンテナを接続した場合でも、AMループアンテナは必ず接続してください。

ラジオを聴いてみましょう

放送局を自動的に受信できるオート選局や、お好みの放送局を登録できるプリセットなどの便利な機能を使ってAM/FM放送をお楽しみください。

ラジオを選びましょう



シネマステーションのINPUTキーを繰り返し押し、ディスプレイにTUNERを表示させます。入力ソースがチューナー（ラジオ）になり、AM/FM放送を聴くことができます。

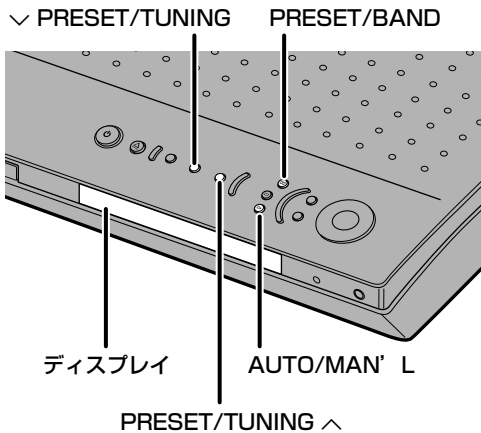
アドバイス

- リモコンのTUNERキーを押しても入力ソースはチューナーになります。

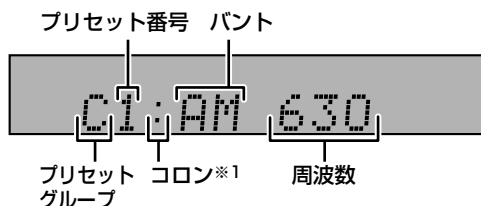
放送局を選びましょう

選局のしかたには、自動的に選局するオート選局と、手で選局するマニュアル選局の2種類があります。電波の強い放送局を受信するときは、オート選局が速くて便利です。

自動的に選局しましょう（オート選局）



ディスプレイ表示例



*1 チューニング(選局)モードのときに消灯し、プリセット(登録)モードのときに点灯します。

1 PRESET/BAND キーを押して、FMまたはAMを選びます。

押すたびにFM(チューニングモード)→AM(チューニングモード)→(プリセットモード)→FM(チューニングモード)→...の順に切り替わります。

アドバイス

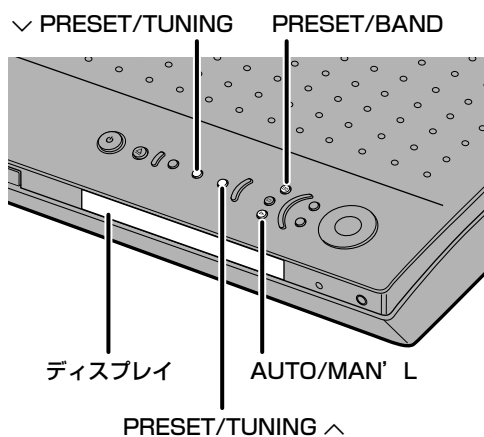
- バンド表示の隣のコロン(:)が消えていれば、チューニングモードです。コロン(:)が消えていることを確認してください。

2 AUTO/MAN' L キーを押して、ディスプレイにAUTO表示を点灯させます。

3 PRESET/TUNING ^/∨ キーを押して、受信したい放送局を選びます。

高い周波数の放送局を探すときは ^ キー、低い周波数の放送局を探すときは ∨ キーを押します。

手動でお好みの放送局を選びましょう (マニュアル選局)



電波の弱い放送局は、手動で選んでください。

- 1 「自動的に選局しましょう (オート選局)」 (→ P.39) の手順 ① を行います。
- 2 AUTO/MAN' L キーを押して、ディスプレイの AUTO 表示を消します。
- 3 PRESET/TUNING ^/∨ キーを押して、受信したい放送局を選びます。
押し続けると、連続して周波数が変わります。

アドバイス

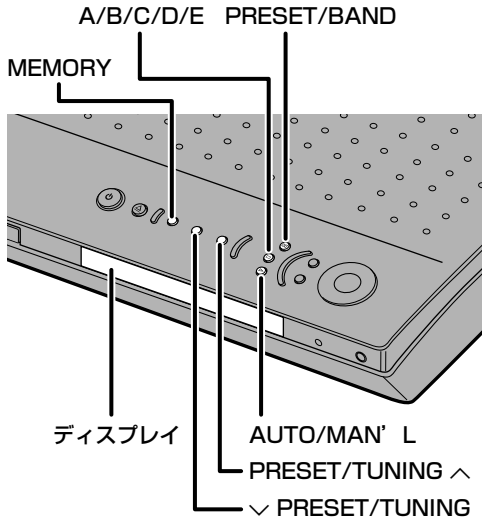
- 電波が弱くてオート選局できないときは、手動で選局してください(マニュアル選局)。
- オート選局で放送局を受信すると、ディスプレイに「TUNED」が点灯し、周波数が表示されます。
- マニュアル選局でFMステレオ放送を受信するとモノラル受信になりますが、雑音を軽減できます。

放送局を登録しましょう(プリセット)

放送局を登録しておく、あとは簡単なキー操作で選局できて便利です。

FM 放送局を自動登録しましょう (オートプリセット)

FM 放送局を自動的に 40 局 (8 局 × 5 グループ) まで登録 (プリセット) できます。



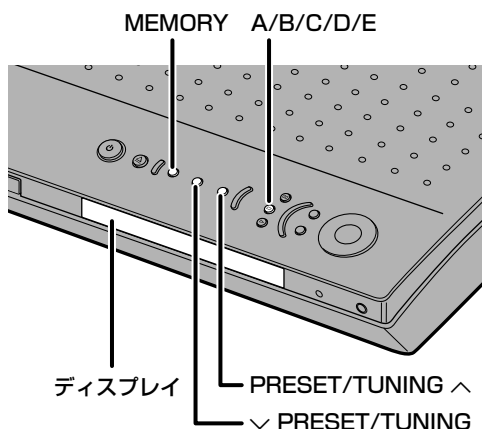
- ① PRESET/BAND キーを押して、FM を選びます。
- ② AUTO/MAN L キーを押して、ディスプレイに AUTO 表示を点灯させます。
- ③ MEMORY キーを約 3 秒押し続けます。
プリセット番号と MEMORY 表示、AUTO 表示が点滅します。数秒後に、周波数表示が高くなり始め、オートプリセットが始まります。オートプリセットが終了すると、最後に登録された放送局の周波数が表示されます。

登録を始めるプリセット番号を指定するには

登録を始めるプリセットグループや番号を指定して、周波数の低い方から高い方へ、または高い方から低い方へオートプリセットすることができます。

- ① 上記の「FM 放送局を自動登録しましょう (オートプリセット)」の手順 ② までを行います。
- ② MEMORY キーを約 3 秒押し続けたあと、A/B/C/D/E キーと PRESET/TUNING ^/v キーを押して、最初に登録させたいプリセット番号を選びます。
すべてのプリセット番号に登録されると (40 局)、オートプリセットが停止します。
- ③ PRESET/BAND キーを押してコロン (:) を消してから、PRESET/TUNING ^/v キーを押します。
v キーを押すと周波数表示が低くなり始め、^ キーを押すと高くなり始めます (オートプリセット開始)。

手動で登録しましょう（マニュアルプリセット）



40局までの放送局を手動で登録することができます。

- 1** プリセットしたい放送局を選局します。
→P.39「放送局を選びましょう」
受信している局の周波数と放送バンド（FMまたはAM）がディスプレイに表示されます。
- 2** MEMORY キーを押します。
ディスプレイにMEMORY表示が約5秒間点滅し、登録できる状態になります。
- 3** MEMORY表示の点滅中にA/B/C/D/Eキーを押して、プリセットグループ（A～E）を選びます。
グループが表示されます。バンド表示の隣にコロロン（:）が点灯していることを確認してください。
- 4** MEMORY表示の点滅中にPRESET/TUNING ^/vキーを押して、プリセット番号（1～8）を選びます。
^ キーを押すと大きな番号になり、v キーを押すと小さな番号になります。
- 5** MEMORY表示の点滅中に、MEMORYキーを押します。
選択したプリセットグループ、プリセット番号と放送バンド（FMまたはAM）、周波数がディスプレイに表示されます。
- 6** 他の放送局を続けて登録するときは、手順 ①～⑤を繰り返します。

アドバイス

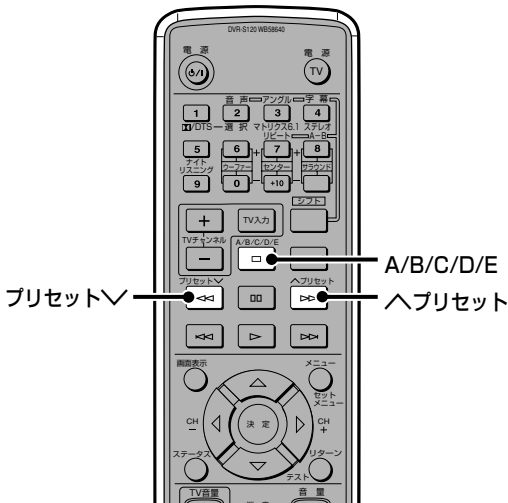
- 放送局が登録されると、放送局の周波数と受信モード（ステレオ／モノラル）も同時に登録されます。
- 登録したFM放送局の順序を、あとから手動で入れ替えることもできます。→P.43「登録した放送局を入れ替えましょう」
- オートプリセットでは、プリセットする放送局の数が40に満たない場合には全周波数帯域を一巡して停止します。

注意

- 新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- オートプリセットでは、電波の強いFM放送局だけが登録されます。電波の弱い放送局を登録したいときは、受信モードをモノラルにして、手動で登録してください。

登録した放送局を選びましょう(プリセット選局)

プリセット番号を選ぶだけで、登録した放送局を選局できます。



1 A/B/C/D/Eキーを繰り返し押し、放送局をプリセットしたグループを選びます。

プリセットグループA、B、C、DまたはEがディスプレイに表示されます。

2 プリセットへ/へキーを押して、プリセット番号を選びます。

プリセットグループとプリセット番号が、放送バンド (FMまたはAM) と周波数とともにディスプレイに表示され、TUNED表示が点灯します。

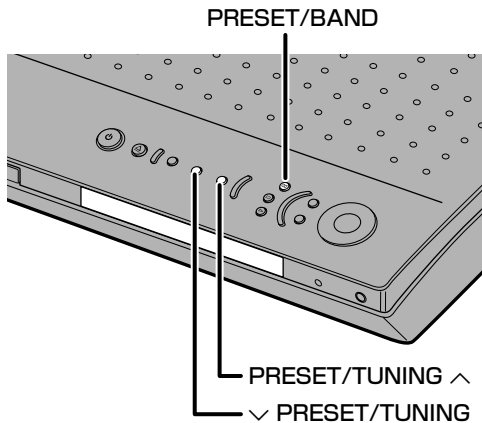
アドバイス

- 本体のA/B/C/D/EキーとPRESET/TUNING へ/へキーを繰り返し押ししてもプリセット選局できます。

登録した放送局を入れ替えましょう

登録した放送局を入れ替えることができます。

ここでは「E1」に登録した放送局を「A5」に、「A5」の放送局を「E1」に変更する場合の手順を説明します。



1 「E1」に登録した放送局を選局します。

上記の「登録した局を選びましょう (プリセット選局)」をご覧ください。

2 PRESET/BAND キーを約3秒間押します。

「E1」とMEMORY表示がディスプレイに点滅します。

3 「A5」に登録した放送局を、A/B/C/D/EキーとPRESET/TUNING へ/へキーを使って選局します。

「A5」とMEMORY表示がディスプレイに点滅します。

4 PRESET/BAND キーを押します。

ディスプレイに「EDIT E1-A5」と表示され、プリセット局が入れ替わります。

映像機器をつないでみましょう

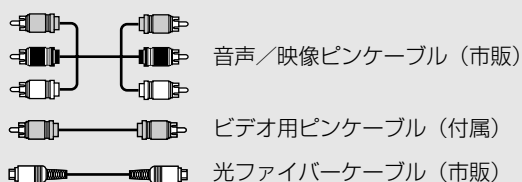
ビデオデッキをシネマステーションにつなぐと、ビデオの再生やダビングができます。また、TVゲーム機やビデオカメラをつないでお楽しみいただくことができます。さらに、テレビ番組の音声をシネマステーションのスピーカーから出してお楽しみいただけるように、テレビの音声出力端子をシネマステーションにつなぐこともできます。

シネマステーションにビデオデッキやTVゲーム機をつないでみましょう

お願い...

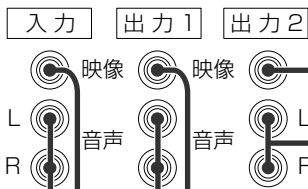
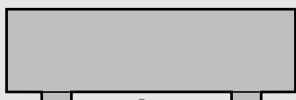
- 接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

接続に使うケーブル



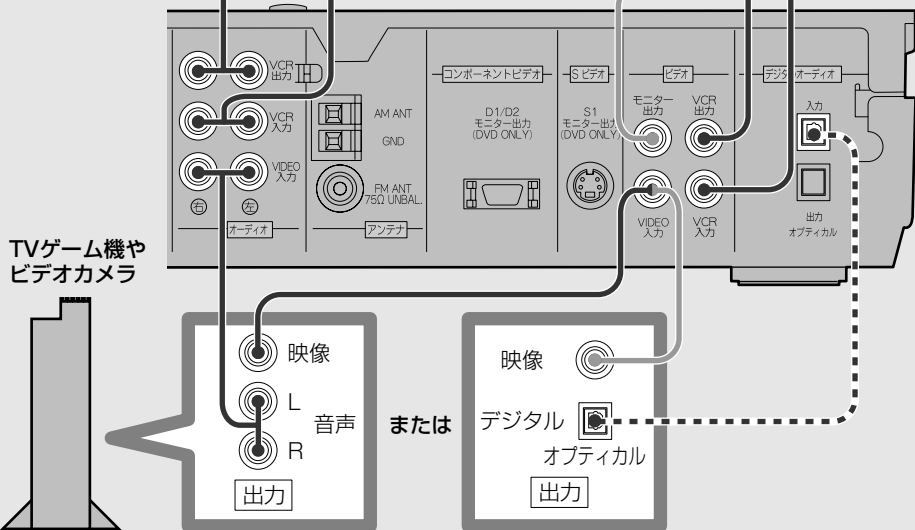
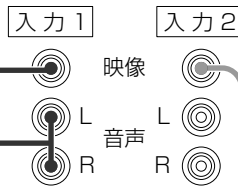
- は市販の音声／映像ピンケーブルを使います。
- は付属のビデオ用ピンケーブルを使います。
- は市販の光ファイバーケーブルを使います。

ビデオデッキ



ビデオデッキの出力とテレビの入力をつないでおくと、シネマステーションの電源を切ってもビデオデッキの再生が楽しめます。

テレビ



TVゲーム機やビデオカメラ

シネマステーション

音声端子のここに注意しましょう

- 選んだ入力ソースと同じ名前の出力端子からは、信号は出力されません。(VCR入力端子から入力した信号はVCR出力端子から出力されません。)
- シネマステーションのデジタル信号回路とアナログ信号回路は独立しているため、アナログ入力信号はアナログ出力端子から、デジタル入力信号はデジタル出力端子からのみ出力されます。

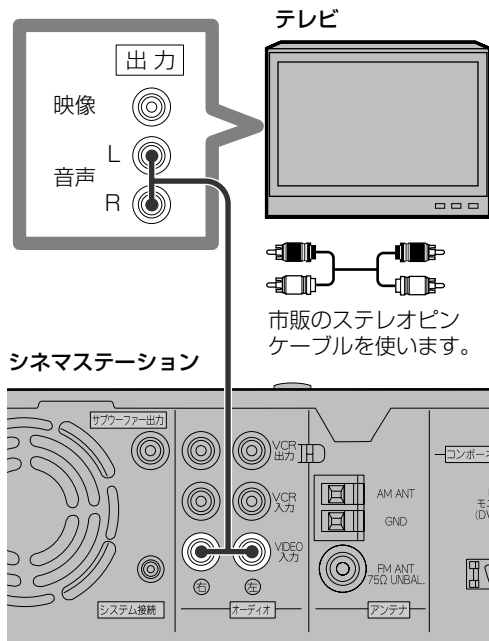
録画や再生するときは、ここに注意しましょう

- 録画する前に、「試し録画」を行ってください。
- DVDの映像を録画する場合には、オンスクリーンメニューを表示しないでください。オンスクリーンメニュー画面も一緒に録画されてしまいます。
- シネマステーションの音場効果を加えた音を録音することはできません。
- シネマステーションにビデオデッキを接続した場合、ビデオデッキの電源を切ると再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。このようなときは、ビデオデッキの電源を入れてください。
- 録画中に音量や音質を調整したり、音場プログラムを変更したりしても、録音される音声には影響しません。
- コピーガードのかかったDVDは録画できません。
- あなたが録画したものは個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。

TVゲーム機とデジタル接続しましょう

TVゲーム機にデジタル出力端子(オプティカル)がある場合は、シネマステーションのオプティカル入力端子につながります。
オプティカル端子のつなぎかたは、「音声機器をつないでみましょう」(→P.48)をご覧ください。
映像出力はシネマステーションのVIDEO入力端子につながります。

シネマステーションのスピーカーからテレビ番組の音声を出してみましょう

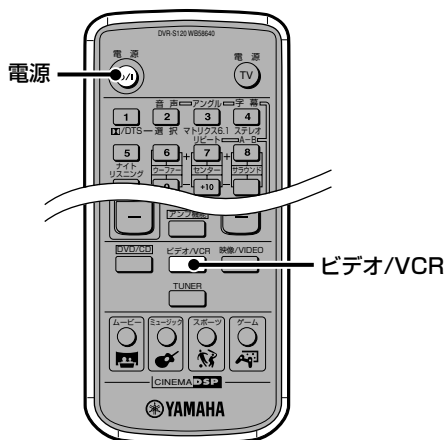


テレビの音声出力端子をシネマステーションのオーディオ VIDEO 入力端子につなぎます。
 入力選択キーの映像/VIDEOキーを押すと、テレビの音声を入力できます。
 音場プログラムでお楽しみいただくこともできます。

市販のステレオピンケーブルを使います。

ビデオデッキを再生してみましょう

ビデオデッキの操作については、お使いになるビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。

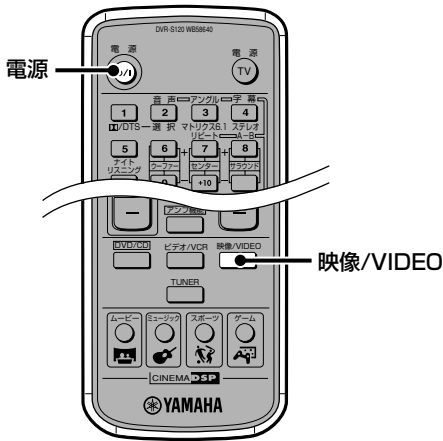


アドバイス

- シネマステーションにつないだテレビやビデオデッキを、シネマステーションのリモコンで操作することもできますが、これらの機器のメーカーコードを前もってリモコンに登録しておくことが必要です。→P.81「リモコンにテレビやビデオデッキ、またはMD/CDレコーダーの操作を記憶させましょう」

- 1 テレビの電源を入れます。**
- 2 ビデオデッキの電源を入れます。**
- 3 テレビの入力を切り替えます。**
 例えば、シネマステーションをテレビのビデオ入力 1 につないだときは、ビデオ 1 にします。
- 4 電源キーを押してシネマステーションの電源を入れます。**
- 5 ビデオ/VCR キーを押します。**
 シネマステーションがビデオデッキを入力できるようになります。
- 6 ビデオデッキを再生します。**

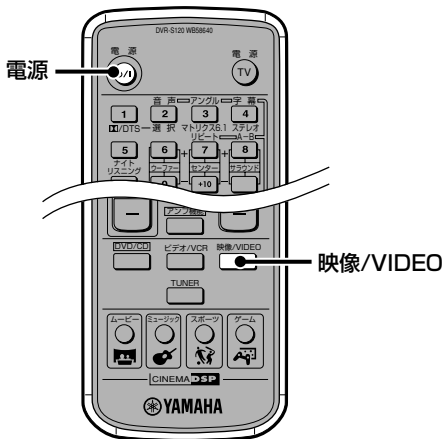
TVゲームやビデオカメラを再生してみましょう



TVゲームやビデオカメラの操作については、これらの機器の取扱説明書をご覧ください。

- 1 テレビの電源を入れます。
- 2 TVゲーム機またはビデオカメラの電源を入れます。
- 3 テレビの入力を切り替えます。
例えば、シネマステーションをテレビのビデオ入力1につないだときは、ビデオ1にします。
- 4 電源キーを押してシネマステーションの電源を入れます。
- 5 映像/VIDEOキーを押します。
シネマステーションがTVゲームやビデオカメラを入力できるようになります。
- 6 TVゲーム機またはビデオカメラを再生します。

ビデオカメラからビデオデッキにダビングしてみましょう



ビデオカメラやビデオデッキの操作については、これらの機器の取扱説明書をご覧ください。

- 1 テレビの電源を入れます。
- 2 ビデオカメラとビデオデッキの電源を入れます。
- 3 テレビの入力を切り替えます。
例えば、シネマステーションをテレビのビデオ入力1につないだときは、ビデオ1にします。
- 4 電源キーを押してシネマステーションの電源を入れます。
- 5 映像/VIDEOキーを押します。
シネマステーションがビデオカメラを入力できるようになります。
- 6 ビデオデッキの入力を切り替え、録画の準備をします。
例えば、ビデオデッキの入力を外部入力に切り替えます。
- 7 ビデオカメラを再生し、ビデオデッキで録画を始めます。

音声機器をつないでみましょう

シネマステーションにMDレコーダーやCDレコーダーをつなぐと、シネマステーションでCDなどを再生して録音できます。


シネマステーションにMDレコーダーやCDレコーダーをつないでみましょう

お願い...

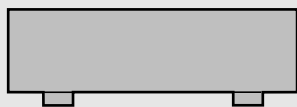
- 接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

接続に使うケーブル

市販の光ファイバーケーブルを使います。

 光ファイバーケーブル (市販)

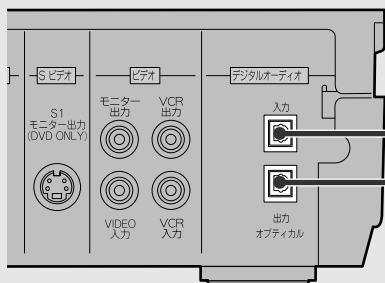
MDレコーダー/
CDレコーダー



オプティカル

出力

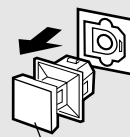
入力



シネマステーション

防塵キャップについて

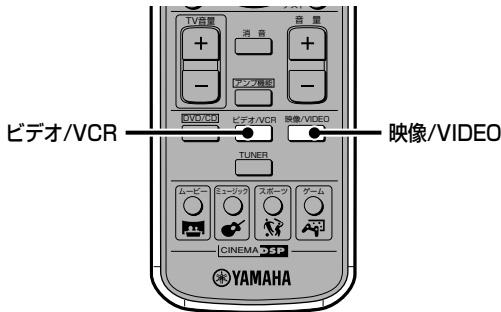
光ファイバーケーブルを接続する場合は、オプティカル端子に付いている防塵キャップを抜いてから接続してください。また、抜いたキャップは大切に保管し、端子を使用しない場合は必ずキャップを差し込んでください。(ほこりなどの侵入を防ぎます。)



防塵キャップ

デジタル音声端子のここに注意しましょう

- デジタル端子はPCM、ドルビーデジタル、DTS、及びAACの各信号方式に対応しています。
- 入力端子はサンプリング周波数96kHzまでのデジタル信号に対応しています。
- セットメニューの「*InputAssign」を使って、オプティカル入力端子をVIDEOまたはVCRに割り当てることができます。初期設定はVIDEOになっています。



VIDEOに割り当てた場合(初期設定)

入力選択キーの映像/VIDEOキーを押すとMDレコーダーやCDレコーダーを入力できます。

アドバイス

- VIDEOに割り当てたオプティカル入力端子とVIDEO入力端子(アナログ)のそれぞれに機器をつないでいる場合、入力モードがAUTOに設定してあるとオプティカル入力端子からの入力が優先されます。

VCRに割り当てた場合

入力選択キーのビデオ/VCRキーを押すとMDレコーダーやCDレコーダーを入力できます。

アドバイス

- VCRに割り当てたオプティカル入力端子とVCR入力端子(アナログ)のそれぞれに機器をつないでいる場合、入力モードがAUTOに設定してあるとオプティカル端子からの入力が優先されます。

オプティカル入力端子の割り当てについては、「**セットメニューを使いましょう**」(→P.85)をご覧ください。入力モードについては、「**入力モードを切り替えましょう**」(→P.75)をご覧ください。

- シネマステーションのデジタル信号回路とアナログ信号回路は独立しているため、アナログ入力信号はアナログ出力端子から、デジタル入力信号はデジタル出力端子からのみ出力されます。
- シネマステーションのオプティカルデジタル端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に機能しないことがあります。

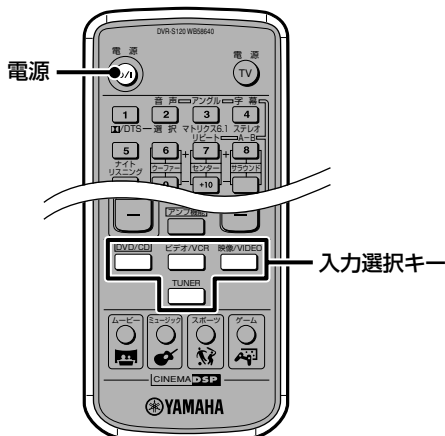
録音や再生するときは、ここに注意しましょう

- 録画する前に、「試し録音」をおこなってください。
- シネマステーションの音場効果を加えた音を録音することはできません。
- MDレコーダーやCDレコーダーの電源を切ると再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。このようなときは、MDレコーダーやCDレコーダーの電源を入れてください。
- 録音中に音量や音質を調整したり、音場プログラムを変更したりしても、録音される音声には影響しません。ただし、入力をDVD/CDにして録音しているときは、次の操作を行うと音が途切れて録音されることがあるのでご注意ください。
 - テストキーを押す
 - 音場プログラムを変更する
 - ヘッドホンをつなぐ/抜く
- デジタル入力端子から入力した信号は、そのままデジタル出力端子に出力されます。デジタル入力端子から入力した信号をVCR出力端子（アナログ）から出力したり、VCR入力端子（アナログ）やVIDEO入力端子（アナログ）から入力した信号をデジタル出力端子から出力することはできません。
- あなたが録音したものは個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。

タイマー再生/録音するには

市販のオーディオタイマーと組み合わせて、タイマー再生やタイマー録音をすることができます。お使いになる機器やオーディオタイマーにより操作方法が異なることがありますので、これらの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

シネマステーションの音を録音してみましょう



- 1 MDレコーダーやCDレコーダーの電源を入れ、録音の準備をします。
- 2 電源キーを押してシネマステーションの電源を入れます。
- 3 シネマステーションの入力をお好みのソースに切り替え、再生します。
例) CDを再生するには：入力選択キーのDVD/CDキーを押してからCDを再生します。
- 4 MDレコーダーやCDレコーダーで録音を始めます。

アドバイス

- タイマー再生/録音時には、シネマステーションの電源がスタンバイになっても記憶されている設定内容(入力ソース、AM/FMの周波数など)が適用されます。

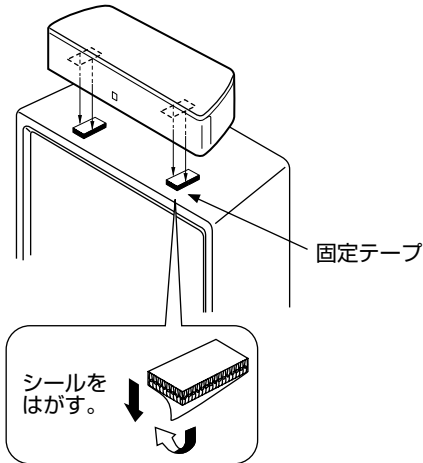
注意

- DTSソフトのDTS信号をデジタル録音しても、雑音だけが録音されます。
- タイマー録音で録音中に音出しをしない場合は、音量を絞ってください。

スピーカー(NX-P120)を設置しましょう

音場効果を十分に味わうためにも、スピーカーを適切な位置に設置することが必要です。安定した場所に確実に設置することで、音ブレなどを防ぐ効果もあります。「スピーカーを準備しましょう」(P.7) もあわせてご覧ください。

センタースピーカーをテレビの上に設置しましょう



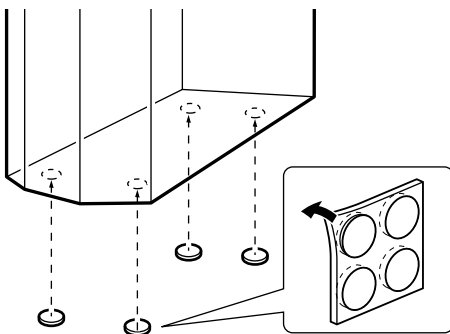
必ず上面が水平なテレビの上に設置してください。テレビの上面が水平でない場合は、テレビラック内やテレビ真下の床上など、必ず表面が水平な場所に設置してください。

テレビの上に設置するときは、左図のように付属の固定テープ(2個)をセンタースピーカー底面とテレビ上面に貼り、固定してください。

注意

- スピーカー底面よりも面積が狭いテレビの上面には設置しないでください。スピーカーが落下するとけがの原因になります。
- 上面が傾斜しているテレビの上には設置しないでください。スピーカーが落下するとけがの原因になります。
- 固定テープのシールをはがした後は、接着面にはさわらないでください。テープの接着力が弱まり、スピーカーが落下する原因になります。
- 固定テープを貼る前に、テレビの上面をきれいに拭いてください。表面が汚れていたり、濡れていたりすると、テープの接着力が弱まり、スピーカーが落下する原因になります。

サブウーファーを設置しましょう



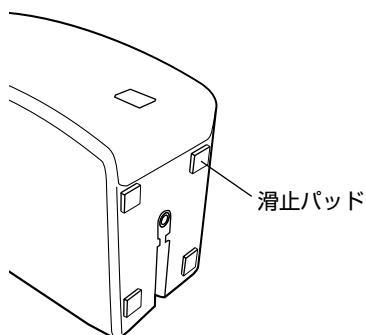
サブウーファーは水平で固い床の上などに設置してください。

設置するときは、図のように付属の滑止パッドをサブウーファー底面の4隅に貼り付けてください。振動によりサブウーファーが滑るのを防ぎます。また、安定性が増すため、音質の劣化防止にも役立ちます。

フロントとサラウンドスピーカーを設置しましょう

フロントスピーカーやサラウンドスピーカーは床やラックの上に置いたり、壁に掛けることもできます。また、別売のスピーカブラケットを取り付けて天井から下げたり、別売のスピーカースタンドに取り付けることもできます。

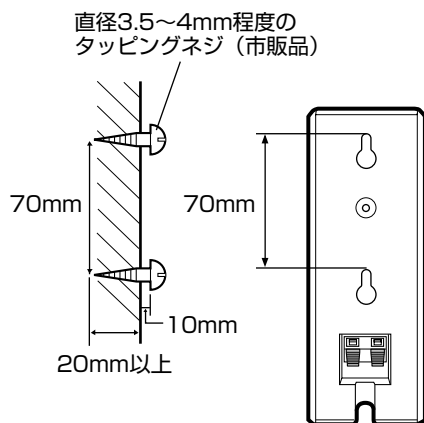
床やラックなどの上に設置するには



図のようにフロントスピーカーとサラウンドスピーカー底面の4隅に付属の滑止パッドを貼り付けてください。スピーカーが滑りにくくなり安定します。

※安定した水平な面に設置してください。

壁に取り付けるには



フロントスピーカーとサラウンドスピーカーの背面の穴2つを使って壁に取り付けます。

1 フロントスピーカーやサラウンドスピーカーを掛ける場所に2本のタッピングネジ（市販品：直径3.5～4mm）を取り付けます。

2 ネジの頭に穴を掛ける。

注意

- タッピングネジを穴の狭い部分におさまるように入れてください。
- スピーカーが確実に固定されているか確認してください。

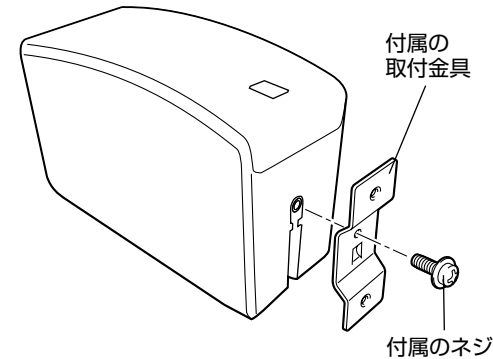
注意

- スピーカーの質量は1台約0.9kgです。ネジを止める場所には、しっかりとした壁または柱を選んでください。モルタルや化粧ベニア板など、はがれやすい材質の壁には取り付けないでください。ネジが抜けてスピーカーが落下するとけがの原因になります。
- スピーカーを釘や両面テープなどで取り付けないでください。使用中の振動で釘がゆるんだり、両面テープがはがれ、スピーカーが落下するとけがの原因になります。
- スピーカークーブルを足や手に引っかけて本体やスピーカーを落下させたりしないように、ケーブルは必ず固定してください。
- 取り付け後は必ず安全性を確認してください。

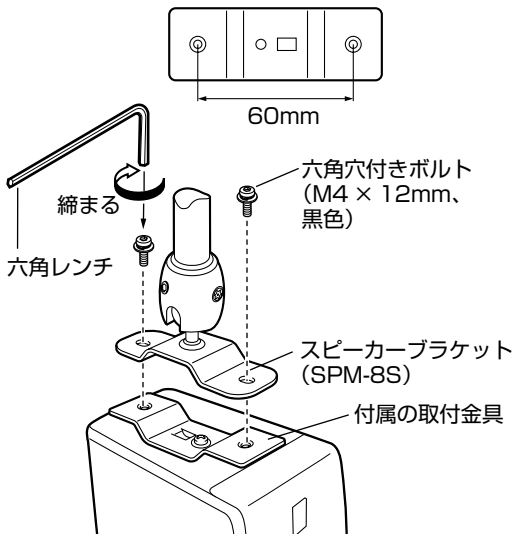
取り付け箇所、取り付け方法の不備による事故等の責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。

スピーカーブラケットやスピーカースタンドを取り付けるには

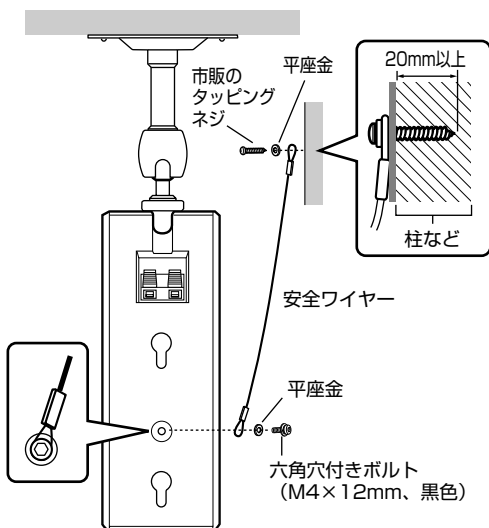
フロントスピーカーやサラウンドスピーカーは、別売のスピーカーブラケット (SPM-8S) を使って天井から下げることができます。また、別売のスピーカースタンド (SPS-80) を使って床の上に設置することもできます。



- 1 付属のネジで、スピーカー底面に付属の取付金具を取り付けます。**
金具の凸部分とスピーカー底部の溝に入るようにしてください。



- 2 取付金具の穴 (60mm 間隔) を使い、スピーカーブラケットを六角穴付きボルト (M4 x 12mm, 黒色) で固定します。**
六角穴付きボルト (M4 x 12mm, 黒色) を六角レンチで締めて固定します。スピーカーブラケット (SPM-8S) に付属の六角穴付きボルトと六角レンチをお使いください。



- 3 落下防止のために、スピーカー背面のネジ穴に安全ワイヤーを取り付けてください。平座金の上から六角穴付きボルト (M4 x 12mm, 黒色) で安全ワイヤーを確実に固定してください。**
- 4 安全ワイヤーを天井や壁などの強固な場所に平座金の上から市販のタッピングネジなど (直径 4 ~ 5mm, 長さは左図参照) で安全ワイヤーを確実に固定してください。**

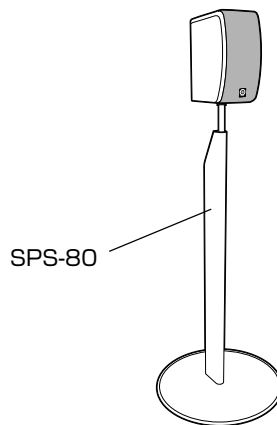
📌 アドバイス

- 取り付けるときは、使用するスピーカースタンドやスピーカーブラケットの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 平座金、六角穴付きボルト、安全ワイヤーはスピーカーブラケットSPM-8Sの付属品をお使いください。

お部屋にあわせて最適なリスニング環境を作りましょう

別売ヤマハスピーカースタンドSPS-80

スピーカースタンド (SPS-80) を使用すると、フロントスピーカーやサラウンドスピーカーを床の上に設置することができます。(2台1組)



市販のスピーカーやスピーカーケーブルも使えます

お好みに応じて、付属のセンタースピーカー、フロント／サラウンドスピーカー、サブウーファーの代わりに市販のスピーカーを使用することができます。また、付属のスピーカーケーブルを市販のスピーカーケーブルに交換することもできます。

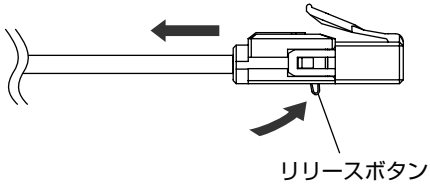
次の点に注意してお使いください。

- 6 Ω以上のインピーダンスのスピーカーをお使いください。6 Ω未満のインピーダンスのスピーカーを使うと、保護回路が作動したり、故障することもあります。
- 防磁型スピーカーをご使用ください。
防磁型以外のスピーカーを使用すると、テレビ画面の映像が乱れることがあります。
防磁型スピーカーをお使いの場合でもテレビ画面の映像が乱れるときは、スピーカーとテレビを離して設置してください。
- 使用するスピーカーケーブルは付属のケーブルと同等の太さのものをお使いください。太すぎるケーブルは使えません。

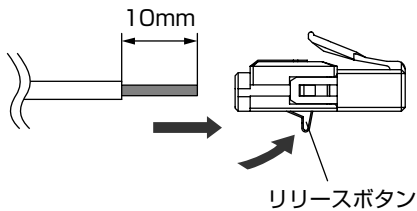
アドバイス

- 各スピーカーの音質が異なると、移動する人物の声などが不自然に変化することがあります。できるだけ、メーカーや音質の揃ったスピーカーをお使いください。

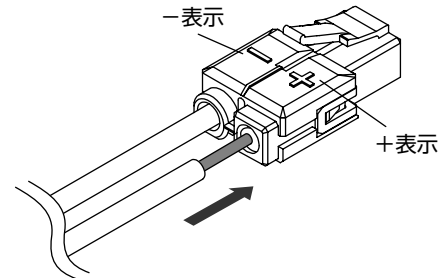
スピーカーケーブルを交換する



- 1 リリースボタンを押し上げ、付属のスピーカーケーブルをコネクターから抜きます。



- 2 市販のケーブルの先端の被膜を約 10mm はがして、中の芯線をしっかりよじります。しっかりよじらないとショートの原因になります。



- 3 リリースボタンを押し上げたまま、市販のケーブルの芯線を差し込みます。スピーカーケーブルの極性 (+/-) とコネクターの +/- 表示を合わせて差し込んでください。

- 4 リリースボタンから指を離すとケーブルが固定されます。

お部屋にあわせて最適なリスニング環境を作りましょう

スピーカーの音量レベルを調節しましょう

各スピーカーの音量は、基本的には調節しなくてもお使いいただけるように設定されていますが、お部屋の環境や視聴位置によっては音量の調節が必要になります。スピーカーの設置場所を変えたり家具の配置を変えたときなどは、テストトーンを出して各スピーカーの音量を調節することをおすすめします。

この調節は音場プログラムの効果を最大限に引き出したり、ドルビープロロジック、ドルビープロロジック II、ドルビーデジタルやDTS、AACサウンドを忠実に再現するための重要なポイントになります。

テストトーンで調節した後も、ソースによっては再生中にスピーカーの音量レベルを調節したい場合があるかもしれません。そんなときは、「再生中にスピーカーの音量レベルを調節しましょう」(→P.58)をご覧ください。

注意

- ヘッドホンをつないでいると、音量レベルを調整できません。ヘッドホンは取り外してください。

スピーカーバランスをテストトーンで調節しましょう

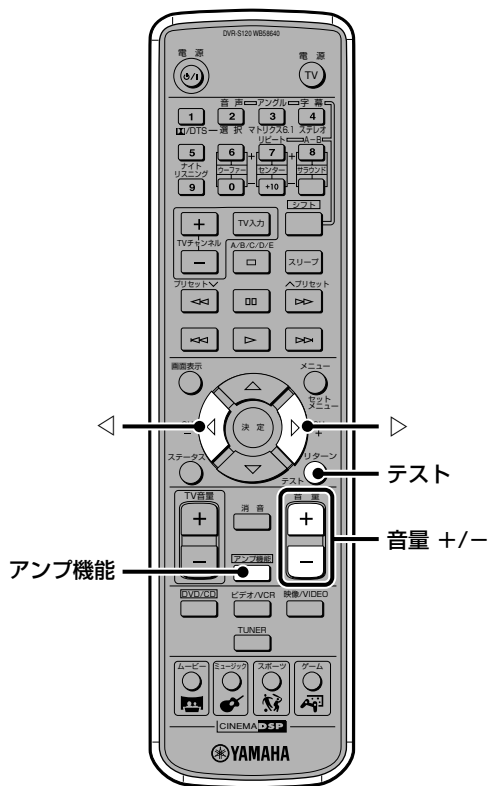
視聴位置で聞こえる各スピーカーからの音の大きさが同じになるように調節します。

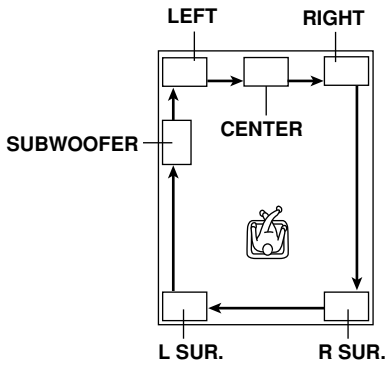
注意

- 調節はリモコンを使い、必ず視聴位置で行ってください。

1 アンプ機能キーを押します。

2 テストキーを押します。





3 テストトーンが聴こえるように、音量 + / - キーを押して全体の音量を調節します。

テストトーンは、左図のようにLEFT (フロントLスピーカー) → CENTER (センタースピーカー) → RIGHT (フロントRスピーカー) → R SUR. (サラウンドRスピーカー) → L SUR. (サラウンドLスピーカー) → SUBWOOFER (サブウーファー) ... の順で巡回し、それぞれ約2秒間ずつ聴こえます。シネマステーションのディスプレイにはテストトーンを出しているスピーカーが表示されます。

4 調節したいスピーカーからテストトーンが出ている間に ◀ キーまたは ▶ キーを押して、フロントスピーカーの音量レベルと同じになるように調節します。

調節中のスピーカーだけがテストトーンを出します。

注意

- テストトーンモードでは、基準となるフロントスピーカーの音量レベルを ◀ キーまたは ▶ キーで調節することはできません。テストトーンモードを終了してから、必要に応じて音量 + / - キーでフロントスピーカーの音量(ボリューム)を調節してください。

5 調節が終わったら、テストキーを押します。テストトーンが止まります。

アドバイス

- センタースピーカーやサラウンドL、Rスピーカーの音量レベルを+10dBまで上げてもフロントスピーカーより音が小さい場合は、セットメニュー「*F. Level」を-10dBに設定して、フロントスピーカーの音量レベルを約1/3に下げてください。フロントスピーカーの音量レベルを変更した場合は、センタースピーカーとサラウンドL、Rスピーカーの音量レベルをもう一度調節してください。

注意

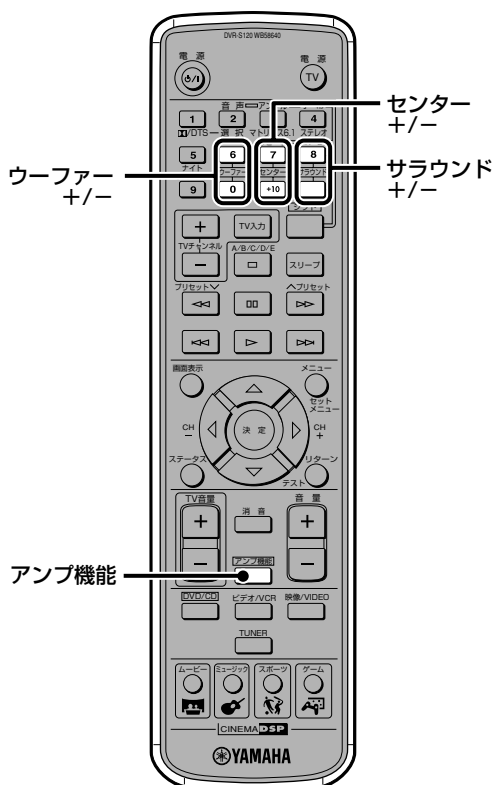
- セットメニューの「*CENTER」がNONIに設定されている場合は、センタースピーカーの音量レベルを調節することはできません。テストトーンは左右のフロントスピーカーに振り分けられて出力されます。
- セットメニューの「*SUR.」がNONIに設定されている場合は、サラウンドL、Rスピーカーの音量レベルを調節することはできません。テストトーンはサラウンドL、Rスピーカーをとばして巡回します。
- セットメニューの「*BASS」がFRONTに設定されている場合は、サブウーファーの音量レベルを調節することはできません。テストトーンはサブウーファーをとばして巡回します。
- サブウーファーから出るテストトーンは、ほかのスピーカーのテストトーンと音質が異なりますが故障ではありません。

再生中にスピーカーの音量レベルを調節しましょう

再生音を聴いていて、スピーカーのバランスが良くないと感じたら、サブウーファー、センター、サラウンドL/Rスピーカーの音量レベルを調節してください。

アドバイス

- フロントスピーカー以外の音量レベルを調節できます。



1 再生中にアンプ機能キーを押します。

2 スピーカーの音量レベルを調節します。

サブウーファーの音量を調節するには：
ウーファー +/−キーを押します。

センタースピーカーの音量を調節するには：
センター +/−キーを押します。

サラウンドスピーカーの音量を調節するには：
サラウンド +/−キーを押します。L/Rは同時に調節されます。

アドバイス

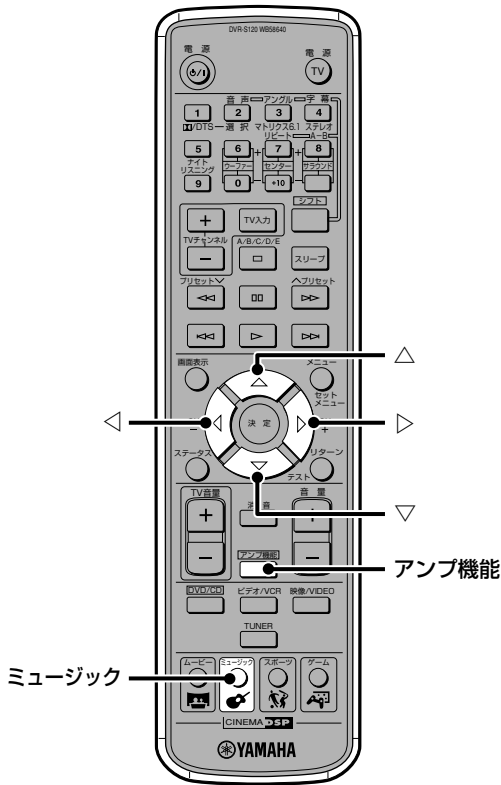
- 音量レベルの調節範囲は、+10〜−10dBです。
- サラウンドスピーカーL/Rを別々に調節することはできません。同量の値が加減されます。テストトーンで調節したレベルがL/Rで異なる場合、どちらかを最大値の+10dBまたは最小値の−10dBまで調節すると、それ以上またはそれ以下のレベルにすることはできません。
- あらかじめ、「スピーカーバランスをテストトーンで調節しましょう」(P.56)を行うことをおすすめします。
- ウーファーキー、センターキーやサラウンドキーでスピーカーの音量レベルを調節すると、テストトーンで調節したスピーカーの音量レベルも変更されます。

注意

- セットメニューの設定によっては音量レベルを調節できないスピーカーがあります。
 - − 「*CENTER」がNONに設定されている場合は、センタースピーカーの調節はできません。
 - − 「*SUR.」がNONに設定されている場合は、サラウンドスピーカーの調節はできません。
 - − 「*BASS」がFRONTに設定されている場合は、サブウーファーの調整はできません。

音場プログラム 5ch Stereo を選んだときのスピーカーの音量レベルを調節しましょう

音場プログラムの 5ch Stereo 専用の音量レベルを調節できます。



- 1 再生中にアンプ機能キーを押します。
- 2 ミュージックキーを繰り返し押しして 5ch Stereo を選びます。
- 3 △キーまたは▽キーを繰り返し押しして、調節したいスピーカーを選びます。
CT LEV → RL LEV → RR LEV → CT LEV... の順で切り替わります。
センタースピーカーの音量レベルを調節するには：CT LEV を選びます。
サラウンドLスピーカーの音量レベルを調節するには：RL LEV を選びます。
サラウンドRスピーカーの音量レベルを調節するには：RR LEV を選びます。
- 4 ◀キーまたは▶キーを押して、スピーカーの音量レベルを調節します。
50%にすると、スピーカーの音量が半分になり、0%にすると音は出なくなります。

お部屋にあわせて最適なリスニング環境を作りましょう

アドバイス

- 0～100%まで調節できます。工場出荷時は100%の最大値になっています。

注意

- 5ch Stereoモード時にテストトーンや、センターキー、サラウンドキーで調節した音量レベルは、ここで調節した音量レベルに置き換わります。
ディスプレイに表示されるスピーカーの音量は変わりませんが、実際の音量は調節されています。実際の音量＝音量表示×調節した割合(%)になります。
- セットメニューの「*CENTER」がNONに設定されている場合はセンタースピーカーの調節はできません。「*SUR.」がNONに設定されている場合はサラウンドスピーカーの調節はできません。

使用するスピーカーとサイズを決めましょう

音場効果などを十分に味わうためには、付属の6本のスピーカー（フロント、センター、サラウンド、サブウーファー）をすべて使うのが理想的ですが、必要に応じて、音を出さないスピーカーを指定することができます。

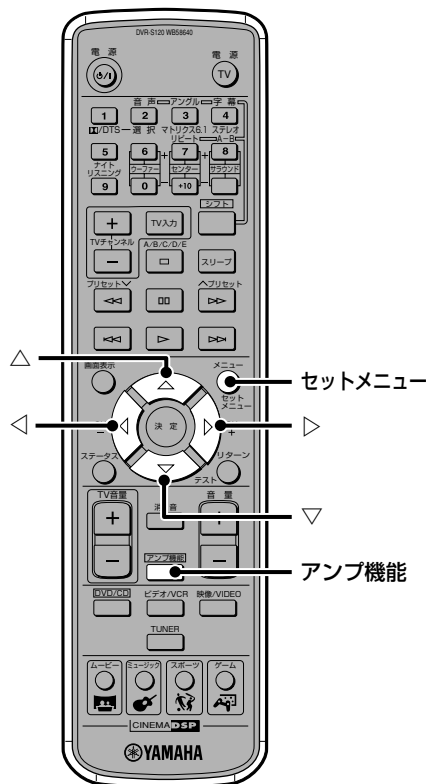
また、お手持ちのスピーカーなど、ほかのスピーカーを使う場合は、スピーカーのサイズを必ず設定してください。

これらの設定はスピーカーモードで行います。

スピーカーモードを設定しましょう

音を出さないスピーカーを指定するには、「*CENTER」、[*SUR.]、[*BASS] で設定します。

ほかのスピーカーを使う場合は、スピーカーのサイズを「*CENTER」、[*FRONT]、[*SUR.]、[*BASS] で必ず設定し、必要に応じてフロントスピーカーのレベルを「*F. Level」で設定してください。



1 アンプ機能キーを押します。

2 セットメニューキーを押します。
「*Speaker Set」が表示されます。

3 ▷キーを押します。

4 △キーまたは▽キーを押して設定したい項目を選びます。

5 ◀キーまたは▶キーを押して設定を変更します。

6 4、5 を繰り返して、必要な項目を設定します。

7 セットメニューを終了するときは、セットメニューキーを押します。

音場プログラムキーのどれかひとつを押しても、セットメニューを終了できます。

アドバイス

- ほかのスピーカーを使用するときは、次を目安に設定してください。
 - ウーファーの口径が約16cm以下の場合：SML(小)
 - ウーファーの口径が約16cm以上の場合：LRG(大)
- 「*FRONT」がSMLに設定されていても、「*BASS」の設定がFRONTの場合は、フロントL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域はフロントスピーカーから出ます。
- 「*SUR.」がNONに設定されているときに音場プログラムを選ぶと、バーチャルシネマDSPモードになります。
- スピーカーモードで設定した内容は、ヘッドホンの音には反映されません。

注意

- 48kHzを超えるサンプリング周波数のデジタル信号が入力されると、項目によっては再生する音声に設定が反映されない場合があります。

***CENTER**

センタースピーカーの有無やサイズを設定します。

選択項目：LRG (大)、SML (小)、NON (なし)

初期設定：SML (小)

LRG：大型のセンタースピーカーを使用するときに選びます。

センターチャンネル信号の全帯域が、そのままセンタースピーカーに出力されます。

SML：小型のセンタースピーカーを使用するときに選びます。

センターチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「*BASS」で選んだスピーカーに出力されます。

NON：センタースピーカーを使用しないときに選びます。

センターチャンネル信号は、フロントL、Rスピーカーに同じ音量レベルで振り分けられます。

***FRONT**

フロントスピーカーのサイズを確定します。

選択項目：LRG (大)、SML (小)

初期設定：SML (小)

LRG：大型のフロントスピーカーを使用するときに選びます。

フロントL、Rチャンネル信号の全帯域が、そのままフロントL、Rスピーカーに出力されます。

SML：小型のフロントスピーカーを使用するときに選びます。

フロントL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「*BASS」で選んだスピーカーに出力されます。

***SUR.**

サラウンドL、Rスピーカーの有無やサイズを設定します。

選択項目：LRG (大)、SML (小)、NON (なし)

初期設定：SML (小)

LRG：大型のサラウンドL、Rスピーカーを使用していたり、サラウンドL、Rスピーカーにサラウンド側サブウーファーをスピーカーケーブル結線して使用する場合に選びます。

サラウンドL、Rチャンネル信号の全帯域が、そのままサラウンドスピーカーに出力されます。

SML：小型のサラウンドL、Rスピーカーを使用するときに選びます。

サラウンドL、Rチャンネル信号の90Hz以下

の低音域は、「*BASS」で選んだスピーカーに出力されます。

NON：サラウンドL、Rスピーカーを使用しないときに選びます。

サラウンドL、Rチャンネル信号はフロントL、Rスピーカーにそれぞれ振り分けられません。

***BASS**

LFE/BASS (低音) 信号を出力するスピーカーを選びます。

(LFE信号とは、ドルビーデジタルやDTS、AACの音声に含まれる90Hz以下の低域効果音のことです。)

選択項目：SWFR (サブウーファー)、FRONT (フロント)、BOTH (両方)

初期設定：SWFR (サブウーファー)

SWFR：サブウーファーを使用するときに選びます。

LFE信号と、「*CENTER」、「*FRONT」、「*SUR.」の設定による他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、サブウーファーに出力されます。

FRONT：サブウーファーを使用しないときに選びます。

LFE信号と、「*CENTER」、「*FRONT」、「*SUR.」の設定による他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、フロントL、Rスピーカーに出力されます。

BOTH：サブウーファーを使用し、さらにフロントスピーカーの設定に関わりなく、90Hz以下の低音域をLFEチャンネルにミックスするときに選びます。

フロントL、Rチャンネルの低音域が、フロントL、Rスピーカーとサブウーファーの両方に出力されます。2チャンネル再生やドルビーサラウンド再生のとき、サブウーファーから音を出すことができます。

***F. Level**

フロントスピーカーのレベルを選びます。

フロントスピーカーの音量レベルが極端に大きく、他のスピーカーの音量レベルがフロントスピーカーに合わない場合には、フロントスピーカーの音量レベルを下げて音声のバランスを取ることができます。

選択項目：Nrm (ノーマル)、-10 dB

初期設定：Nrm (ノーマル)

Nrm：通常はこの設定にします。

-10 dB：センタースピーカーやサラウンドスピーカーの出力レベルがフロントスピーカーに合わない場合は、この設定にします。フロントスピーカーの音量レベルが-10 dB (約 1/3) になります。

目的によって音場を使い分けましょう

音を出したいスピーカーの数やお楽しみになる環境などによって音場を使い分け、シネマステーションをフルに活用してください。

音を出したいスピーカーの数で音場を選びましょう

- スピーカー6本+バーチャルサラウンドバックスピーカー→P.62「マトリクス6.1をお楽しみましょう」
- スピーカー6本→P.64「CDやビデオを再生するときもすべてのスピーカーから音を出して楽しみましょう」
- スピーカー2本→P.66「フロントスピーカーだけで音場プログラムを楽しんで見ましょう(バーチャルシネマDSP)」

お楽しみになる環境によって音場を選びましょう

- ヘッドホンで楽しむ→P.67「ヘッドホンで音場プログラムをお楽しみましょう(サイレントシアター)」
- 夜間でも楽しむ→P.68「小さな音量でも音場プログラムをお楽しみましょう(ナイトリスニングモード)」
- リスニングルームの状況などに合わせて音場プログラムの設定を変更する→P.69「音場プログラムのディレイタイムを変更しましょう」

ストレートな音をお楽しみましょう

- ドルビーやDTSをそのまま聴く→P.71「ドルビーやDTSなどのオリジナルサウンドを忠実に再生してみましょう」
- CDなどの2チャンネルソースをそのまま聴く→P.72「CDなどの2チャンネルソースをそのまま楽しんでみましょう(ステレオ再生)」

マトリクス6.1をお楽しみましょう

真正面から真後ろに音が抜けて行く移動表現を、サラウンドバックの音によってリアルに感じられるのがマトリクス6.1の大きな特長です。


シネマステーションでドルビーデジタルサラウンドEXやDTS ES ディスクを再生すると、ドルビーデジタル+マトリクス6.1音声やDTS+マトリクス6.1音声に自動的に切り替わるので、なにも操作しなくてもマトリクス6.1をお楽しみいただけます。

さらに、ドルビーデジタルサラウンドEXやDTS ES ディスクだけでなく5.1チャンネルソースでも、マトリクス6.1をお楽しみいただけます。マトリクス6.1キーで、マトリクス6.1を選ぶと、ドルビーデジタル+マトリクス6.1やDTS+マトリクス6.1デコーダーがはたらき、サラウンドL、Rチャンネルからサラウンドバックチャンネルを作り出して、バーチャルサラウンドバックスピーカーから音を出すことができます。



- 1 アンブ機能キーを押します。
- 2 マトリクス6.1キーを押して設定します。
マトリクス6.1キーを押すたびに、AUTO(自動判別)→Matrix6.1(マトリクス音声)→OFF→AUTO→...の順にディスプレイの表示が切り替わります。

- AUTO :** ドルビーデジタルサラウンドEXやDTS ESディスクを再生すると、ドルビーデジタル+マトリクス6.1音声またはDTS+マトリクス6.1音声に自動的に切り替わり、バーチャルサラウンドバックスピーカーから音が出ます。
5.1チャンネルソースをこの設定で再生しても、バーチャルサラウンドバックスピーカーは作られません。
- Matrix6.1 :** 5.1チャンネルソースをマトリクス6.1で再生するときを選びます。バーチャルサラウンドバックスピーカーから音が出ます。
- OFF :** マトリクス6.1デコーダーははたらきません。ドルビーデジタルサラウンドEXやDTS ESディスクを再生しても、バーチャルサラウンドバックスピーカーからは音が出ません。

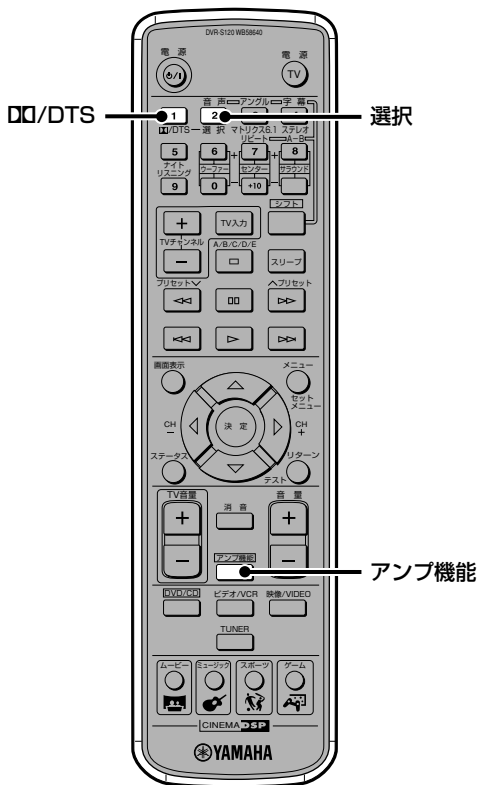
 **アドバイス**

- マトリクス6.1デコーダー作動中には、MATRIX表示がシネマステーションのディスプレイに点灯します。音場プログラム名の後には6.1が表示されます(例:Action 6.1)。ドルビーデジタル、DTS、AAC音場ではMatrix 6.1が表示されます。

 **注意**

- ドルビーデジタルサラウンドEXやDTS ESディスクによっては、シネマステーションが自動的に認識できる信号(フラグ)が含まれていない場合があります。このようなディスクを6.1チャンネルで再生するには、マトリクス6.1キーを押してMatrix6.1を選択してください。
- 次のような場合には、マトリクス6.1キーを押しても6.1チャンネル再生はできません。
 - セットメニューの「*SUR.」がNONIに設定されている。
 - 音場効果がオフ(ステレオ再生)になっている。
 - ヘッドホンを接続している。
 - ドルビーデジタルKARAOKE方式のソースを再生している。
 - 音場プログラムの5ch Stereoを選んでいる。
- シネマステーションをスタンバイ状態にしてからもう1度電源を入れると、マトリクス6.1はAUTOに戻ります。

CDやビデオを再生するときもすべてのスピーカーから音を出して楽しみましょう



ドルビープロロジック II を選択すると、2チャンネルソースを仮想的に多チャンネル化できるので、すべてのスピーカーから音を出してお楽しみいただけます。

- 1 2チャンネルソースを再生します。
- 2 アンプ機能キーを押します。
- 3 Dolby/DTS キーを押します。
- 4 選択キーを繰り返し押しして PRO LOGIC II を選びます。
- 5 Dolby/DTS キーを押して、PRO LOGIC II Movie または PRO LOGIC II Music を選びます。
キーを押すたびに、PRO LOGIC II Movie と PRO LOGIC II Music が交互に切り替わります。映像系は Movie を、音楽系は Music を、ソースに合わせて選んでください。

アドバイス

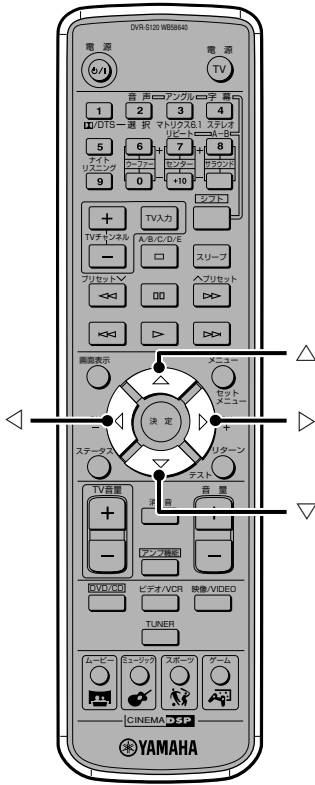
- 本体のDSPキーを繰り返し押しして、PRO LOGIC II MovieやPRO LOGIC II Musicを選択することもできます。

注意

- モノラルソースをドルビープロロジック IIで再生しても多チャンネルにはなりません。

ドルビープロロジック II Music の設定を変更するには

ドルビープロロジック II Musicの設定値(パラメーター)を変更して、リスニングルームにあわせた音場にアレンジできます。



- 1 「CD やビデオを再生するときもすべてのスピーカーから音を出して楽しみましょう」(→ P.64) の手順 ① ~ ⑤ を行い、PRO LOGIC II Music を選びます。
- 2 △キーまたは▽キーを押して、PANORAMA、DIM. または CT WIDTH を選びます。
- 3 ◀キーまたは▶キーを押して、設定値を変更します。
- 4 他の設定値を変更したいときは、手順 ② と ③ を繰り返す。

プロロジック II Music 設定値(パラメーター)は次の通りです

PANORAMA

フロントL、Rチャンネルの音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場全体につながりを持たせ、広がり感が得られます。

機能：ドルビープロロジックIIのフロント音場の広がり調節します。

選択項目：OFF/ON

初期設定：OFF

DIM.

ソフトによって生じるフロントとサラウンドチャンネルの音量の差を調節して、お好みのバランスが作れます。

機能：サラウンド音場のフロント側とサラウンド側の音量の差を調節します。

可変範囲：-3(サラウンド方向へ強く)~+3(フロント方向へ強く)

初期設定：STD(スタンダード)

CT WIDTH

センターチャンネルからの音声を、お好みにあわせて左右に振り分けることができます。

機能：サラウンド音場のセンターチャンネル音声の左右への広がり調節します。

可変範囲：0~7

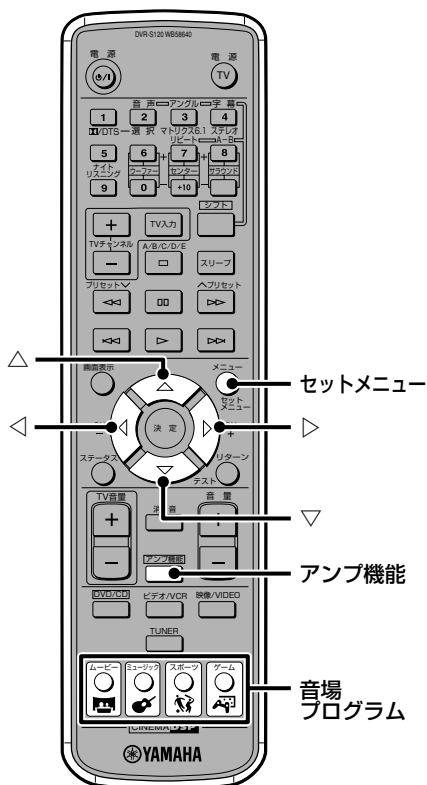
0にすると、センターチャンネル音声センタースピーカーからのみ出力されます。数値を増やして行くと、センターチャンネル音声フロントL、Rスピーカーに少しずつ振り分けられて行き、7にするとフロントL、Rスピーカーからのみ出力されます。

初期設定：3

いろいろな音場(サラウンド)効果を試みましょう

フロントスピーカーだけで音場プログラムを楽しんでみましょう(バーチャルシネマDSP)

入力ソースの音声はバーチャルシネマDSPで音場処理され、サラウンドスピーカーの音場を仮想的に再現するので、フロントL、Rスピーカーだけで音場プログラムを楽しめます。



- 1 ソースを再生します。
- 2 アンプ機能キーを押します。
- 3 音場プログラムを選びます。
- 4 セットメニューの「*SUR.」をNONに設定します。→ P.60「スピーカーモードを設定しましょう」


アドバイス

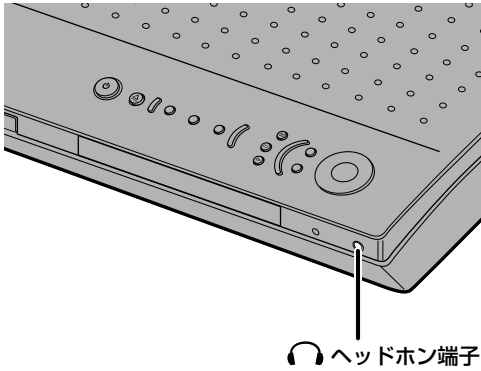
- バーチャルシネマDSPのときは、シネマステーションのディスプレイにVIRTUAL表示が点灯します。


注意

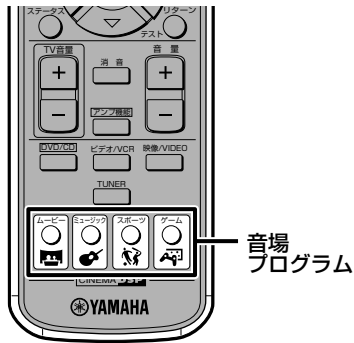
- 次の場合は、セットメニューの「*SUR.」がNONに設定されていても、バーチャルシネマDSPにはなりません。
- 音場プログラムの5ch StereoやPL Normal、ドルビーデジタル/DTS/AACの Normal、PL II MovieやPL II Musicを選んでいる。
 - 音場効果がオフ(ステレオ再生)になっている。
 - サンプリング周波数48kHzを超えるデジタル音声が入力されている。
 - テストトーンを使用している。
 - ヘッドホンをつないでいる。

ヘッドホンで音場プログラムを楽しみましょう(サイレントシアター)

ヘッドホンをシネマステーションの  ヘッドホン端子につなぐと、マルチスピーカーによる音場プログラムをヘッドホンで擬似的に再現するサイレントシアターで音声を楽しめます。(音場効果がオフのときは通常のステレオ再生になります。)



- 1 ヘッドホンをシネマステーションの  ヘッドホン端子につなぎます。
- 2 ソースを再生します。
- 3 音場プログラムを選びます。



いろいろな音場(サラウンド)効果を試みましょう

アドバイス

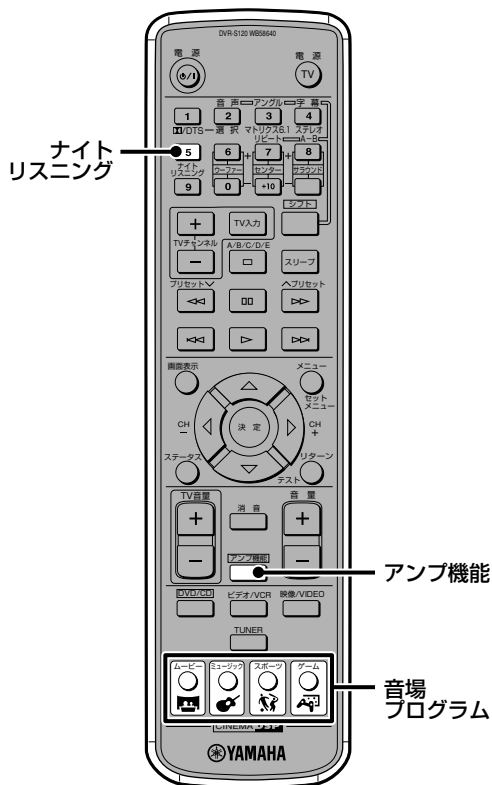
- サイレントシアターがオンのときには、シネマステーションのディスプレイにSILENT THEATER表示が点灯します。
- LFEチャンネル音声は他のチャンネル音声とミックスされます。
- ヘッドホンをつなぐと、音場効果のオン/オフにかかわらずどのスピーカーからも音は出ません。

注意

- サンプリング周波数48kHzを超えるデジタル音声が入力されているときは、サイレントシアターになりません。

小さな音量でも音場プログラムを楽しみましょう(ナイトリスニングモード)

大きな効果音を抑え、セリフなどははっきりと聞こえるように再生できます。夜間など小音量で再生するときも音場プログラムを楽しめます。



1 ソースを再生します。

2 アンプ機能キーを押します。

3 音場プログラムを選びます。

4 ナイトリスニングキーを押して、シネマステーションのディスプレイに「Night L. ON」を表示させます。

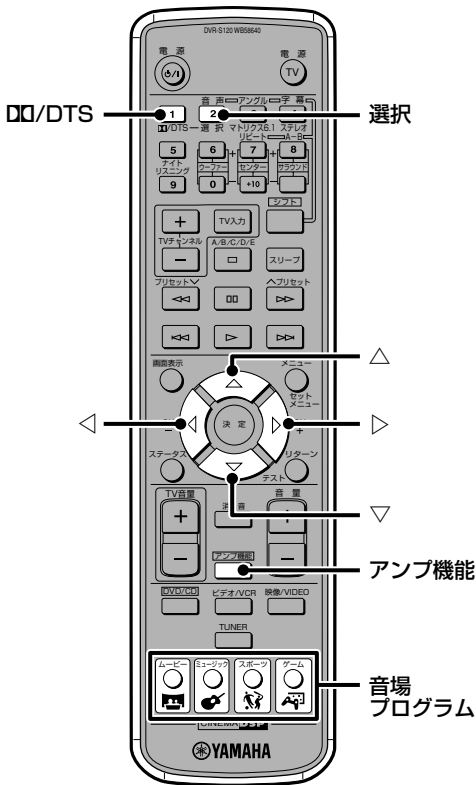
ナイトリスニングキーを押すたびに、「Night L. ON」と「Night L. OFF」が切り替わります。

通常の再生に戻すには: ナイトリスニングキーを押して、シネマステーションのディスプレイに「Night L. OFF」を表示させます。

アドバイス

- すべての音場プログラムをナイトリスニングモードで楽しめます。
- ヘッドホンをつないでいるときは、ナイトリスニングモードになりません。

音場プログラムのディレイタイムを変更しましょう



それぞれの音場プログラムはソースの特長を最大限に引き出すように作られています。反射音や残響音、ディレイタイムなど音場プログラムのさまざまな設定がその役割になっています。

これらのさまざまな設定のうち、ディレイタイムを変更することができます。

ディレイタイムとは、フロントスピーカーの音とサラウンドスピーカーのサラウンド音が再生される際の時間差のことです。数値を大きくするほどサラウンド音が遅れて再生され、音場空間が大きく感じられます。

ディレイタイムは各音場プログラムごとにそれぞれの最適値がプリセットされているので、通常は初期値のままでも十分お楽しみいただけますが、ソースやリスニングルームの状況に応じて各音場プログラムごとに調節することができます。

1 ソースを再生します。

2 アンブ機能キーを押します。

3 音場プログラムを選びます。

ムービー、ミュージック、スポーツ、ゲームの音場プログラムを選ぶには、音場プログラムキーを押します。

ドルビーデジタル、DTS、AAC音場を選ぶには、Dolby/DTSキーを押します。

ドルビープロロジックを選ぶには、Dolby/DTSキーを押してから、選択キーを繰り返し押します。

4 △キーまたは▽キーを押します。

本体ディスプレイにDELAYが表示されます。

5 ◀キーまたは▶キーを押してディレイタイムを調節します。

いろいろな音場(サラウンド)効果を試みましょう

アドバイス

- マトリクス6.1音場のディレイタイムも調節できます。

注意

- ソースによっては、ディレイタイムを増減しすぎると、効果音が不自然になることがあります。
- ディレイタイム調節中は、再生中の音が一時的に途切れることがあります。

ディレイタイムの初期値は次の通りです。

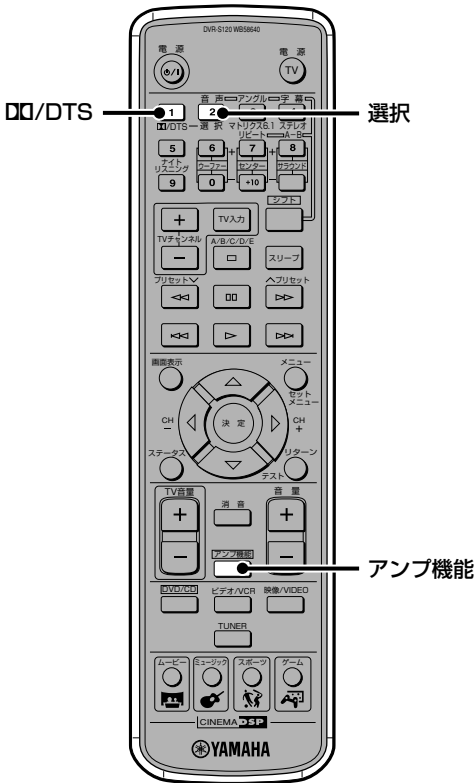
プログラムグループ	プログラム名	初期設定 (ms)	
🎬 ムービー	1	Action	20
		Action 6.1	15
	2	Drama	20
		Drama 6.1	15
	3	Sci-Fi (SF)	20
		Sci-Fi (SF) 6.1	15
	4	Spectacle	23
		Spectacle 6.1	15
	5	Theater	20
		Theater 6.1	5
🎵 ミュージック	1	Music Video	21
	2	Classic Hall	30
	3	Jazz Club	30
	4	Rock Concert	15
🏆 スポーツ	1	Live Sports	10
🎮 ゲーム	1	Game	36

ドルビーデジタル、ドルビープロロジック、DTS、AAC 音場

プログラム名	初期設定 (ms)
PL Normal (ドルビープロロジック)	15
Normal (ドルビーデジタル、DTS、AAC)	5
Matrix 6.1 (ドルビーデジタル、DTS、AAC)	5
PL II Movie (ドルビープロロジックIIムービー)	15
PL II Music (ドルビープロロジックIIミュージック)	5

ドルビーやDTSなどのオリジナルサウンドを忠実に再生してみましょう

ドルビーデジタルやドルビープロロジック、DTS、AACで処理されたサウンドを忠実に再生できます。スムーズで正確な音の移動など、オリジナルならではのサウンドデザインをお楽しみいただけます。



1 ソースを再生します。

2 アンプ機能キーを押します。

3 **Dolby/DTS** キーを押します。

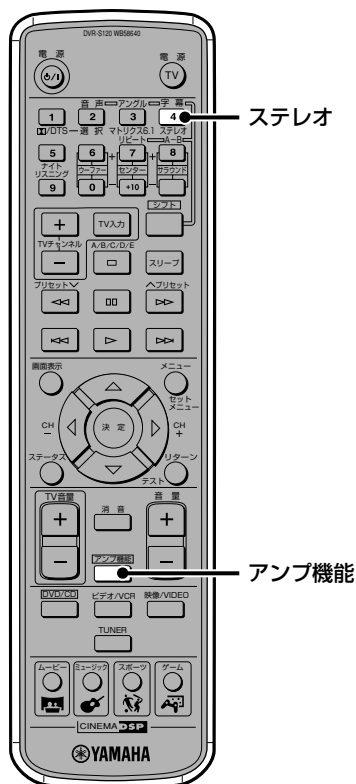
入力信号に応じて適切なプログラムが選ばれます。
ドルビーデジタルの場合：「Normal」が表示され、**Dolby**DIGITAL表示が点灯します。
DTSの場合：「Normal」が表示され、**dts**表示が点灯します。
AACの場合：「Normal」が表示され、AAC表示が点灯します。

2チャンネル信号（ドルビープロロジック）の場合は、**Dolby/DTS**キーを押してから、選択キーを押して「PL Normal」を表示させます。

いろいろな音場(サラウンド)効果を試みましょう

CDなどの2チャンネルソースをそのまま楽しんでみましょう(ステレオ再生)

CDなどの2チャンネルソースをオリジナルのまま再生できます。



1 ソースを再生します。

2 アンプ機能キーを押します。

3 ステレオキーを押します。

「STEREO」がシネマステーションのディスプレイに表示されます。

音場効果がオフになり、通常のステレオ再生に戻ります。ステレオキーをもう1度押すと、音場効果がオンになります。

アドバイス

- LFEチャンネル音声は、セットメニューの「*BASS」の設定に応じて、フロントL、Rスピーカーまたはサブウーファァーから出力されます。
- セットメニューの「*BASS」をBOTH、または「*FRONT」をSMLに設定している場合は、サブウーファァーから低音域が出力されます。

注意

- 音場効果をオフにすると、センタースピーカーとサラウンドL、Rスピーカーからは音は出ません。
- 音場効果をオフにしたり、セットメニューの「*D.Range」をMINIに設定すると、音量が極端に下がることがあります。このような場合は音場効果をオンにしてください。
- 音場効果をオフにしてドルビーデジタルやDTS、AAC音声を再生すると、フロントL、Rスピーカーの音量バランスが乱れることがあります。

ダイナミックレンジが圧縮され、セットメニューの「*Speaker Set」で設定したチャンネルの音声フロントL、Rチャンネルにミックスされて出力されるからです。

入力信号を知りましょう

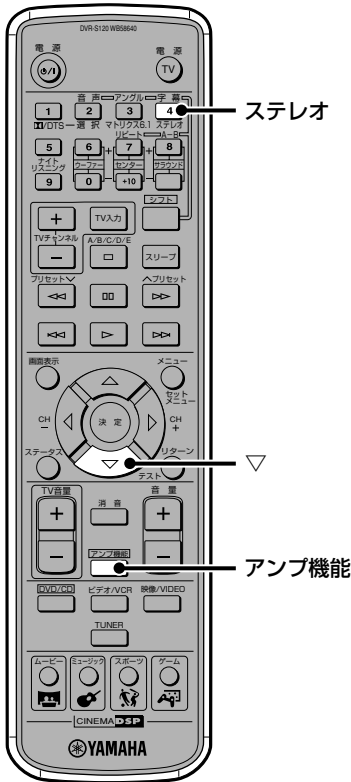
入力信号のタイプやフォーマットなどをシネマステーションのディスプレイに表示させて確認することができます。

また、デジタル/アナログ信号の入力順をきめたり、指定した信号だけを入力できるように入力モードを設定できます。

再生している音の情報をチェックしましょう(入力信号情報表示)

ステレオ再生中に、入力信号のタイプ、フォーマットやサンプリング周波数などの情報をディスプレイに表示できます。

- 1 ソースを再生します。
- 2 アンブ機能キーを押します。
- 3 ステレオキーを押します。
ステレオ再生になります。
- 4 ▽キーを押す。
入力信号の情報が表示されます。信号によっては、押すたびに情報の表示が切り替わります。



入力信号情報の見かた

■ (Format)

入力信号の信号フォーマットが表示されます。デジタル入力を認識できない場合は、アナログモードに設定されます。

入力信号	フォーマットの表示
アナログ音声	Analog
PCM 音声	PCM
ドルビーデジタル音声	Dolby DGTL
DTS 音声	DTS
AAC 音声	AAC
上記以外のデジタル信号	Unknwn DGTL

■ (Audio Channels)

入力信号の音声チャンネル数を表示します（ドルビーデジタル/DTS/AAC 入力時のみ）。

例えば、「in : 3/2/LFE」と表示された場合は、「フロント3チャンネル/サラウンド2チャンネル/LFE」を示しています。

また、二カ国語放送などの主+副の2チャンネル音声は「1 + 1」、3 音声以上の音声多重形式の音声は「MLT」と表示されます。

■ fs

入力信号のサンプリング周波数を表示します（デジタル信号入力時のみ）。サンプリング周波数が測定できない場合は、「unknown」と表示されます。

■ rate (bit rate)

入力信号の1秒あたりのデータ量[ビットレート]を表示します（ドルビーデジタル/DTSのみ）。ビットレートが測定できない場合は、「unknown」と表示されます。

■ fig (flag)

入力信号に含まれている、ある動作をさせるための識別信号[フラグ](ドルビーデジタル/DTSのみ)を表示します。フラグが判別できなかった場合は、「None」と表示されます。

48kHz を超えるデジタル信号についてのご注意

シネマステーションのデジタル入力端子には、サンプリング周波数 96kHz までのデジタル信号を入力することができます。詳しくは、デジタル入力端子に接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

48kHz を超えるデジタル信号を入力する場合は、次の点にご注意ください。

- 音場プログラムが選択できなくなります。フロントスピーカーだけから通常の2チャンネルステレオ音声が出ます。
- 再生中にはセンター、サラウンドL、Rスピーカーの音量レベルは調節できません。
- セットメニューの「*Speaker Set」の設定によっては、サブウーファーからも音が出る場合があります。

入力モードを切り替えましょう



入力選択キー

AUTO (工場出荷時の設定) の設定のままでほとんどのソースを問題なく再生できますが、必要に応じて入力信号のデジタル、アナログの優先順位を選んだり、AACなどの特定の系統に固定したりすることができます。

お好みの入力モードがディスプレイに表示されるまで、今選んでいる入力の入力選択キーを押し続けてください。

AUTO : 次の順序で入力信号が選ばれます。

- 1) デジタル信号
- 2) アナログ信号

DTS : DTS 信号以外は再生されません。

AAC : AAC 信号以外は再生されません。

ANLG : アナログ信号以外は再生されません。

入力モードと入力端子、入力選択キーの関係を知りましょう
シネマステーションはVIDEO入力 (アナログ)、VCR入力 (アナログ)、オプティカル入力 (デジタル) の各端子につないだ機器から信号を入力します。

オプティカル入力端子には入力名としてVIDEOまたはVCRを割り当てることができるので、入力選択キーの映像/VIDEOキーやビデオ/VCRキーでオプティカル入力端子につないだ機器も入力できます。(初期設定では、VIDEOが割り当てられています)

VIDEO入力やVCR入力端子からはアナログ信号が入力され、オプティカル入力端子からはデジタル信号が入力されますが、入力モードをAUTOに設定しておくことでデジタル/アナログの信号を自動的に判別し入力するので、入力選択キーを押すだけで再生したい機器の音声を楽しむことができます。

入力信号を知りましょう

アドバイス

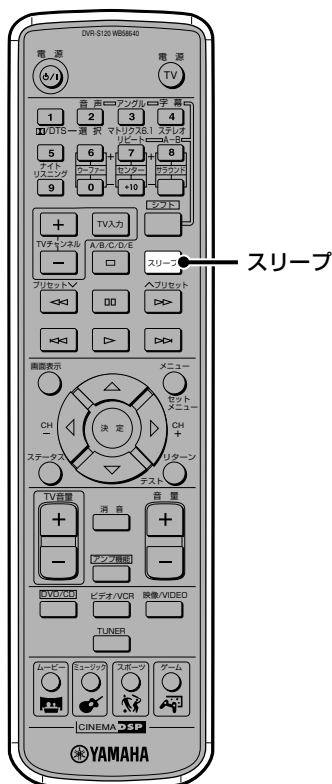
- シネマステーション本体のINPUTキーを1秒以上押しでも入力モードを切り替えることができます。
- 入力モードがAUTOに設定されているときに、ドルビーデジタルまたはDTS、AAC信号が入力されると、自動的に最適なデコーダーが選択されます。
- 入力モードをAUTOに設定してDTSを再生すると次のような状態になります：
 - シネマステーションはDTS信号を検知すると、自動的にDTSモード(**dts**表示が点灯)に切り替わります。DTS再生が終了したときに**dts**表示が点滅することがありますが、点滅中はDTS音声しか再生できません。DTS再生の終了後すぐに、通常のPCM音声を再生したいときは、入力モードをAUTOに設定しなおしてください。
 - サーチまたはスキップ操作をしてDTS信号がとぎれると、**dts**表示が点滅することがあります。この状態が約30秒以上続くと、自動的にDTSモードから通常のデジタル(PCM)入力に切り替わり、**dts**表示は消えます。
- セットメニューの「*InputMode」で、シネマステーションの電源を入れたときに前回指定した入力モードをそのまま使うか、AUTOに戻すかを指定することができます。

注意

- 入力選択キーのDVD/CDキーでは、AACやANLGを選ぶことはできません。
- シネマステーションのVCR入力端子(アナログ)やVIDEO入力端子(アナログ)だけにつないだ機器を入力した場合、入力選択キーのビデオ/VCRキーや映像/VIDEOキーを押しても入力モードを切り替えることはできません。
- DTSを再生するには、入力モードをAUTOまたはDTSに設定してください。ANLGには設定しないでください。音が出ない、雑音が出るなどのトラブルが起こります。

おやすみ前に楽しみましょう(スリープタイマー)

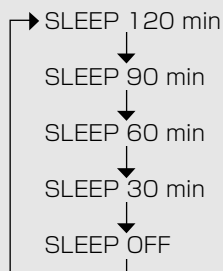
設定した時間が経過すると電源が自動的にスタンバイ状態になるので、お気に入りのソースを楽しみながらおやすみになれます。



1 ソースを再生します。

2 スリープキーを繰り返し押して、スタンバイ状態になるまでの時間を設定します。

シネマステーションのディスプレイ表示が次のように切り替わります。(min = 分)



スリープタイマーが設定されるとシネマステーションのディスプレイに「SLEEP」表示が点灯します。

スリープタイマーを解除するには

本体ディスプレイに「SLEEP OFF」が表示されるまで、スリープキーを繰り返し押します。しばらくすると「SLEEP OFF」が消えます。ディスプレイは音場プログラム表示に戻り、SLEEP表示も消えます。

アドバイス

- シネマステーションにつないだ機器の電源を本機のスリープタイマーで切ることはできません。再生する機器にスリープタイマー機能がある場合は、その機器側でもスリープタイマーを設定してください。
- リモコンの電源キー、または本体のSTANDBY/ONキーを押すか、電源コードを抜いてもスリープタイマーは解除されません。
- メモリーバックアップにより、前回設定した時間が記憶されているため、次回設定するときも同じ時間から設定できます。

高画質な映像を楽しみましょう

-プログレッシブ機能を使おう-

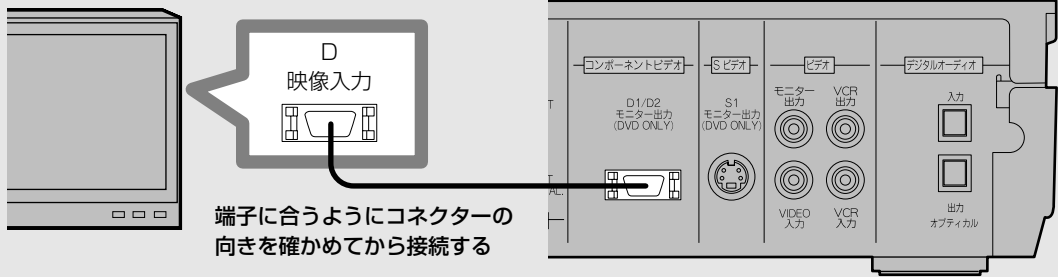
シネマステーションのD1/D2 モニター出力端子はプログレッシブ映像に対応しています。プログレッシブ入力対応でD2～D5 映像入力端子のあるテレビにつなぐと、高密度でちらつきの少ない高品質なDVDの映像が楽しめます。

お願い...

- ・シネマステーションとテレビの電源を切ってからつないでください。

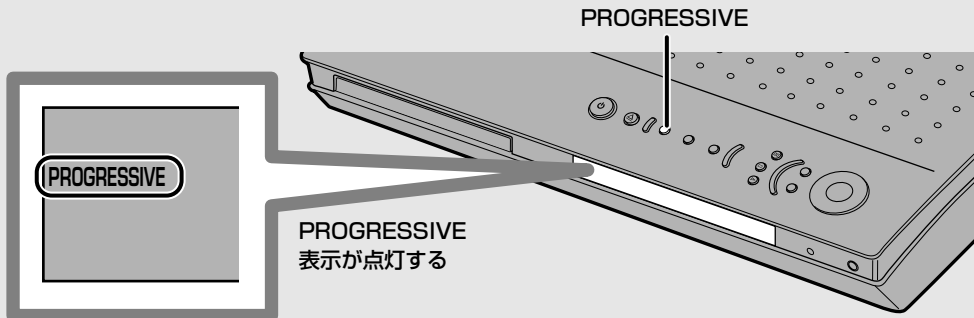
1 テレビとつなぎます。

市販のD端子接続ケーブル（D端子×1 ↔ D端子×1）をお使いください。



2 DVDの再生を始めます。→ P.10 「DVDを見ましょう」

3 シネマステーションのPROGRESSIVEキーを押します。



プログレッシブ機能を解除するには：もう一度PROGRESSIVEキーを押します。PROGRESSIVE表示が消えます。

アドバイス

- ・テレビのコンポーネント入力端子につなぐこともできます。市販のD端子 ↔ コンポーネント端子変換ケーブルをお使いください。
- ・4:3ソフトを16:9 ワイド画面のテレビで再生すると、プログレッシブ映像がスクリーンの横いっぱい広がって見えることがあります。その場合には、オンスクリーンメニューのセットアップ→TV設定→TVアスペクト(→P.92)をお使いのテレビに合った画面表示に変えてください。
変更できない場合は、プログレッシブ機能をオフにしてください。(インタレース出力になります。)
- ・プログレッシブ機能をオンにすると、映像信号はD1/D2モニター出力端子からのみ出力されます。D1/D2モニター出力端子とプログレッシブ機能はDVD専用ですので、他のソースのプログレッシブ映像をお楽しみいただくことはできません。

注意

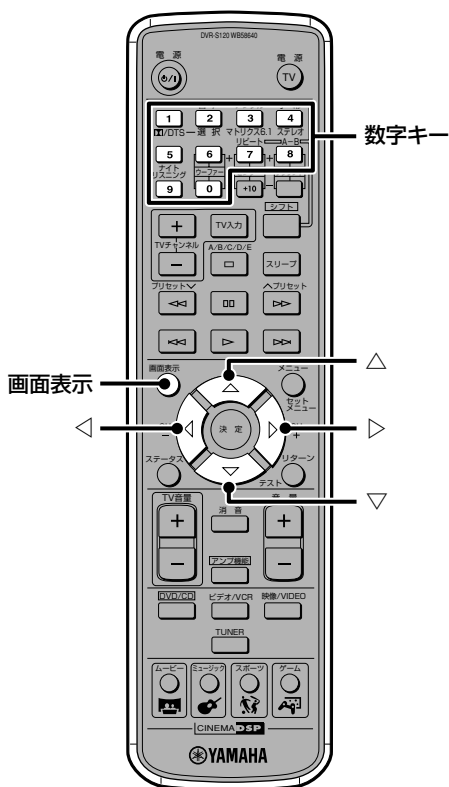
- ・一部プログレッシブ(525p)入力対応のテレビ(モニター)は本機と完全な互換がとれていないため、プログレッシブ再生時に画像に乱れが生じる場合があります。
その場合には、プログレッシブ機能をオフにして再生するか、本機と互換性がある機器をご使用ください。
なお、本機と互換性があるヤマハの機器は下記のとおりです。
DPX-1、LPX-500、DPX-1000
互換性についてご質問のある場合は当社のお客さま相談センター(0570-01-1808)へお問い合わせください。

お子さまが再生できないようにするには -視聴制限を使おう-

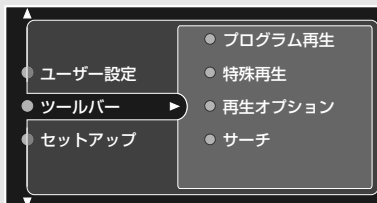
お子さまに不適切と思われるシーンをカットして再生したり、お子さま自身では再生できないようにすることができます。

シネマステーションで視聴制限レベルを設定すると、あらかじめソフトに設定された視聴制限レベルと照らし合わせながら、ソフトの内容が視聴者に対して適切なものかどうかを自動的に判断し再生します。

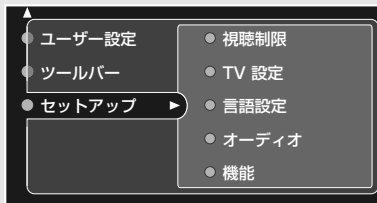
パスワードを設定し、視聴制限レベルを設定しましょう



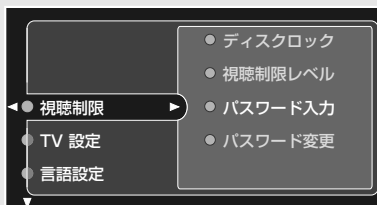
1 画面表示キーを押します。



2 ▽キーを押して「セットアップ」を選びます。



3 ▷キーを押してから、△キーを繰り返し押して「視聴制限」を選びます。

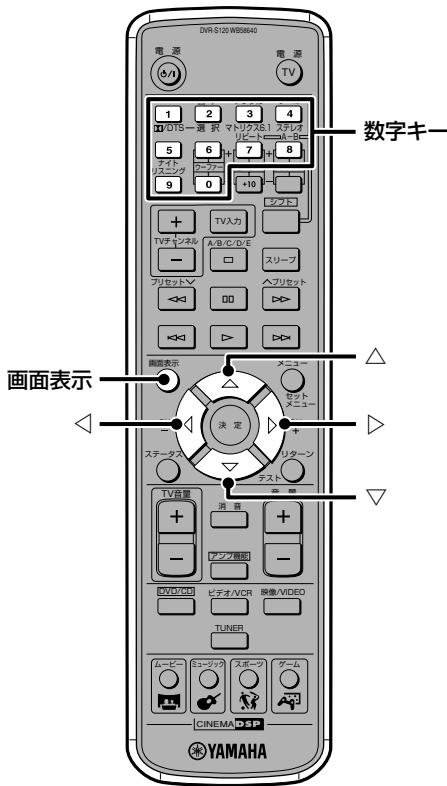


4 ▷キーを押してから、▽キーを押して「パスワード入力」を選び、▷キーを押します。



アドバイス

- 工場出荷時のパスワードは「0000」に設定されています。初めてパスワードを入力するときは「0000」を入力してください。
- パスワードを入力しても「視聴制限レベル」や「ディスクロック」などの項目がグレーに表示されたままで選べないときは、パスワードが間違っています。正しいパスワードをもう一度入力してください。
- パスワードを忘れてしまったときは、□キーを4回押し、画面の指示にしたがってください。



5 パスワード (数字4桁) を数字キーで入力します。

- ディスクロック
- 視聴制限レベル
- パスワード入力 ****
- パスワード変更

6 △キーを押して「視聴制限レベル」を選びます。

- ▲ ディスクロック
- ◀ 視聴制限レベル 0 ▶
- ▼ パスワード入力
- パスワード変更

7 ▷または◀キーを押して制限レベル(0~8)を選びます。

0: レベル設定しません。

すべてのディスクを再生できます。

1~7: 同じレベルか、それより制限の低いレベルのディスクや場면을再生できます。

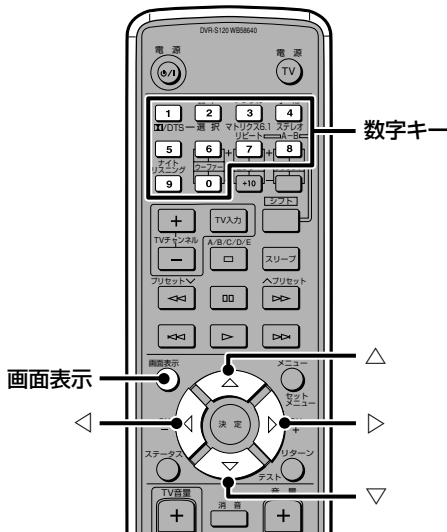
数値が小さいほど視聴制限は厳しくなります。

8: すべてのディスクを再生できます。(視聴制限なし)

- ▲ ディスクロック
- 視聴制限レベル 1 +3
- ▼ パスワード入力
- パスワード変更

8 設定が終わったら、画面表示キーを押してオンスクリーンメニューを閉じます。

パスワードを変更するには



1 「パスワードを設定し、視聴制限レベルを設定しましょう」(→P.78)の手順①~⑤までを行います。

2 ▽キーで「パスワード変更」を選び、▷キーを押します。

3 現在のパスワード(数字4桁)を数字キーで入力します。

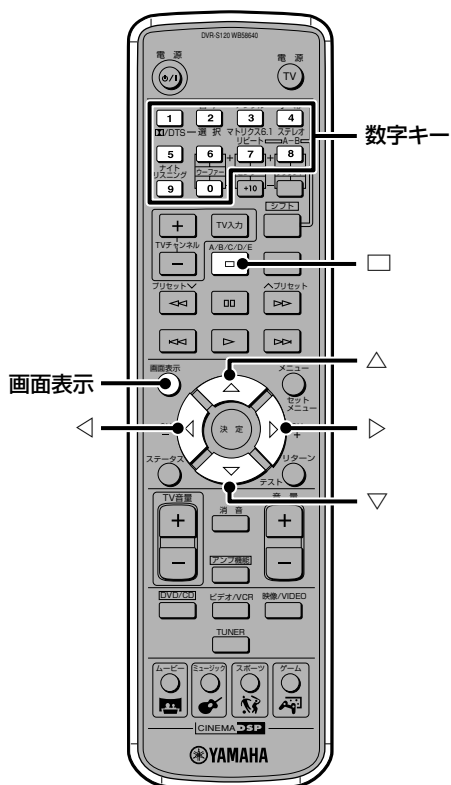
4 新しいパスワード(数字4桁)を数字キーで入力します。

「確認のため正しいパスワードを入力してください」が表示されます。

5 もう一度新しいパスワード(数字4桁)を数字キーで入力します。

6 設定が終わったら、画面表示キーを押してオンスクリーンメニューを閉じます。

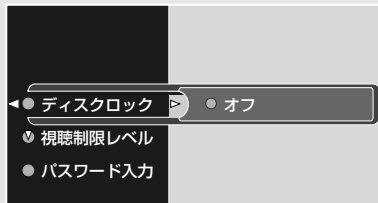
ディスクをロックしましょう



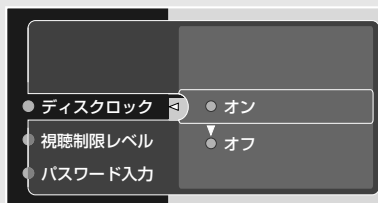
ディスクロックは映像ディスクの再生を制限する機能です。「ディスクロック」をオンに設定するとロックがかかり、ディスクは再生できなくなります。ディスクをセットするたびに「1回再生可」または「常に再生可」から再生の制限方法を選び、パスワードを入力して再生することができます。

1 「パスワードを設定し、視聴制限レベルを設定しましょう」(→P.78)の手順**1**～**5**までを行います。

2 △キーを何回か押して「ディスクロック」を選びます。



3 ▷キーを押してから、△キーを押して「オン」を選びます。



パスワードを入力しない限り、ディスクは再生できなくなります。

ロックしないときは「オフ」を選びます。

4 設定が終わったら、画面表示キーを押してオンスクリーンメニューを閉じます。

パスワードを入力して再生するには

1 ディスクをセットします。
テレビ画面に「1回再生可」か「常に再生可」の選択画面が表示されます。

2 △または▽キーで「1回再生可」または「常に再生可」を選びます。

3 ▷キーを押してから、パスワードを数字キーで入力します。
再生が始まります。

アドバイス

- 「ディスクロック」がオンのときに再生したディスクの識別情報はシネマステーションに記憶され、次回からそのディスクを再生するときは前回選んだ制限方法で再生されます。「1回再生可」を選ぶと、次回再生するときにも選択画面が表示されますが、「常に再生可」を選ぶと、次回再生するときには選択画面は表示されません。
- 「1回再生可」に変更するには、ディスクをセットして🔒が表示されてから10秒以内に□キーを押します。🔒が表示され、次回から制限方法の選択画面が表示されます。
- 120枚を超えるディスク情報は記憶できません。121枚目のディスクを再生すると1枚目(一番古い)のディスク情報が削除されます。

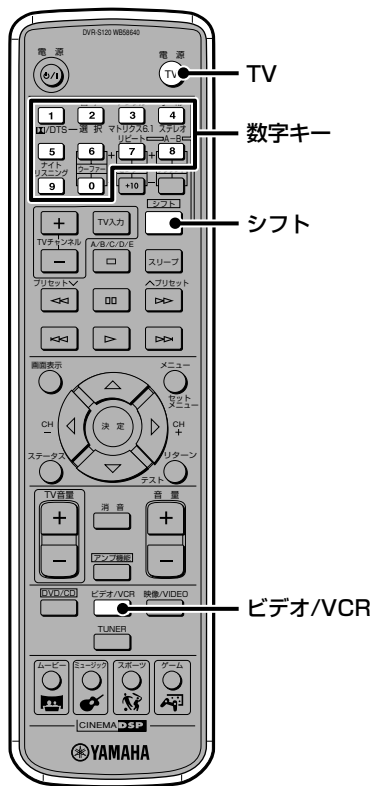
リモコンにテレビやビデオデッキ、またはMD/CDレコーダーの操作を記憶させましょう

メーカーコード（各メーカーごとに割り当てられた信号）をシネマステーションのリモコンに設定すると、接続したテレビやビデオデッキ、またはMD/CDレコーダーをリモコンで操作できます。

注意

- 機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。その場合はテレビやビデオデッキ、またはMD/CDレコーダー専用のリモコンをお使いください。

メーカーコードを設定しましょう



TV キーやビデオ/VCR キーにメーカーコードを設定すると、「操作できる機能を知りましょう」(→P.82) の操作が可能になります。

注意

- TVキーにはテレビのメーカーコードだけを設定できます。ビデオ/VCRキーにはビデオデッキ、MDレコーダーまたはCDレコーダーのメーカーコードを設定できます。

- 1 シフトキーを押しながら、TV キーまたはビデオ/VCR キーを押します。
各キーに1つのメーカーコードが設定できます。

注意

- 手順 ① ~ ② の間はシフトキーを押したまま操作してください。

- 2 シフトキーを押したまま、機器のメーカーコード(3桁)を数字キーで入力します。
メーカーコードについては「メーカーコード一覧表」(→P.83) をご覧ください。
入力が終わったらシフトキーから指を離します。

アドバイス

- 設定に成功すると、「Code Set OK」がシネマステーションのディスプレイに表示されます。失敗すると「Code Set NG」が表示されるので、手順 ① からもう一度操作してください。
- TVキーにはメーカーコード2999が、ビデオ/VCRキーにはビデオデッキのメーカーコード3999が工場出荷時に設定されています。

- 3 メーカーコードが正しく設定されたかを確認します。
TV キーにメーカーコードを設定したとき：TV キーを押して、コードを設定したテレビの電源を入/切(待機状態)し、正しく設定されたことを確認します。
ビデオ/VCR キーにメーカーコードを設定したとき：ビデオ/VCR キーを押し、「操作できる機能を知りましょう」(→P.82) の操作を行い、正しく設定されたことを確認します。

シネマステーションのリモコンでテレビやビデオデッキ、またはMD/CDレコーダーを操作しましょう

リモコンのTVキーやビデオ/VCRキーを押しても、メーカーコードを設定した機器を操作できないときは

次の点に注意して手順①から操作をやり直してください。

- メーカーコードを設定するとき、リモコンのTVキーやビデオ/VCRキーを正しく選んでいるか、確かめてください。
- 複数のメーカーコードがある場合は順番に入れてみてください。
- リモコンの電池を入れ直してから(2分以内にを入れ直してください)、操作をやり直してください。(電池を入れ直すとき、リモコンのキーを押さないように注意してください。TVキーまたはビデオ/VCRキーにメーカーコードが設定してある場合は、設定が消えてしまうことがあります。)

工場出荷時の設定に戻すには

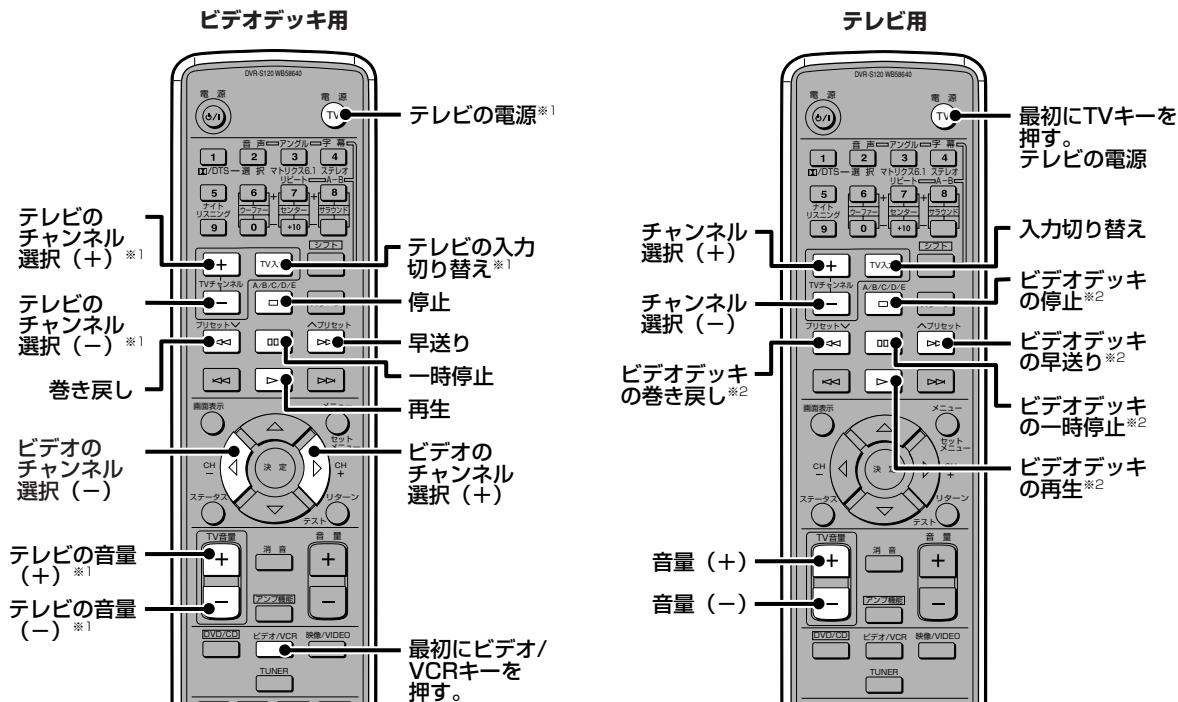
「メーカーコードを設定しよう」の手順②でシフトキーを押しながら、TVキーの設定に戻すには“299”を、ビデオ/VCRキーの設定に戻すには“399”を入力します。(手順③は必要ありません。)

メーカーコードの保持について

乾電池は、使えなくなる前に早めに交換してください。乾電池の寿命がなくなったり、乾電池を取り出した場合、お客様ご自身で設定されたメーカーコードは約2分間保持されますが、2分以上経過すると消えてしまうことがありますのでご注意ください。また、このときリモコンのキーを誤って押すと、メーカーコードが消えてしまうことがありますのでご注意ください。

操作できる機能を知りましょう

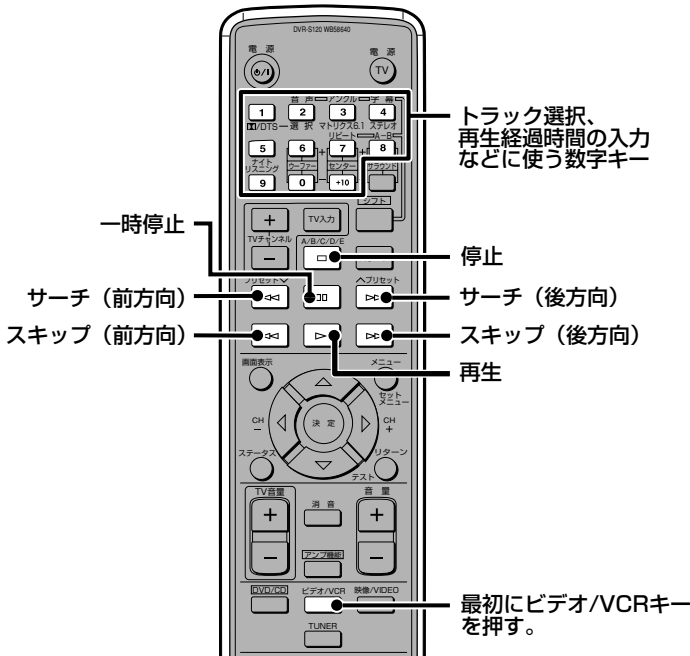
メーカーコードを設定すると、キーの機能が次のようにテレビ用、ビデオデッキ用、MD/CDレコーダー用に切り替わります。



*1テレビのメーカーコードがTVキーに設定されていれば、お手持ちのテレビを操作することができます。

*2ビデオデッキのメーカーコードがビデオ/VCRキーに設定されていれば、お手持ちのビデオデッキを操作することができます。

MD/CDレコーダー用



メーカーコード一覧表

下表のメーカー製品であっても形式や年式によって使用できないものがあります。このような場合は各機器専用のリモコンをお使いください。

テレビ

メーカー名	メーカーコード						
ヤマハ	299	292					
アイワ	294	276	283				
Daewoo	297	298	224	227	228	287	
フナイ	277	278	285				
LG/Goldstar	297	298	239	237			
日立	297	239	242	243			
JVC (ビクター)	296	246	247				
三菱	299	297	259				
NEC	297	252	282	286			
パナソニック	234	235	236	253			
フィリップス	225						
パイオニア	226	235	254	255	268		
Samsung	297	239	248	262	275	286	
サンヨー	295	233	279	272	273	274	
シャープ	292	239	232	284			
ソニー	263						
東芝	292	226	267				

MD/CDレコーダーのリモコンでテレビやビデオデッキ、または

ビデオデッキ

メーカー名	メーカーコード						
ヤマハ	399	392	393	394			
アイワ	396	397	398	329	339		
Daewoo	328	334	335				
フナイ	397						
LG/Goldstar	396	388	392				
日立	325	333	349	342	343		
JVC (ビクター)	392	394	344	345	346	347	
三菱	399	344	348	359	352	353	
NEC	392	394	344	383			
Orion	327						
パナソニック	325	328	355	378	384	385	
パイオニア	325						
Samsung	354	358	363	364	365	366	335
サンヨー	393	336	367	363			
シャープ	395	362	382				
ソニー	368	379	372	373	374	375	
ティアック	392	394	397				

MDレコーダー

メーカー名	メーカーコード		
ヤマハ	599	522	598
デンオン	523	524	
JVC (ビクター)	525		
ケンウッド	526		
オンキヨー	592		
パイオニア	527		
シャープ	528		
ソニー	522		
ティアック	593		

CDレコーダー

メーカー名	メーカーコード		
ヤマハ	499		
デンオン	422	423	
日立	424		
JVC (ビクター)	425	428	
ケンウッド	422		
マランツ	422		
フィリップス	422		
パイオニア	426		
ソニー	427		
ティアック	429		

セットメニューを使いましょう

シネマステーションには、お使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただけるように、セットメニューが用意されています。お使いの環境にあわせて設定を変更してください。

セットメニュー一覧表

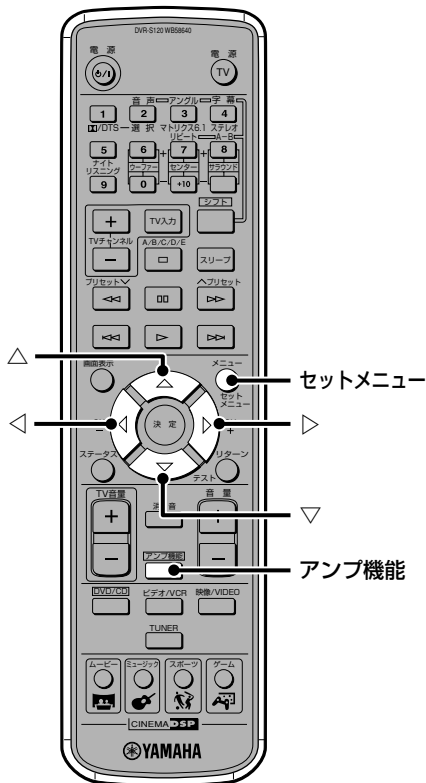
セットメニューには以下の項目があります。

メニュー	サブメニュー	初期設定(値)
*Speaker Set	*CENTER *FRONT *SUR. *BASS *F. Level	SML SML SML SWFR Nrm
*LFE Level	*SP LFE *HP LFE	0dB 0dB
*SP Delay	*CENTER	0ms
*D. Range	*SP D.R *HP D.R	MAX MAX
*L/R Balance	—	中央
*HP ToneCTRL	*HP BASS *HP TRBL	0dB 0dB
*InputAssign	*OPT:	VIDEO
*Input Mode	*MODE	AUTO
*Display set	*DIMMER	0
*Dual Mono	*Dual M	MAIN

アドバイス

- 再生中でも、セットメニューで設定を変更できます。
- 「*Speaker Set」については、「スピーカーモードを設定しましょう」(→P.60)をご覧ください。

セットメニューを操作しましょう



- 1 アンプ機能キーを押します。
- 2 セットメニューキーを押します。
- 3 △キーまたは▽キーを繰り返し押して、設定したいメニューを選びます。
- 4 ◀キーまたは▶キーを押します。
選んだメニューの設定モードに入り、現在の設定がシネマステーションのディスプレイに表示されます。
サブメニューが2つ以上あるときは、△キーまたは▽キーを押して設定したいサブメニューを選びます。
- 5 ◀キーまたは▶キーを繰り返し押して、設定を変更します。
- 6 ほかのメニューを設定する場合は、手順 3～5 を繰り返します。
- 7 セットメニューを終了するときは、セットメニューキーを押します。
音場プログラムキーのどれかひとつを押してもセットメニューを終了できます。

LFE 信号の再生レベルを調節するには *LFE Level

ドルビーデジタルやDTS、AACの再生中に、LFEチャンネルの出力レベルを調節します。使用するサブウーファーとヘッドホンの性能に応じて、LFEレベルを調節してください。

サブメニュー：SP LFE、HP LFE
可変範囲(dB)：-20 ~ 0dB
初期設定：0dB

センタースピーカーのディレイタイムを設定するには *SP Delay

センタースピーカーの音響遅延時間(ディレイタイム)を設定できます。ドルビーデジタルやDTS、AAC再生時など、センタースピーカーから音を出すときに有効です。

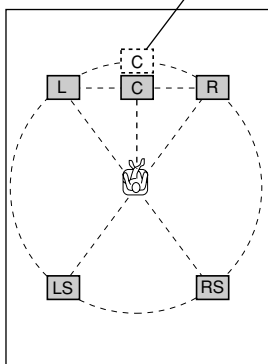
通常、センタースピーカーはフロントL、Rスピーカーと同一線上に置きますが、3本のスピーカーから同時に出た音がリスナーの耳に同時に届くように、3本のスピーカーとリスナーの距離を同一にするのが理想的です。

ディレイタイムを設定することで、仮想的にセンタースピーカーの位置を遠ざけ、リスナーと3本のスピーカーとの距離を合わせることができます。センターディレイは、音場の奥行き感やセリフの量感を増す効果があります。

可変範囲(ms)：0 ~ 5ms
初期設定：0ms

▷キーを押すとスピーカーの仮想的な位置が遠くなり、
◁キーを押すと近くなります。

仮想センタースピーカーの位置



アドバイス

- 目安としては、ディレイタイムを1ms増すと視聴位置からスピーカーを約30cm遠ざけることとなります。

ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジを設定するには *D. Range

ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジ(最大音量から最小音量までの幅)を3段階から選ばず。

サブメニュー：SP D.R、HP D.R
選択項目：MAX(最大)、STD(標準)、MIN(最小)
初期設定：MAX

MAX：ソースのダイナミックレンジを最大限に再生します。

STD：ソフト製作者が家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

MIN：小音量でも聴きやすく、深夜の視聴に適したダイナミックレンジです。

注意

- ドルビーデジタルソフトによっては、ダイナミックレンジのMINに対応していないため、音量が極端に下がることがあります。その際は、ダイナミックレンジをMAXまたはSTDに設定してください。

フロントスピーカーの音量バランスを調整するには *L/R Balance

フロントL、Rスピーカーの音量バランスを設定できます。設定した音量バランスは、ヘッドホン使用時にも適用されます。

可変範囲：左右に10段階
初期設定：中央

▷キーを押すとフロントLスピーカーの音が小さくなり、◁キーを押すとフロントRスピーカーの音が小さくなります。一方のチャンネルの音だけを完全に消すことはできません。

ヘッドホンの音質を調整するには *HP ToneCTRL

ヘッドホンの低音域(BASS)や高音域(TRBL)を調節できます。

サブメニュー：HP BASS、HP TRBL
可変範囲(dB)：-6 ~ +3
初期設定：0dB

▷キーを押すと低音域または高音域が大きくなります。◁キーを押すと小さくなります。

入力端子の割り当てを変更するには *InputAssign

シネマステーションのオプティカル入力端子をVIDEOまたはVCRに割り当てることができます。VIDEOに割り当てると、オプティカル入力端子につないだ機器を入力選択キーの映像/VIDEOキーで選べるようになり、入力ソース名もVIDEOと表示されます。

VCRに割り当てると、オプティカル入力端子につないだ機器を入力選択キーのビデオ/VCRキーで選べるようになります。入力ソース名もVCRと表示されます。

選択項目：VIDEO、VCR
初期設定：VIDEO

電源を入れたときの入力モードを設定するには *Input Mode

デジタルとアナログ両方の端子に機器をつないでいる場合に、電源を入れたときの入力モードを設定します。

選択項目：AUTO、LAST
初期設定：AUTO

AUTO：シネマステーションの電源を入れると入力モード設定が自動的に「AUTO」に設定されます。

LAST：最後に選んでいた入力モードが、そのまま適用されます。

シネマステーションのディスプレイの明るさを調節するには *Display set

シネマステーションのディスプレイの明るさを調節できます。

可変範囲：-4～0
初期設定：0

◀キーを押すとディスプレイが暗くなり▶キーを押すと明るくなります。

二重音声出力時の出力モードを変更するには *Dual Mono

BSデジタル放送などで使われる、二重音声出力時の主音声と副音声の出力モードを設定できます。

選択項目：MAIN、SUB、ALL
初期設定：MAIN

MAIN：主音声のみをフロントL、Rスピーカーから出力します。

SUB：副音声のみをフロントL、Rスピーカーから出力します。

ALL：主音声と副音声をフロントL、Rスピーカーからそれぞれ同時に出力します。PCM信号が入力されている場合のフロントL、Rチャンネルへの音声の振り分けは、BSデジタルチューナー側の設定によって異なります。詳しくはBSデジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください。

注意

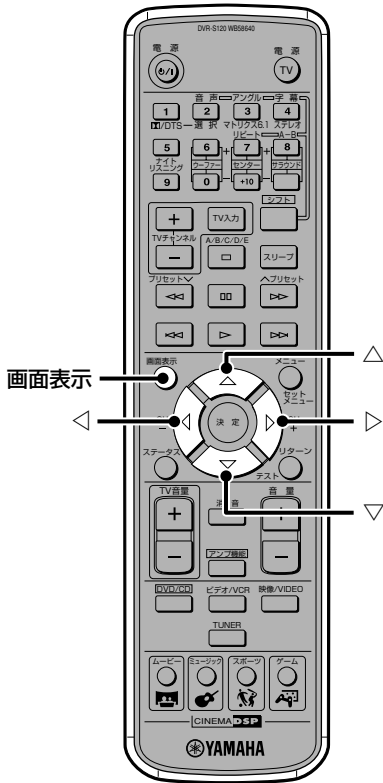
- モノラルでない二重音声出力は、本機では設定できません。BSデジタルチューナー側で設定してください。
- AAC、ドルビーデジタル信号の二重音声(デュアルモノ)信号およびAACの多重音声(マルチモノ)信号の受信時のみ、この設定が有効になります。ただし、AAC多重音声の第3、第4チャンネルを選ぶことはできません。BSデジタルチューナー側で設定してください。
- 地上波放送などのアナログやPCM信号での二重音声は、チューナーやビデオデッキ側で音声の主/副を選んでください。

オンスクリーンメニューを使いましょう

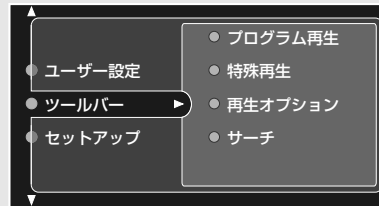
より快適にDVD再生を行っていただくために、オンスクリーンメニューにはさまざまな設定が用意されています。

オンスクリーンメニューを操作しましょう

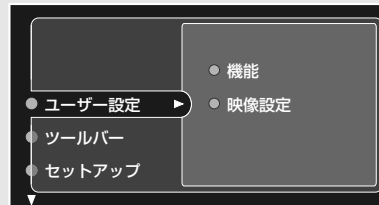
例として、彩度の設定を行ってみましょう。



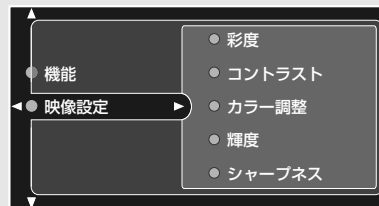
1 画面表示キーを押します。



△キーまたは▽キーを押してメインメニューから「ユーザー設定」を選びます。



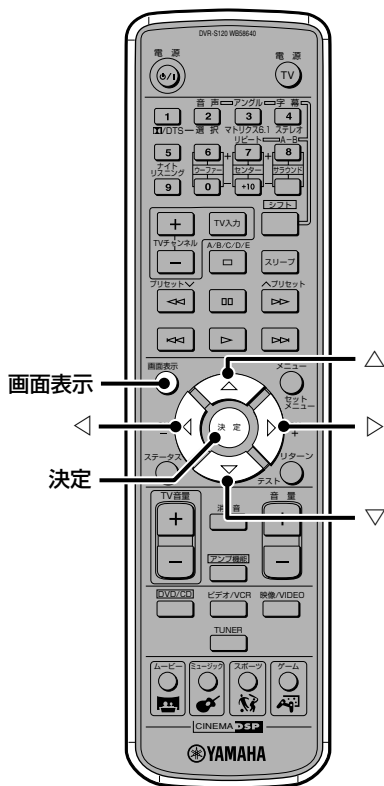
2 ▷キーを押してサブメニューから「映像設定」を選びます。



アドバイス

- ほかのサブメニューを選ぶときは、▷キーを押してから△キーまたは▽キーを押します。

オンスクリーンメニューを使いましょう



3 ▶ キーを押して設定項目に入ります。

- 彩度
- ▲ コントラスト
- ▶ ● カラー調整
- ナチュラル
- ▼ 輝度
- シャープネス

4 ▲キーまたは▼キーを押して設定項目から「彩度」を選びます。

- ▲ 画面位置補正
- ▶ ● 彩度
- 0
- ▼ コントラスト
- カラー調整
- 輝度

5 ◀キーまたは▶キーを押して設定し、決定キーを押します。

- ▲ 画面位置補正
- ▶ ● 彩度
- ◀ | ▶ +2
- ▼ コントラスト
- カラー調整
- 輝度

アドバイス

- 設定内容によっては、△キーまたは▽キーも使う場合があります。

6 設定が終わったら、画面表示キーを押してオンスクリーンメニューを閉じます。

ほかの設定も同様の手順で行ってください。

オンスクリーンメニューの内容を知りましょう

メインメニュー	サブメニュー	設定項目	設定内容
ユーザー設定	機能	ステータス表示	ステータス表示は、ディスクの種類、再生中のトラック（チャプター）番号、トラックの総再生時間や再生経過時間などをテレビ画面に表示する機能です。オンにするとリモコンのステータスキーでステータス表示のオン／オフができます。オフにするとステータス表示がテレビ画面に出なくなります。
		映像設定	
	画面位置補正	画面の位置を+1～+7まで調節できます。数値を大きくするほど画面が右に移動します。	
	彩度	-7～+7まで調節できます。映像の彩度を調節します。	
	コントラスト	-7～+7まで調節できます。映像の明るい部分と暗い部分の強弱をつけます。	
	カラー調整	「リッチ」、「ナチュラル」、「ソフト」、「アニメ」には、それぞれに適切な彩度、コントラスト、輝度、シャープネスが設定されているのでワンタッチでカラーを調整できます。「パーソナル」を選ぶと、彩度、コントラスト、輝度、シャープネスをお好みに応じて調節でき、ユーザーご自身の設定が作れます。	
	輝度	-7～+7まで調節できます。映像の明るさを調節します。	
シャープネス	-7～+7まで調節できます。映像の鮮明度を調節します。		
ツールバー	プログラム再生	全消去	プログラム内容を消去します。→P.33
		トラック選択	トラックを選びます。→P.31
		プログラム再生	プログラム再生のオン／オフを選びます。→P.33
		プログラムリスト	プログラムのリストを表示します。→P.33
	特殊再生	ズーム	画像を拡大します。◀、▶、△、▽キーを押して、拡大したい部分に+マークを置き、決定キーを押します。決定キーを押すたびに倍率が変わります。元のサイズに戻すにはZoom1を選び、画面表示キーを押します。
		アングル切替	画像のアングルを切り替えます。
		チャプタープレビュー	オン／オフを設定します。オンにすると各チャプターの冒頭を順番に再生（プレビュー）します。
	再生オプション	音声言語	音声の言語を選びます。
		ディスクナビ	タイトルやチャプター、またはトラックを選ぶと、そこから再生が始まります。
		字幕言語	字幕の言語を選びます。ディスクに収録されていない字幕言語は選べません。
	サーチ	コマ送り	1画面ずつ前方向／後方向へコマ送りします。ビデオCDでは前方向へのコマ送りはできません。
		早送り	速度を-8、-4、1、4、8から選びます。マイナス速度は前方向へ、プラス速度は後方向へ早送りします。
		タイムサーチ	経過時間を指定して場面を探します。→P.30
スロー再生		速度を-1、-1/2、-1/4、-1/8、0、1/8、1/4、1/2、1から選びます。マイナス速度は前方向へ、プラス速度は後方向へスロー再生します。	

メインメニュー	サブメニュー	設定項目	設定内容
セットアップ	視聴制限	ディスクロック	オン/オフを設定します。→ P.80
		視聴制限レベル	0～+8まで設定できます。→ P.78
		パスワード入力	パスワードを入力します。→ P.78
		パスワード変更	パスワードを変更します。→ P.79
	TV設定	TVアスペクト	お使いのテレビのサイズに合わせて設定します。 4:3 パン&スキャン 4:3 レターボックス ワイドスクリーン
		出力映像タイプ	お使いのテレビの映像方式*に合わせてPAL、NTSCまたはオートを選びます。日本国内では通常、NTSCを選びます。マルチシステムテレビ（PAL/NTSC両システムに対応）をお使いの場合は、オートを選びます。 NTSCまたはPALのテレビをお使いの場合は、正しく設定しないと映像やメニューが正確に表示されなかったり、まったく映らなくなりますのでご注意ください。このような場合は、次のように操作してもとの設定に戻してください。 1 DVD/CD キーを押します。 2 ディスプレイに「NTSC ↔ PAL」が表示されるまで、□キーを約5秒間押し続けます。 3 ■■キーを押します。 ディスプレイに「NTSC/PAL SET」が表示され、もとの設定に戻ります。
	言語設定	デフォルト言語字幕	いつも見る字幕言語を選びます。ディスクを再生するとここで選んだ言語の字幕が出ます。 選んだ言語の字幕がディスクに収録されていない場合は、再生してもその言語の字幕は出ません。
		国コード	お住まいの国名を選びます。
		メニュー言語	メニュー表示に使う言語を選びます。
		デフォルト音声言語	いつも見る音声言語を選びます。ディスクを再生するとここで選んだ言語の音声になります。 選んだ言語の音声はディスクに収録されていない場合は、再生してもその言語の音声にはなりません。
オーディオ	デジタル出力	オプティカル出力端子から出力する信号を選びます。シネマステーションのスピーカーから出る音もこの設定に応じて切り替わります。 All：本機で再生できるすべてのデジタル信号を出力します。 PCM Only：プロロジック処理された信号だけを再生します。	
機能	PBC	プレイバックコントロール機能のオン/オフを設定します。オフにするとディスクメニューはテレビ画面に表示されません。	

* シネマステーションではPALとNTSC両システムのディスクを再生することができますが、お使いのテレビが再生するディスクのシステムに対応している必要があります。

故障かな？と思ったら

使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や、対処しても正常に作動しない場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

全般

電源を入れてもすぐに切れてしまう。

- 原因？ 1** 電源プラグの接続が不完全。
解決方法 電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。
- 原因？ 2** スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路が作動し電源が切れた。
解決方法 すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- 原因？ 3** 本機が落雷や過度の静電気など、外部からの強い電気ショックを受けた。
解決方法 本機をスタンバイ状態にし、電源コードを抜いて、約 30 秒経ってから差し込み直して、電源を入れてください。
- 原因？ 4** システム接続ケーブルの接続が不完全。
解決方法 システム接続ケーブルをしっかり差し込んでください。

音が出ない。

- 原因？ 1** 接続が不完全。
解決方法 接続を確認してください。
- 原因？ 2** 再生するソースの選択が適切でない。
解決方法 入力選択キーで正しく選択してください。
- 原因？ 3** スピーカーの接続が不完全。
解決方法 スピーカーの接続を確認してください。

- 原因？ 4** 音量が絞られている。
解決方法 音量を大きくしてください。

- 原因？ 5** 消音されている。
解決方法 リモコンの消音キーまたは音量 + / - キーなどを押して消音を取り消し、音量を調節してください。

- 原因？ 6** 本機で再生できない CD-ROM などを再生している。
解決方法 本機で再生可能な信号のソースを再生してください。

画像が表示されない。

- 原因？** 接続が不完全。
解決方法 接続を確認してください。

音声が突然出なくなる。

- 原因？** スリープタイマーが作動した。
解決方法 電源を入れて、ソースを再生しなおしてください。

片側チャンネルの音がほとんど出ない。

- 原因？** 接続が不完全。
解決方法 接続を確認してください。

困ったときやもっと詳しく知りたいときには…

フロントスピーカー以外のスピーカーから音が出ない。

原因? 1 ステレオ再生になっている。

解決方法 ステレオキーを押して、音場効果をオンにしてください。

原因? 2 ドルビーサラウンドやドルビーデジタル、DTS、AAC 信号でエフェクト信号が入っていないソースを再生している。

解決方法 別の音場プログラムを選択してください。

原因? 3 サンプリング周波数 48kHz を超えるデジタル信号が入力されている。
(サンプリング周波数 48kHz を超えるデジタル信号を入力すると、フロントスピーカーからのみ音が出ます。)

センタースピーカーから音が出ない。

原因? 1 センタースピーカーの音量レベルが最小まで絞られている。

解決方法 センタースピーカーの音量レベルを上げてください。(→P.58)

原因? 2 セットメニューの「*CENTER」がNONになっている。

解決方法 センタースピーカーモードを正しく設定してください。(→P.61)

原因? 3 ミュージックグループの音場プログラム (5ch Stereo を除く) を選択している。

解決方法 別の音場プログラムを選択してください。(→P.16)

原因? 4 ドルビーデジタルまたは DTS、AAC ソースにセンターチャンネル信号が含まれていない。

解決方法 -

サラウンドスピーカーから音が出ない。

原因? 1 サラウンドスピーカーの音量レベルが最小まで絞られている。

解決方法 サラウンドスピーカーの音量レベルを上げてください。(→P.58)

原因? 2 音場プログラムの Theater でモノラルソースを再生している。

解決方法 別の音場プログラムを選択してください。(→P.16)

サブウーファーから音が出ない。

原因? 1 セットメニューの「*BASS」を FRONT にしたまま、ドルビーデジタルや AAC、DTS ソースを再生している。

解決方法 SWFR または BOTH に設定してください。(→P.61)

原因? 2 セットメニューの「*BASS」を SWFR または FRONT にしたまま、2 チャンネルソースを再生している。

解決方法 BOTH に設定してください。(→P.61)

原因? 3 ソースに LFE などの低音信号 (90Hz 以下) が含まれていない。

解決方法 -

低音の再生不良。

原因? セットメニューのスピーカーモード設定がお使いのスピーカー構成と一致していない。

解決方法 お使いのスピーカーのサイズに応じて、適切なスピーカーモードに設定してください。(→P.60)

ハム音 (ブーンという雑音) が出る。

原因? ピンケーブルの接続が不完全。

解決方法 ピンケーブルの接続を確認してください。

音量を上げることができない。または、音が歪んでいる。

原因? 本機の出力端子に接続している機器の電源が入っていない。

解決方法! 出力端子と接続している機器の電源が切れていると、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。接続機器の電源を入れてください。

音場効果を加えた音を録音できない。

原因? 音場効果を加えた音は録音できません。

録音できない。

原因? 1 デジタル録音時にアナログソースを入力している。

解決方法! デジタルソースを入力してください。

原因? 2 本機と録音機器がデジタル接続されていない。

解決方法! デジタル接続してください。

原因? 3 アナログ録音時にデジタルソースを入力している。

解決方法! アナログソースを入力してください。

原因? 4 本機と再生機器および録音機器が、アナログ接続されていない。

解決方法! アナログ接続をしてください。

原因? 5 録音機器によっては、ドルビーデジタルやDTS、AACなどのデジタルソースを録音できません。

本機が正常に作動しない。

原因? 内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によってフリーズしている。

解決方法! コンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。

デジタル機器や高周波機器から雑音が出る。

原因? 本機がデジタル機器または高周波機器に接近しすぎている。

解決方法! 本機をそれらの機器から離して設置してください。

セットメニューなどの設定内容が消えている。

原因? 1週間以上電源コンセントを抜いたり、外部タイマーが切れたままになっていた。

解決方法! 1週間以上電源コンセントを抜いたままにすると、内蔵メモリーの内容が消えてしまうことがあります。もう1度設定し直してください。

ディスク再生

操作できない。

原因? ディスクによっては、特定の操作を禁止している場合がある。

▷ キーを押しても、再生が始まらない。(または、すぐに停止する。)

原因? 1 寒いところから急に暖かいところに持ってきて、レンズ部に露が付いた。

解決方法? 1～2時間放置してください。

原因? 2 再生できないディスクが入っている。

原因? 3 ディスクが汚れている。

解決方法? きれいに拭いてください。

原因? 4 ディスクが正しくセットされていない。

解決方法? ディスクを正しくセットしてください。(→P.11)

音声 / 字幕言語が切り替えられない。

原因? 1 複数の言語が入っていないディスクでは切り替えできない。

原因? 2 音声 / 字幕切り替え操作では切り替えできないディスクでも、ディスクメニュー画面で切り替えできる場合がある。(→P.36)

字幕が出ない。

原因? 1 字幕の入っていないDVDでは字幕が表示されない。

原因? 2 字幕が“None”になっている。

解決方法? 字幕を選んでください。(→P.13)

原因? 3 A-Bリピート再生のA点やB点の前後では、字幕が表示されないことがある。

アングルを変えて見るができない。

原因? 複数のアングルが記録されている場面でのみ切り替えることができる。

ビデオで録画できない。

原因? ほとんどのDVDビデオディスクはコピー禁止処理がされていて、録画できない。

早送り / 早戻しをすると画像が乱れる。

原因? 多少乱れることがあるが、故障ではない。

テレビ (モニター) に映像が映らない。(または画面サイズがおかしい。)

原因? 1 オンスクリーンメニューの「セットアップ」の「TV設定」が正しく設定されていない。

解決方法? 設定を確認してください。(→P.92)

原因? 2 テレビがプログレッシブ入力に対応していない。

解決方法? 本機のプログレッシブ出力をオフにして、テレビにインタレース入力してください。(→P.77)

プログレッシブ出力時に映像の一部が二重にぶれて見える。

原因? 映像ソフトそのものの編集方法や素材の状態に起因する症状です。(インタレース出力(525i)では問題なく再生できます。)

解決方法? 本機のプログレッシブ出力をオフにして、テレビ(モニター)にインタレース入力してください。(→P.77)

画質がよくない。

解決方法? オンスクリーンメニューの「映像設定」で画質を調節してください。(→P.91)

ステータス表示が出ない。

解決方法? オンスクリーンメニューの「ユーザー設定」の「機能」で「ステータス表示」を「オン」にしてください。(→P.91)

ディスクをセットしてもディスクトレイが出てくる。

原因? DVD オーディオなど、シネマステーションでは再生できないディスクをセットした。

本体ディスプレイに “No Disc” と表示される。

原因? ディスクが入っていないか、ディスクが正しくセットされていない。

解決方法 ディスクを正しくセットしてください。(→P.11)

FM/AM放送の受信

FM/AM

プリセット選曲ができない。

原因? 1 プリセット(メモリー)が消えている。

解決方法 もう一度プリセットしてください。(→P.41)

FM

ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい。

原因? FM 放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力弱い場合に起きる。

解決方法 1 アンテナの接続を確認してください。FM 屋外アンテナを多素子のものに変えてください。

解決方法 2 マニュアル選局をしてください。(→P.40)

FM 屋外アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い。

原因? マルチパス(多重反射)などの妨害電波を受けている。

解決方法 アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。

オート選局ができない。

原因? FM 放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力弱い場合に起きる。

解決方法 1 マニュアル選局をしてください。(→P.40)

解決方法 2 屋外アンテナを多素子のものに変えてみてください。

AM

オート選局ができない。

原因? 電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。

解決方法 1 AM ループアンテナの方向を変えてください。(→P.38)

解決方法 2 マニュアル選局をしてください。(→P.40)

「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る。

原因? 空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。

解決方法 AM 屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。

「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る(特に夕方に)。

原因? 本機の近くでテレビを使用している。

解決方法 本機からテレビを離してください。

リモコン

リモコンで操作できない。

原因? 1 リモコン操作範囲から外れている。

解決方法 本体のリモコン受光窓から6m以内、角度30°以内の範囲で操作してください。

原因? 2 本機のリモコン受光窓に直射日光や照明（インバーター蛍光灯など）が当たっている。

解決方法 照明、または本体の向きを変えてください。

原因? 3 乾電池が消耗している。

解決方法 乾電池をすべて交換してください。

原因? 4 操作する機器が選択されていない。

解決方法 入力選択キーを押して、操作したい機器を選択してください。

本機がリモコンで操作できない。

原因? 本機を操作できるモードに切り替わっていない。

解決方法 リモコンのDVD/CDキー、アンプ機能キー、またはTUNERキーを押してから操作してください。

外部機器がリモコンで操作できない。

原因? 1 システムコンポーネントは操作できません。

解決方法 お使いの機器に付属するリモコンで操作してください。

原因? 2 メーカーコードが正しく設定されていない。

解決方法

- メーカーコードを設定し直してください。（→P.81）
- 同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。（→P.83）

原因? 3 メーカーコードを正しく設定しても、メーカーまたはモデルによっては操作できないことがあります。

解決方法 お使いの機器に付属するリモコンで操作してください。

ディスクについて




本機は下記のディスクを再生できます。本機の故障やディスクの破損の原因となりますので、これ以外のディスクは使用しないでください。

シネマステーションで再生できる映像ディスク

ディスクの種類	ディスクのロゴマーク
DVD ビデオ	 
SVCD (スーパービデオ CD)	
ビデオ CD	市販のビデオ CD  
	マイビデオ CD   MPEG 形式の動画ファイルを CD-R や CD-RW に書き込んで、ビデオ CD として再生できます。

DVDのリージョンコードについて

一般のDVDプレイヤーとDVDビデオディスクにはリージョンコード(発売地域ごとに割り当てられた識別番号)が決められています。本機では右表のディスクが再生できません。詳しくはディスクのジャケットなどの記載もご覧ください。

仕向	本機のリージョンコード	再生できるディスクのリージョンコード
日本		  または複数のリージョンコードに2が入っているディスク

シネマステーションで再生できる音楽ディスク

ディスクの種類	ディスクのロゴマーク
音楽 CD (コンパクトディスクデジタルオーディオ)	市販の音楽 CD 
	マイ音楽 CD   ご自分で書き込んだ CD-R や CD-RW を音楽 CD として再生できます。MP3 形式の音声も再生できます。

アドバイス

- ディスクのロゴマークは、ディスクやディスクジャケットに印刷されています。

困ったときやもっと詳しく知りたいときには…

注意

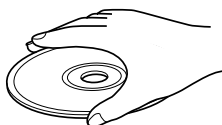
- 下記のディスクを本機で再生することはできません。CD-ROM、DVD-ROM、CDVなど。(DVD-R、DVD-RW(ビデオフォーマットのみ)、DVD+R、DVD+RWについてはディスクによっては再生できる場合があります。)
- ファナライズされていないCD-RやCD-RW、DVD-R、DVD-RW、DVD+Rディスクは再生できません。ファナライズとは、再生対応機器で再生できるように処理することです。
- 信用できるメーカーのディスクを使用してください。録音状態やディスクの特性によっては、再生できない場合があります。
- ハート型などの特殊形状のディスクは使用しないでください。



- DVDビデオ、ビデオCDの中には操作や機能が本書の記載と異なる場合があります。これはソフト制作者の意図によるもので、本機の故障ではありません。詳しくはディスクのジャケットなどの記載もご覧ください。
- 上記ロゴマークの入ったものなど、それぞれの規格に合致したディスクをご使用ください。それ以外のディスクは、本機の故障やディスクの破損の原因となりますので使用しないでください。
- 記録方法(PC環境やソフトウェアなど)やディスクの状態(傷やそりがあるなど)によっては再生できない場合があります。

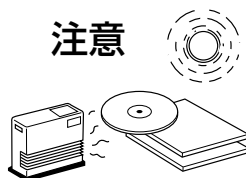
ディスクの取扱いについて

- ディスクを持つときは、ディスクの縁や真中の穴を持つようにして、表面に触れないでください。

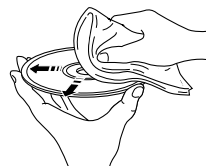


- 再生時以外はディスクをトレイに入れたままにしないでください。
- ディスクに鉛筆などで字を書かないでください。
- ディスクにテープやシールなどを貼ったり、のりなどをつけないでください。
- 傷つき防止用のプロテクターなどは使わないでください。
- 市販のラベルプリンターで表面に印刷したディスクは使わないでください。

- ディスクを保管する際には、直射日光のあたるところや温度の高いところ、湿気やほこりの多いところは避けてください。



- ディスクが汚れたときには、乾いた柔らかい布で中心から外側へふいてください。レコードクリーナーやシンナーなどは使わないでください。



- 誤動作の原因になるため、市販のレンズクリーナーなどは使わないでください。

音楽を楽しむエチケット



楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬと

ころに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

著作権とロゴマーク

ディスクを無断で複製、放送、公開演奏、レンタルすることは法律により禁じられています。

本製品は、著作権保護技術を採用しており、マクロビジョン社及びその他の著作権利者が保有する米国特許及びその他の知的財産権によって保護されています。

この著作権保護技術の使用は、マクロビジョン社の許可が必要で、またマクロビジョン社の特別な許可がない限り家庭用及びその他の一部の鑑賞用の使用に制限されています。分解したり、改造することも禁じられています。

「サイレントシアター/SILENT THEATER」は、ヤマハ株式会社の登録商標です。



サブウーファー(NX-SW120)は豊かな重低音を再生する、アドバンスドヤマハアクティブサーボテクノロジーを搭載しています。



ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」およびダブルD記号DDは、ドルビーラボラトリーズの商標です。



AACロゴマークはドルビーラボラトリーズの商標です。以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5,297,236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5,400,433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5,752,225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729



DTSおよびDTSデジタルサラウンドはデジタルシアターシステムの登録商標です。

MPEG Audio Layer3音声圧縮技術は、Fraunhofer USおよびTHOMSON multimediaからライセンスを受けています。

用語解説

あ

インタレース

一画面の走査線を奇数段、偶数段にわけ、交互に表示する走査方式です。通常のテレビに使われている走査方式です。

Sビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すC信号に分けて伝送する方式です。Sビデオ端子で接続すると、より美しい映像で録画／再生をお楽しみいただけます。

か

コンポーネントビデオ信号

映像信号を「輝度を表す信号：Y信号」と「色を表す信号：PB/CBおよびPR/CR信号」の3系統に分けて伝送します。それぞれの信号を独立して伝送するため、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色信号から輝度信号を引いているので色差信号とも呼ばれます。

さ

サイレントシアター

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

サンプリング周波数 / 量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）をおこなう回数をサンプリング周波数といい、音の大きさを数値化するときのきめの細かさを量子化ビット数といいます。再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、音量の差を表わすダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まります。原理的には、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることとなります。

シネマ DSP (デジタル・サウンドフィールド・プロセッサー)

ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。

ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせることで音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

た

タイトル、チャプター (DVDビデオ)

DVDビデオは、いくつかの大きな区切り（タイトル）と小さな区切り（チャプター）に分けられています。それぞれの区切りの番号を、タイトル番号、チャプター番号と呼びます。

ダイナミックレンジ

機器が出す雑音にうもれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

チャンネル (ch)

出力される音域や特性によって区別された音声の種類です。

例) 5.1 チャンネル

- フロントスピーカー [L (1ch)/ R (1ch)]
- センタースピーカー (1ch)
- サラウンドスピーカー [L (1ch)/ R (1ch)]
- サブウーファー [1ch × 0.1* = 0.1ch]

* フル帯域の1チャンネルに対し、効果的な場面で低音を増強するために録音されるので、0.1とカウントされます。

D端子

最新のAV機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号（走査線、アスペクト比、インタレース／プログレッシブの情報）を、一本の専用ケーブルで接続できます。その性能に応じてランクがD1からD5に分けられています。本機にはD1/D2モニター出力端子が装備されており、テレビのD2～D5端子につなぐと、プログレッシブ映像が楽しめます。D1端子につなぐとインタレース映像になります。

デコーダー

ドルビーデジタルやDTSのビットストリーム信号を5.1chなどの音声に戻す装置。この処理をデコードといいます。

DTS (デジタル・シアター・システムズ)

多くの映画館で採用されている最大5.1チャンネルのサラウンドシステムです。情報量が多いので、リアルな音響効果が得られます。

トラック (CD/ビデオCD)

CD、ビデオCDは、いくつかの区切り(トラック)に分けられています。これらの区切りの番号をトラック番号と呼びます。

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロントの3チャンネル(メインL/R、センター)と、サラウンドのステレオ2チャンネル、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。サラウンドがステレオ2チャンネルで収録されているため、音の移動感、木々のざわめきや波の音などの繊細な環境音も明確に再現できます。

ドルビープロロジック

4チャンネル信号を2チャンネルに記録し、演算処理により、再び4チャンネルの独立した信号を再生するサラウンドシステムです。

ドルビープロロジック II

2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMOVIEモードと、音楽などのステレオソース用のMUSICモードが用意されています。従来の2チャンネル音声(モノラル音声を除く)だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

は

バーチャルシネマ DSP (デジタル・サウンドフィールド・プロセッサ)

仮想的にサラウンドスピーカーの音場を再現することで、センター、サラウンドL、Rスピーカーなしでも、フロントL、Rスピーカーだけで音場プログラムを楽しめます。

パン&スキャン/レターボックス

一般的にDVDビデオは、ワイドテレビ画面(画面の横縦比は16:9)での再生を想定して作られています。したがって、ワイドテレビでは、記録されたイメージ通りの映像を見ることができません。

このようなDVDビデオの映像を4:3のテレビ画面に映し出そうとすると、16:9の映像が4:3の画面に収まらなくなります。この問題を解決するための映像方式がパン&スキャン、あるいはレターボックスと呼ばれるものです。

- パン&スキャン
映像の左右をカットして、画面全体に映し出します。
- レターボックス
画面の上下に黒い帯を入れて、4:3の画面で16:9の映像を再現します。

ビットストリーム

圧縮され、デジタルに置き換えられた信号です。デコーダーを使うことで、5.1chなどのマルチチャンネル音声を楽しむことができますようになります。

フィルム素材/ビデオ素材

DVDソフトの映像情報は、一般的に以下の2種類があります。

- フィルム素材
映像情報が24コマ/秒で記録されているもの。(映画撮影で使われるフィルムには、24コマ/秒で画像が記録されています。)最近では30コマ/秒で記録されたプログレッシブ映像も登場しつつあります。
- ビデオ素材
映像情報が30コマ/秒で記録されているもの。本機は、DVDソフトに記録された映像情報がフィルム素材かビデオ素材かを判別し、それぞれに最適な方法でプログレッシブ出力に変換します。

プログレッシブ

一画面のすべての走査線を、一度に表示する走査方式です。走査線を奇数段、偶数段にわけ、交互で表示するインターレースに比べ、ちらつきの少ない、滑らかな映像を映し出すことができます。

ま

マトリクス6.1

本機は5.1チャンネルのソースにサラウンドバックチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にするドルビーデジタルやDTS、AACマルチチャンネルソフト対応のマトリクス6.1デコーダーを内蔵しています。(サラウンドバックチャンネルはサラウンドL、Rチャンネルから作られます。)この追加チャンネルにより、特に飛び越えたり飛び回ったりといった動きのあるシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音をお楽しみいただけます。

5

リニアPCM (LPCM)

圧縮せずにデジタル信号に置き換えられた信号です。CDでは、44.1kHz/16bitで記録されているのに対し、DVDでは48kHz/16bit～192kHz/24bitで記録されているので、CDよりも高音質で再生できます。また、この信号を、情報量を損なうことなく圧縮したものをパケットPCM (P.PCM) といいます。

A

AAC (アドバンスト オーディオ コーディング)

MPEG-2 オーディオ規格の1つで、BSデジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。

本機はAACデコーダーを搭載しているので、BSデジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声を楽しむことができます。

L

LFE (ローフリクエンシーエフェクト) 0.1チャンネル

音声成分の帯域が20～120Hzの、低音域専用チャンネルです。ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の5チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

N

NTSC/PAL方式

NTSCとPALは世界の多くの国や地域で採用されている映像方式で、テレビの映像方式やディスクなどの録画方式のことです。PALはヨーロッパで多く採用され、NTSCは日本を含むアジア、北・中南米で多く採用されています。

NTSCの走査線は525本で、毎秒30フレームの画像を送る方式です。

PALの走査線は625本で、毎秒25フレームの画像を送る方式です。

索引

ア

アンテナをつなぐ	38
オリジナルサウンドを再生する (ドルビーデジタル、ドルビープロロジック、DTS、AAC)	71
音場プログラム	17
音場を選ぶ	16
オンスクリーンメニュー	24
使い方	89
内容	91

カ

固定テープ	51
コマ送り	29

サ

サイレントシアター	67
視聴制限	78
ステレオ再生	72
スピーカーの音量レベル	56, 58
音場プログラム 5ch Stereo	59
スピーカーのサイズと有無	60
スピーカーの設置場所	7
スピーカーモード	60
スピーカーをつなぐ	8
滑止パッド	51, 52
スリープタイマー	76
スロー再生	29
セットメニュー	85

タ

タイムサーチ	30
ディスク	99
再生できないディスク	100
再生できる映像ディスク	99
再生できる音楽ディスク	99
取扱い	100
ディスクメニュー	36
ディスクロック	80
ディスクを交換する	12
ディスプレイの明るさ	88
ディレイタイム	69
デジタル音声端子	49
テストトーン	56
テレビをつなぐ	8
テレビ番組の音声を楽しむための	
つなぎ方	46
ドルビーデジタルサラウンドEX ディスク	62

ナ

ナイトリスニングモード	68
入力信号情報	73
入力端子の割り当て	88
入力モード	75

ハ

バーチャルシネマDSP	66
ビデオデッキをつなぐ	44
プレイバックコントロール (PBC)	36
プログラム再生	31
プログレッシブ機能	77
放送局を入れ替える	43
放送局を選ぶ	39
オート選局	39
プリセット選局	43
マニュアル選局	40
放送局を登録する	41
オートプリセット	41
マニュアルプリセット	42

マ、ヤ

マトリクス 6.1	62
メーカーコードの設定	81

ラ

リージョンコード	99
リピート再生	34
リモコン	
DVD/CDモード	21
アンプモード	21
チューナーモード	21
使い方	21
リモコンでMD/CDレコーダーを操作する	81
リモコンでテレビを操作する	81
リモコンでビデオデッキを操作する	81
録音する	50

記号

5ch Stereo	17
------------	----

困ったときやもっと詳しく知りたいときは…

A、B、C

A-B リピート再生	35
Action	17
Classic Hall	17

D、E、F

Display set	88
Drama	17
D. Range	87
DTS ES ディスク	62
Dual Mono	88

G、H、I、J、K

Game	17
HP ToneCTRL	87
InputAssign	88
Input Mode	88
Jazz Club	17

L

LFE Level	87
Live Sports	17
L/R Balance	87

M

MD レコーダーや CD レコーダーをつなぐ	48
MP3	37
Music Video	17

N、O、P、Q、R

No Disc	97
PRO LOGIC II Music	64
設定値 (パラメーター)	65
PRO LOGIC II Movie	64
Rock Concert	17

S

SF	17
SP Delay	87
Spectacle	17
S ビデオでつなぐ	9

T、U、V、W、X、Y、Z

Theater	17
TV ゲーム機をつなぐ	44

主な仕様

オーディオ部

定格出力	
フロント、センター、サラウンド (1kHz、0.9%THD、6Ω)	45W
サブウーファー (100Hz、0.9%THD、5Ω)	50W
実用最大出力(EIAJ)	
フロント、センター、サラウンド (1kHz、10%THD、6Ω)	55W
サブウーファー (100Hz、10%THD、5Ω)	50W
全高調波歪率	
フロント(20W、1kHz)	0.05%
S/N比(IHF-A、入力ショート)	90dB
入力端子	
VIDEO、VCR	200mV/47kΩ
出力端子(200mV入力時)	
REC OUT	200mV/1.2kΩ

ビデオ部

ビデオ入力信号	
ビデオ	1Vp-p/75Ω
Sビデオ(Y/C)	1Vp-p/0.286Vp-p/75Ω
D1/D2(Y/Pb、Pr)	1Vp-p/0.7Vp-p/75Ω
S/N比	50dB

チューナー部

FM受信周波数範囲	76.0~90.0MHz (0.1MHzステップ)
AM受信周波数範囲	531~1611kHz (9kHzステップ)

スピーカー

サテライト(フロント、サラウンド)	
型名	NX-S120、インピーダンス6Ω
型式	フルレンジ(5cm)、密閉防磁型
センター	
型名	NX-C120、インピーダンス6Ω
型式	フルレンジ(5cm)、密閉防磁型
サブウーファー	
型名	NX-SW120
型式	アドバンスド ヤマハ アクティブ サーボ テクノロジー方式 (16cmウーファー)、防磁型

総合

電源電圧/周波数	100V、50/60Hz
消費電力	
DVR-S120	95W
NX-SW120	25W
待機時消費電力	
DVR-S120	0.4W
寸法(幅×高さ×奥行)	
DVR-S120	360×75×360mm
NX-SW120	200×365×390mm
NX-C120	300×72×105mm
NX-S120	72×170×108mm
質量	
DVR-S120	6.4kg
NX-SW120	8.4kg
NX-C120	1.1kg
NX-S120	0.9kg
動作温度範囲	+5~+35℃
動作湿度範囲	5~90%(結露しないこと)
付属品	6ページをご覧ください

仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

● 保証期間

お買上げ日より1年間です。

● 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご希望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

- ◆ **技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費が含まれています。
- ◆ **部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- ◆ **出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

※ 品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお勧めします。

摩耗部品の交換は必ずお買上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

■ ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問い合わせは

お客様ご相談センター

TEL (0570) 01 - 1808 (ナビダイヤル)

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。

TEL (053) 460 - 3409

FAX (053) 460 - 3489

住所 〒430-8650

静岡県浜松市中沢町 10-1

ご相談受付時間 10:00~12:00, 13:00~18:00

(日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

■ ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせは

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512 - 6108

仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
TEL (022) 236 - 0249

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
TEL (03) 5762 - 2121

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
TEL (053) 465 - 6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL (052) 652 - 2230

大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL (06) 6877 - 5262

四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7
(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
TEL (087) 822 - 3045

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472 - 2134

愛情点検



★永年ご使用のAV製品の点検を!

こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感ずる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/audio/>

ヤマハでは、製品をご購入いただきましたお客様へのサポート・サービスの充実を図るため、「お客様登録」をお願いしております。以下のシネマステーションホームページから登録ください。

<http://www.CinemaStation.com>

上記 URL から、「日本>ユーザー登録」へお進みください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1